

三陸津浪に因る

被害町村の復興計畫報告書

昭和九年三月

内務大臣官房都市計畫課

216554

序 言

昭和八年三月三日午前二時三十一分に起りし三陸沖地震の後約三十分にして、三陸地方沿岸部落は津浪の襲來を受け、或は浸水し或は高波の破壊的衝撃を被り、爲に宮城縣に於ける 18 箇町村、岩手縣に於ける 36 箇町村は其の被害甚大にして、家屋の流失倒壊、耕地の流失、土木工作物の破壊、船舶漁具の喪失せるもの算なく、殊に其の死傷者は宮城縣に於て 471 人岩手縣に於て 3,536 人に及びたり。

國に於ては直に罹災地に於ける救護事業並に各種の復舊工事の助成に着手せしが、當課に於ても昭和八年度に於て罹災部落に對し街路復舊事業を補助し且住宅適地造成事業に對し利子補給を行ふこととし、直に之等工事の調査設計に着手せり。

三陸地方に於ける津浪は十數年又は數十年の周期を以て繰り返し襲來するものなるを以て、右街路復舊工事及住宅適地造成事業の目的とする處は永久に浪災を防禦し又は之を避け得べき安住の地を築設し、以て生活の安全と便益とを確保するにあるべきを以て、努めて姑息なる施設を避け、基本的計畫觀念を具體化せしむる方針の下に各種の計畫を進めたり。

本報告書は罹災後約一ケ年を経過したる昭和九年三月末日現在に於ける計畫の概要並に兩縣下に於ける工事進捗の状況を記載せるものなり。本調査、計畫 等に關しては岩手、宮城兩縣當局並に兩縣都市計畫地方委員會職員の努力に依る所多し。

昭和九年三月三十一日

内務大臣官房都市計畫課

三陸津浪に因る被害町村の復興計畫報告

目 次

	頁
I. 總 說	1
三陸沿岸地方に於ける津浪の歴史	1
三陸沿岸地方人口戸數分布狀況	3
三陸沿岸地方生産額調査	10
II. 被害の概要	14
昭和八年三月三日三陸沖地震	14
土地、家屋、人命被害概要	14
工作物被害概要	20
III. 波高、浸水面積、家屋の流失倒壊區域面積	24
IV. 明治二十九年三陸津浪被害に對する復興事業概要	31
明治二十九年三陸津浪被害概要	31
明治二十九年復興事業概要とその昭和八年津浪に與へたる効果	36
V. 津浪被害對策	39
概 說	39
津浪防護對策	40
VI. 都市計畫及復興事業	42
計畫方針	42
都市的聚落地	42
漁農聚落地	43
計畫並事業	44
計 畫	44
建築禁止區域の設定	44
大槌町吉里吉里新漁村建設畫計概要	46
事 業	47
VII. 復興事業執行の方法	51
國庫補助	51
住宅適地造成事業執行の方法	51
復興事業及財源	51

寫眞、圖表並に飛行寫眞測量圖、計畫圖目次

I. 寫 眞

	頁
明治二十九年三陸津浪災害繪圖……………(寫眞)	1
宮城縣大原村谷川(災害狀況、復興狀況)……………	2
同 大原村大谷川(災害狀況、復興狀況)……………	2
同 十五濱村雄勝、船渡(災害狀況)……………	3
同 大原村鮫ノ浦(災害狀況)……………	3
同 十三濱村相川(敷地造成事業進捗狀況)……………	3
同 歌津村田ノ浦(災害狀況)……………	4
同 大谷村大谷(災害狀況)……………	4
同 唐桑村大澤(災害狀況、復興狀況)……………	4
同 唐桑村小鯖(災害狀況、復興狀況)……………	5
同 唐桑村只越(災害狀況)……………	5
岩手縣廣田村六ノ浦(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	5
同 廣田村泊(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	6
同 末崎村泊里(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	6
同 末崎村細浦(災害狀況)……………	6
綾見村田濱、石濱(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	6
同 綾里村湊(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	7
同 越喜來村白濱(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	7
同 唐丹村本郷(災害狀況)……………	7
同 唐丹村本郷(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	8
同 唐丹村小白濱(災害狀況、住宅適地造成事業進捗狀況)……………	8
同 釜石町(災害狀況)……………	9
同 釜石町(災害狀況、復興狀況)……………	10
同 鵜住居村兩石(災害狀況)……………	10
同 鵜住居村兩石(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	11
同 大槌町(災害狀況)……………	12
同 大槌町安渡(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	12
同 大槌町惣川(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	12
同 大槌町小枕(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	12
同 大槌町吉里吉里(災害狀況、住宅適地造成事業進捗狀況)……………	13
同 船越村田ノ濱(災害狀況)……………	13
同 田老村田老(災害狀況、復興狀況)……………	14
同 山田町(災害狀況)……………	15
同 小本村小本(住宅適地造成事業進捗狀況)……………	15
同 田野畑村島ノ越(災害狀況)……………	15
同 田野畑村平井賀(移轉敷地)……………	15

同 種市村八木(災害狀況、住宅適地造成事業進捗狀況).....	16
同 種市村大濱(住宅適地造成事業進捗狀況).....	16

II. 圖 表

三陸沿岸地方人口分布圖.....	頁 (本文) 3
昭和八年津浪に依る人口、家屋、被害概況表示圖.....	(本文) 21
波高並飛行寫真測量圖位置表示圖.....	(本文) 31

III. 飛行寫真測量圖並計畫圖

	附圖 圖面番號
宮城縣大原村谷川(計畫圖).....	1
同 十五濱村雄勝、船戸(計畫圖).....	2
同 十五濱船越(計畫圖).....	3
同 十五濱村相川(計畫圖).....	4
同 歌津村石濱、名足、中山(計畫圖).....	5
同 歌津村田ノ浦、港(計畫圖).....	6
同 大谷村大谷.....	7
同 唐桑村宿(計畫圖).....	8
同 唐桑村足越.....	9
同 唐桑村大澤.....	10
岩手縣廣田村集及根崎.....	11
同 廣田村泊(計畫圖).....	12
同 氣仙町長部(計畫圖).....	13
同 廣田村六ヶ浦(計畫圖).....	14
同 小友村雄出(計畫圖).....	15
同 末崎村泊里(計畫圖).....	16
同 末崎村細浦(計畫圖).....	17
同 綾里村湊(計畫圖).....	18
同 大船派町笹崎(計畫圖).....	19
同 赤崎村宿(計畫圖).....	20
同 綾里村白濱.....	21
同 越喜來村崎濱(計畫圖).....	22
同 越喜來村浦濱(計畫圖).....	23
同 吉濱村本郷(計畫圖).....	24
同 唐丹村小白濱及片岸(計畫圖).....	25
同 唐丹村本郷及花露邊(計畫圖).....	26
同 釜石町(計畫圖並詳細圖).....	27
同 鵜住居村兩石(計畫圖).....	28
同 鵜住居村箱崎.....	29
同 大槌町大槌及安渡(計畫圖).....	30
同 大槌町吉里吉里(計畫圖).....	31
同 船越村田ノ濱(計畫圖).....	32
同 船越村船越.....	33

同	山田町(計畫圖).....	34
同	崎山村女遊戶.....	35
同	田老村(計畫圖並詳細圖).....	36
同	小本村小本(計畫圖).....	37
同	田野畑村平井賀、羅賀(計畫圖).....	38
同	普代村普代、太田名部(計畫圖).....	39
同	種市村八木及大濱(計畫圖).....	40

三陸津浪に因る被害町村の復興計畫報告

I. 總 說

三陸沿岸地方殊に青森縣八戸市東方鮫岬より宮城縣牡鹿半島に至る海岸は、本邦に於ける凹凸の最も甚しき海岸にして、北上山系の支脈直に海に没し、爲に海岸線は急峻なる斷崖を連ね、之等支脈間の支谷部は直に海に至りて大小の江灣を形成す。三陸沿岸地方大小の部落は、之等江灣に接する支谷部に在り、沖合を略南北に走る外側地震帶の活動に依て三陸沿岸地方は屢々津浪の發生を見太平洋に開口せる江灣に接する沿岸部落は恒に津浪の被害を繰り返してゐる。今歴史に記載せられ又は口碑に傳へられたる處を述べれば次の如し。

三陸沿岸地方に於ける津浪の歴史

- | | |
|---|--------|
| (1) 貞觀11年5月26日 (皇紀 1,529年 清和天皇御時代) | 津浪發生間隔 |
| 陸奥國大地震、家屋倒潰、壓死者多く、津浪は城下(多賀城か)に迫つて溺死者1,000人餘、資産、苗稼流失す。(三代實錄) | |
| (2) 天正13年5月14日 (皇紀 2,245年 後陽成天皇御時代) | 716年 |
| 宮城縣本吉郡戸倉村口碑に傳ふ。(參考同年11月29日幾内、東海、東山、北陸に大震ありて死者多し)。(口碑) | |
| (3) 慶長16年10月28日 (皇紀 2,271年 後水尾天皇御時代) | 26年 |
| 陸奥國地震後大津浪あり。伊達領内にて男女1,783人、牛馬85頭溺死す。又現在の陸中山田附近、鵜住居村、大槌村、津輕石等にも被害多し。(御三代御書上)(南部藩の記録は存在せず)。 | |
| (4) 元和2年7月28日 (皇紀 2,276年 後水尾天皇御時代) | 5年 |
| 三陸地方強震後大津浪あり。釜石、大槌、鵜住居方面の死者約600~700人に達す。(口碑) | |
| (5) 慶安4年 (皇紀 2,311年 後光明天皇御時代) | 35年 |
| 宮城縣亘理郡東裏迄海嘯襲來す。(口碑) | |
| (6) 延寶4年10月 (皇紀 2,336年 靈元天皇御時代) | 25年 |
| 常陸國水戸、陸奥國磐城の海岸に津浪ありて、人畜溺死し、家屋倒潰流失す。(口碑) | |
| (7) 延寶5年3月12日 (皇紀 2,337年 靈元天皇御時代) | 1年 |
| 陸中國南部領に數十回の地震あり。地震直接の被害なきも津浪ありて宮古、鉾ヶ崎、大槌浦等に家屋流失あり。(口碑) | |
| (8) 貞享4年9月17日 (皇紀 2,347年 東山天皇御時代) | 10年 |
| 宮城縣内、鹽釜を初め宮城郡沿岸に海嘯あり。其の高さ地上1.5尺~1.6尺迄にて12~3度進退す。(口碑) | |

- (9) 元祿2年 (皇紀 2,349年 東山天皇御時代) 2年
陸中國に津浪あり。(口碑)
- (10) 元祿9年11月1日 (皇紀 2,356年 東山天皇御時代) 7年
宮城縣北上川口(石巻河口)に津浪襲來、船 300隻を流し、溺死者多し。(口碑)
- (11) 元祿17年11月23日 (皇紀 2,364年 東山天皇御時代) 8年
武藏、相模、安房、上總地方震ひ陸中海岸に津浪起る。(口碑)
- (12) 享保16年9月7日 (皇紀 2,391年 中御門天皇御時代) 27年
岩代、桑折領地震ふ。津浪は陸中海岸を襲ふも民家人畜に被害なし。(口碑)
- (13) 寶曆元年4月26日 (皇紀 2,411年 桃園天皇御時代) 20年
高田大地震の餘波として陸中國に津浪あり。(口碑)
- (14) 安永3年5月3日 (皇紀 2,424年 御櫻町天皇御時代) 13年
南部藩有沼出に大地震あり。後海嘯のため、南部嶺箱崎浦にて端午の節句の用意に海草、魚介採取中の女子供の死亡多數あり。(口碑)
- (15) 天明年間 (皇紀 2,441—2,449年 光格天皇御時代) に海嘯あり。(口碑) 17乃至25年
- (16) 寛政5年1月7日 (皇紀 2,453年 光格天皇御時代) 12乃至4年
三日間に亘り大地震あり。後大海嘯襲來して大槌灣の珊瑚島海中に没す。三陸沿岸に地震津浪あり、宮城縣桃生郡十五濱村雄勝にて床上浸水2尺に及ぶ。
- (17) 天保7年6月25日 (皇紀 2,469年 仁孝天皇御時代) 43年
仙臺地方大震ありて牙城の石垣崩れ、海水溢れ、民家數百戸を倒壊して溺死者多し。(東藩史稿)
- (18) 安政3年7月23日 (皇紀 2,516年 孝明天皇御時代) 20年
正午頃三陸地方に地震あり(震源は北海道南東方沖合) 次で大津浪起り現在の宮城縣桃生郡十五濱村雄勝にて床上浸水3尺、午後10時頃迄に十四五度押寄す。人畜の死傷は殆どなかりしが、北海道南部にては可成の被害ありしものゝ如し。(宮城縣桃生郡十五濱村雄勝「先祖代々記」)
- (19) 明治元年6月 (皇紀 2,528年 明治天皇御時代) 12年
宮城縣本吉郡地方津浪あり。
- (20) 明治27年3月22日 (皇紀 2,554年 明治天皇御時代) 26年
午後8時20分頃岩手縣沿岸に小津浪あり。
- (21) 明治29年6月15日 (皇紀 2,556年 明治天皇御時代) 2年
午後7時33分頃釜石町東方約200kmの沖合に地震發生し、其後45分にして大津浪三陸沿岸に襲來し、青森、岩手、宮城三縣下を通じ住家の流失6,049戸、全潰537戸、半潰771戸、非住家の流失2,477棟、半潰297棟、死者は21,953人、負傷者4,398人に及ぶ。
- (22) 明治30年2月20日 (皇紀 2,557年 明治天皇御時代) 1年

三陸沿岸地方人口分布圖



仙臺地方地震、氣仙沼にては海水3尺上昇。

(23) 大正4年11月1日 (皇紀 2,575年 大正天皇御時代) 18年

三陸沖地震によるものにして、宮城縣志津川灣に小津浪あり。

(24) 昭和8年3月3日 (皇紀 2,593年) 18年

午前2時31分釜石の東方約140軒の沖合 (東經 144.7° 北緯 39.1°) に起り
し地震後30分前後にして三陸沿岸地方並に北海道日高國沿岸に津浪襲來し、
三陸沿岸地方 (岩手縣、宮城縣) に於ける死者 1,816人、行衛不明 1,139人、
負傷者 1,038人、家屋の流失、焼失、倒壊戸數 6,542戸、浸水戸數 4,933戸に
達せり。

以上の歴史的事實に徴するも三陸沿岸地方に於ける津浪は天正以來350年間に23回、實に15年間に一回の割合を以て發生してゐる。之等津浪の被害は最近の一、二を除いては記録の詳細なるものを缺ぐも、沿岸部落の位置する地貌を考察する時は自らその大體を察知し得べし。即本邦に於ける所謂利用面積の全國面積との割合 16.6 %なるも、三陸地方、就中岩手縣の如きは僅かに 9.8% に過ぎず、利用面積稀少の程度全國中北海道に亞ぎ第二位に在り。殊に沿岸地方に到りては支谷部僅少の利用面積を存するのみ。三陸沿岸部落は殆ど之等支谷部に位置し津浪の危險に直接せる状態にあり。斯の如き部落に於て既往に繰り返されたる津浪の被害は、昭和八年津浪の被害より押して以て其の大體を察知し得る處である。

三陸沿岸地方人口戸數分布狀況

今三陸沿岸地方に於ける人口戸數の分布狀況を見るに、岩手縣に於ける沿岸町村人口 179,219人、戸數 30,118戸、宮城縣に於けるもの人口 119,288人、戸數18,030戸、合計人口298,507人、戸數 48,148戸にして、「附圖三陸沿岸地方人口分布圖」は三陸沿岸地方に於ける部落人口の分布状態並にその主要交通施設を示す。

第一表 三陸沿岸地方人口戸數表 (昭和七年末現在)

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 數
宮 城 縣	坂 元 村	磯 中 (其 計)	460 799 3,486 4,715	戸 74 127 882 1,083
		閑 上 町	6,930	1,190
		宮 戸 村	1,365	186
		大 川 村	5,049	693
		十 五 濱 村	598 844 128 193 350 357 2,156 481 170	117 111 27 39 61 50 384 53 22
	振 越 澤 濱 勝 濱	名 船 荒 熊 立 明 雄 分 桑		

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 數
宮 城 縣		大小水(其計) 濱島濱他)	220 151 710 1,310 7,508	41 23 126 252 1,306
	萩 濱 村	萩小桃福(其計) ノ積ノ貴計 濱濱浦浦他)	354 181 591 236 2,631 3,992	60 30 112 39 372 613
	大 原 村	谷鯨小給(其計) ノ綱計 川浦倉分他)	421 173 287 281 2,503 3,665	47 26 43 42 387 545
	鮎 川 村	鮎(其計) 川他)	1,938 3,185 5,123	289 577 836
	女 川 町	狹狹小高横大野飯小女宮石桐竹尾御指浦出寺江(其計) 神神乘白 石々子屋川ケケノ前ケノ計 南北濱濱浦原濱濱取濱崎濱崎浦濱濱宿島間島他)	1,204 1,425 174 183 150 43 128 171 104 1,244 155 232 158 435 512 445 159 220 592 470 1,039 820 10,093	178 197 25 25 25 7 21 28 27 205 27 48 21 86 84 73 36 26 97 77 171 102 1,586
	十 三 濱 村	相小大月長小大小立(其計) 鹽計 川指指濱谷室室泊神他)	635 139 346 445 138 249 249 246 70 1,068 3,615	89 19 31 63 20 31 35 10 22 191 513
	戸 倉 村	折水在波津瀧藤長寺(其計) 戸傳ノ清計 立邊郷谷宮濱濱水濱他)	394 265 399 434 262 278 137 207 159 973 3,598	61 39 59 62 32 35 20 32 19 158 517

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 數
宮 城 縣	志 津 川 町	志 津 川 袖平荒清細 計	5,616 162 331 448 498 387 7,442	966 28 57 80 83 65 1,279
	歌 津 村	菲 里 濱 伊館泊馬名石田港 (其 他) 計	342 1,125 269 521 503 506 279 446 536 834 5,351	52 154 42 81 49 112 30 41 21 197 779
	小 泉 村	二十一濱(今朝磯) 藏中(内(歌生)島) (其 他) 計	319 299 141 1,371 2,130	47 44 20 198 309
	御 嶽 村	大 米 澤 登(其 計 他)	336 174 4,890 5,400	21 26 826 873
	大 谷 村	大 谷 門 日前高(其 計 他)	927 573 592 954 761 3,897	20 83 75 113 274 565
	階 上 村	波 路 上 長最岩(其 計 磯知月)	1,267 1,165 650 657 3,739	192 169 98 99 553
	松 岩 村	尾 崎 片前(其 計 濱濱他)	326 553 226 3,382 4,490	52 88 36 529 705
	氣 仙 沼 町		13,913	2,507
	鹿 折 村	濱 板 浪大小二三(其 計 浦汐濱濱他)	457 527 265 287 294 214 2,721 4,745	89 80 50 38 34 25 420 727
	大 島 村	崎 濱 要長田廻浦磯外(其 計 害崎尻館濱草濱他)	606 375 459 443 259 404 431 90 942 4,009	89 57 70 67 30 65 63 14 145 600

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 數
宮 城 縣	唐 桑 村	中 鮎 舞	789	112
		宿 立 根	13,370	193
		石 崎 松 中 小 大	424	57
		只 館 計	633	114
		濱 濱 岡 井 鮎 澤	690	86
			761	98
			537	59
			785	107
			718	110
			896	116
			616	73
			539	78
			8,689	1,203
	合 計		119,288	18,030
	災害部落の合計		61,184	8,034
岩 手 縣	氣 仙 町	長 砂 古 双 栗 福	2,155	405
		計	2,397	299
		部 盛 谷 六 谷 伏	4,462	704
	高 田 町	高 田 松 原 砂 他	8	3
		長 (其 計)	65	12
			4,303	812
			4,376	827
	米 崎 村	沼 脇 濱 (其 計)	493	73
			289	50
			262	43
			1,482	283
			2,529	449
	廣 田 村	長 根 中	587	83
		澤 泊	622	95
		大	595	82
		六 大 (其 計)	752	117
			512	86
			91	13
			281	33
			245	45
			255	38
			3,890	592
	小 友 村	三 兩 唯 森 鹽 矢 (其 計)	263	43
			225	37
			378	61
			13	2
			25	4
			311	52
			1,245	293
			2,460	402
	末 崎 村	船 峯 細 中 小 小 門 泊 小 計	195	30
			385	69
			222	34
			394	61
			290	41
			35	5
			527	84
			608	96
			282	46
			341	59
			3,279	516
	大 船 渡 町	下 船 平 渡	934	144
			530	90

縣	名	町	村	名	部	落	名	人	口	戶	數
岩手縣					永 笹 茶 赤 (其 計	屋 計	澤 崎 前 澤 他)	304	64		
								1,054	154		
								1,427	255		
								179	30		
								371	61		
								4,799	788		
		赤	崎	村	生 山 永 清 上 下 長 合	宿 計	形 口 濱 水 浦 浦 崎 足	509	89		
								560	98		
								458	73		
								675	97		
								364	51		
								376	56		
								325	48		
								450	62		
								104	15		
		綾	里	村	田 石 岩 野 白 砂 小	湊 子 白 計	濱 瀨 崎 前 濱 濱 濱	382	59		
								805	132		
								370	60		
								476	75		
								418	60		
								362	55		
								207	28		
								256	33		
								3,276	592		
		越	喜	來	崎 浦 下 (其 計	濱 嶺 嶺 他)	濱 嶺 嶺 他)	1,053	155		
								1,153	184		
								382	58		
								614	98		
								196	27		
								3,398	522		
		吉	濱	村	本 根 千 計	鄉 白 歲 計	鄉 白 歲 計	838	148		
								634	97		
								382	61		
								1,854	306		
		唐	丹	村	花 本 小 片 山 荒 大 計	露 白 計	邊 鄉 濱 岸 谷 川 石	397	66		
								613	112		
								871	158		
								625	79		
								161	25		
								494	62		
								694	83		
								3,855	575		
		釜	石	町	東 仲 澤 門 場 只 大 松 嬉 平 (其 計	前 町 村 前 所 越 渡 原 石 田 他)	前 町 村 前 所 越 渡 原 石 田 他)	30,601	5,791		
		鶴	住	居	兩 水 箱 桑 白 根 片 室 (其 計	石 海 崎 濱 濱 濱 濱 濱 濱 他)	石 海 崎 濱 濱 濱 濱 濱 濱 他)	750	107		
								76	14		
								635	93		
								117	16		
								336	51		
								102	17		
								375	52		
								353	52		
								1,252	175		
								4,049	575		

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 數
岩 手 縣	大 槌 町	大 安 里 吉 浪 槌 渡 濱 里 板	7,136 1,925 2,972 13,033	1,037 270 440 1,747
		船 越 村 船 田 大 越 濱 浦	1,029 1,473 1,261 3,763	155 212 169 536
		織 笠 村 細 跡 織 (其 浦 濱 笠 他)	54 418 763 999 2,264	8 87 130 130 355
		山 田 町 境 川 南 八 仲 三 荒 笠 寺 (其 幡 日 濱 谷 小 計 田 向 町 區 町 町 木 洞 路 他)	490 1,040 278 175 952 295 286 969 120 1,394 5,909	79 291 47 32 142 34 48 143 20 379 1,125
	大 澤 村	大 (其 計 澤 他)	1,383 89 1,472	193 18 211
		重 茂 村 音 與 種 姉 千 石 川 荒 (其 計 里 部 奈 刺 吉 雞 濱 代 卷 他)	536 449 22 23 191 214 189 154 367 175 2,311	82 58 3 4 26 30 27 22 54 29 335
	津 輕 石 村	赤 法 計 前 脇	1,096 2,468 3,564	152 362 514
		磯 雞 村 磯 高 金 白 (其 計 雞 濱 濱 濱 他)	1,192 696 459 290 120 2,763	168 93 55 40 28 384
	宮 古 町	宮 鐵 計 古 崎	11,793 6,758 18,551	2,192 1,228 3,420
		崎 山 村 女 日 (其 宿 遊 出 計 戸 島 他)	143 184 97 873 1,297	20 23 14 107 164
	田 老 村	田 乙 樫 小 老 部 內 港	1,930 1,020 342 28	315 198 62 4

縣名	町村名	部落名	人口	戸數
岩手縣		澤待 水下 (其 攝計 他)	142 720 891 4,983	26 115 120 840
	小本村	本師成 小茂小 (其 計 他)	1,288 357 250 833 2,728	220 59 40 166 485
	田野畑村	戸賀賀賀越 明羅平大島 (其 井須ノ 計 他)	213 297 343 246 318 2,897 4,314	28 47 69 44 51 485 724
	普代村	崎部代持井内 黑太善力白堀 田名 計	178 361 1,429 291 380 321 2,940	45 60 270 50 63 78 563
	野田村	家川田濱山内 下玉米前新廣 (其 計 他)	116 378 258 1,222 685 89 1,145 3,893	17 61 41 200 116 14 159 698
	久慈町	湊 (其 計 他)	1,007 5,676 6,683	119 1,155 1,324
	夏井村	崎口 大閉 (其 伊 計 他)	333 399 1,576 2,318	51 73 274 398
	侍濱村	畑濱沼前波生 桑侍横白本麥 計	287 1,001 114 136 102 438 2,078	41 193 26 34 17 51 365
	中野村	野家内 中有小 子 計	1,385 827 683 2,895	205 117 98 420
	種市村	本戸家川糠手尻内濱 八宿戸玉鹿横川平角 (其 類 ノ 計 他)	515 1,310 343 417 578 1,070 594 589 579 1,717 7,712	91 265 59 39 89 157 81 84 83 348 1,287
	宇部村	喜	768	120

縣 名	町 村 名	部 落 名	人 口	戸 数
岩 手 縣		小 (其 計 袖 他)	513 1,727 3,008	68 299 487
	長 内 村	洲 河 端 子 尻 大 (其 計 他)	139	21
			140	20
			349	58
			3,463 4,091	584 683
	合 計		179,219	30,118
	罹災部落の合計		146,624	24,243
總 計			298,507	48,148
罹災部落の總計			207,808	32,277

(備考) 部落欄に(其他)とあるは昭和八年三月三陸津波の被害を蒙らざりし部落を一括せるものにして概して沿岸より遠距離に在る部落なり。

第一表に依り宮城、岩手兩縣沿岸町村に於ける昭和八年三月津浪に依る沿岸町村の全人口戸数と罹災部落の夫との割合を示せば次の如し。

	宮 城 縣	岩 手 縣	計
沿 岸 町 村 人 口 總 計	119,288人	179,219人	298,507人
同 上 罹災部落人口計	61,184人	146,624人	207,808人
同 上 の %	51.3%	81.8%	69.5%
沿 岸 町 村 戸 數 總 計	18,030戸	30,118戸	48,148戸
同 上 罹災部落戸數計	8,034戸	24,243戸	32,277戸
同 上 の %	44.6%	80.6%	67.1%

即ち宮城縣に於ては沿岸町村に於ける人口、戸数の半數、岩手縣に於てはその約8割が津浪の脅威に漂されてゐる。

三陸沿岸地方生産額調査

次に三陸沿岸部落居住者の經濟生活の大略を察知すべき資料として、昭和七年に於ける生産額を示せば次の如し。

第二表 三陸沿岸町村生産額（昭和七年末現在）

縣名	町村名	農產		畜產		林產		水產		礦產		工業		合計
		價格	%	價格	%	價格	%	價格	%	價格	%	價格	%	
宮城縣	大鹿村	57,493	33.5	1,093	0.6	3,420	2.0	105,360	62.0	—	—	3,250	1.9	170,516
	折原村	111,035	22.0	2,146	0.4	7,979	1.6	345,819	70.0	3,500	—	25,121	5.3	495,800
	桑田村	134,666	18.5	5,617	0.8	9,227	1.2	50,820	78.0	—	—	10,475	1.5	720,805
	仙沼村	95,636	4.0	24,338	1.0	11,021	0.5	1,976,868	80.3	5,000	—	337,298	14.0	2,450,161
	松岩村	107,308	69.0	4,710	2.0	15,306	6.0	54,424	22.0	—	—	10,394	4.0	253,142
	上村	130,075	57.0	1,083	0.5	697	0.3	80,731	39.0	—	—	6,518	3.2	209,014
	大谷村	106,647	54.0	1,638	0.8	2,694	1.5	68,822	34.0	14,941	—	4,573	2.2	199,315
	御嶺村	232,657	70.3	2,670	0.8	64,999	20.0	4,236	1.3	8,437	—	15,834	5.0	338,833
	小歌村	89,128	77.0	411	0.4	9,216	8.0	11,583	10.0	—	—	5,427	4.6	115,765
	津村	130,947	46.0	2,510	0.8	24,694	8.0	132,940	41.0	—	—	14,005	4.2	323,096
	青森村	208,803	25.0	9,462	1.2	23,553	3.0	234,624	35.0	2,520	—	294,273	35.5	823,238
	戸川村	125,820	47.0	644	0.3	32,517	12.0	107,490	10.0	—	—	1,790	0.7	268,701
	三河村	105,235	55.0	743	0.4	28,525	15.0	49,780	26.0	—	—	7,214	3.6	191,497
	大川村	204,799	84.0	3,053	1.2	16,059	6.5	8,033	3.3	—	—	12,904	5.0	244,853
	十五濱村	44,965	3.5	1,910	0.2	28,155	2.3	1,117,166	86.0	—	—	104,822	8.0	1,297,018
	宮川村	26,247	70.0	741	2.0	2,215	6.0	6,490	17.0	1,250	—	404	1.5	37,347
	女川村	131,478	8.0	6,628	0.5	59,562	3.5	1,374,738	81.0	—	—	119,158	7.0	1,642,564
	大原村	46,216	35.0	1,285	1.0	7,487	5.7	71,656	5.3	—	—	4,978	3.5	131,622
	新川村	38,939	19.0	1,371	0.7	771	0.4	153,875	75.0	5,000	—	4,961	2.4	204,347
	濱上村	47,849	13.0	777	0.2	6,742	2.0	329,415	85.5	—	—	1,185	0.3	385,968
	元坂村	218,148	28.0	2,770	0.3	—	—	539,617	68.0	—	—	28,964	3.7	789,499
	坂元村	224,857	83.0	12,656	4.7	16,197	6.0	8,202	3.0	—	—	9,253	3.3	271,165
	計	2,688,381	23.0	88,261	0.8	361,946	3.0	7,353,029	61.0	40,648	0.4	1,022,801	8.8	11,555,066
岩手縣	氣仙町	129,014	25.0	2,235	0.4	22,557	4.3	293,403	54.0	1,350	—	70,820	14.0	519,579
	高田村	99,531	8.6	5,044	0.4	16,546	1.5	8,366	0.8	7,815	—	1,023,821	88.0	1,163,124
	米田村	182,662	65.0	4,352	1.5	5,452	2.0	39,455	13.5	—	—	58,337	20.0	291,488
	小友村	91,346	45.0	2,997	1.5	16,914	8.5	73,283	36.0	545	—	15,501	7.7	199,686
	廣田村	92,296	22.0	1,334	0.3	8,702	2.0	277,452	61.0	—	—	41,008	9.7	420,792
	末崎村	81,692	22.0	2,346	0.6	14,413	3.8	247,433	63.0	—	—	28,717	7.6	374,601
	大船渡村	89,394	18.0	2,533	0.5	15,102	3.0	317,877	64.5	999	—	67,624	14.0	493,529
	赤崎村	114,158	26.4	1,749	0.4	17,704	4.0	233,741	51.0	60,000	—	5,259	1.2	432,611
	綾里村	62,213	27.0	1,733	0.7	41,774	18.0	120,521	51.3	—	—	6,970	3.0	233,211
	越喜來村	56,567	21.0	1,510	0.3	43,688	9.7	306,731	67.0	—	—	8,222	2.0	453,418
吉屋	吉屋村	96,745	32.0	2,587	1.5	44,860	25.0	73,066	40.0	—	—	2,702	1.5	179,960
	丹波村	46,165	11.0	1,414	0.3	66,432	16.0	287,382	68.7	—	—	16,469	4.0	417,892

縣 名	町 村 名	農 產 物		畜 產 物		林 產 物		水 產 物		礦 產 物		工 產 物		合 計
		價	%	價	%	價	%	價	%	價	%	價	%	
岩手縣	釜石町	51,524	0.4	61,787	0.5	72,735	0.6	3,407,447	25.0	7,591,024	56.0	2,342,948	17.5	13,527,455
	鶴住居村	80,154	30.0	5,320	2.0	22,002	7.0	169,767	57.0	5,872	2.0	6,386	2.0	298,501
	大槌町	169,481	12.59	21,835	1.7	131,133	10.0	874,745	69.0	156	0.01	128,913	9.7	1,326,293
	船越村	43,183	4.0	2,348	0.2	6,465	0.6	934,201	94.8	—	—	4,100	0.4	990,297
	織笠村	51,103	17.0	1,192	0.4	28,182	9.0	213,989	70.6	—	—	9,530	3.0	304,036
	山田町	54,075	5.0	3,399	0.3	227,764	22.1	691,499	67.0	5,700	0.6	59,230	5.0	1,032,727
	大澤村	23,769	4.88	1,070	0.2	5,948	1.2	456,375	93.0	100	0.02	3,460	0.7	490,722
	重茂村	23,184	7.0	663	0.2	86,278	27.76	203,163	65.0	—	—	140	0.04	313,428
	津輕石村	109,899	42.0	4,538	2.0	20,102	8.0	14,021	43.4	1,518	0.6	10,616	4.0	260,694
	磯雞村	143,423	26.0	5,666	1.0	42,820	8.0	346,384	64.0	—	—	5,868	1.0	544,161
	宮古町	22,713	0.8	26,295	1.0	8,401	0.3	2,290,010	84.8	3,263	0.1	362,478	1.3	2,713,070
	崎山村	30,559	22.7	769	0.3	21,943	17.0	79,406	60.0	—	—	—	—	132,678
	田老村	189,245	28.0	11,081	2.0	278,327	42.0	107,847	25.0	—	—	17,939	3.0	664,439
	小本村	73,257	34.0	11,842	5.5	37,833	18.0	65,970	31.0	5,475	2.5	19,534	9.0	213,911
	田野畑村	69,121	26.0	7,665	3.0	140,343	54.0	38,969	15.0	300	0.1	4,986	1.9	261,384
	普代村	81,096	28.0	4,549	1.5	143,937	50.0	53,968	18.5	—	—	6,135	2.0	290,585
	野田村	78,520	32.0	6,799	3.0	67,136	28.0	76,471	31.0	4,260	2.0	9,697	4.0	242,883
	宇部村	88,084	25.42	5,185	1.5	69,684	20.0	131,868	38.0	260	0.08	51,700	15.0	346,781
	内郷村	78,665	66.0	4,230	4.0	17,875	15.0	14,339	12.0	143	0.1	3,508	2.9	118,760
	慈非村	94,659	28.0	7,717	2.4	30,971	9.0	70,977	21.0	1,845	0.6	131,910	39.0	338,079
	夏井村	43,566	55.0	5,519	7.0	21,536	28.0	6,027	8.0	—	—	1,197	2.0	76,865
	津野村	36,245	18.0	3,557	1.5	125,984	63.0	22,131	11.0	—	—	13,413	6.5	201,330
	中野村	68,124	44.0	1,512	1.0	46,116	30.0	32,222	20.0	1,985	1.3	5,620	3.7	155,579
	種市	160,296	57.0	10,321	2.4	218,488	50.0	36,218	8.2	—	—	10,327	2.4	455,650
計		3,045,959	10.0	244,330	0.8	2,186,367	7.0	12,775,737	42.0	7,692,610	25.2	4,548,175	15.0	30,462,878
合	計	5,704,040	13.6	332,591	0.8	2,548,313	6.1	20,128,766	47.9	7,733,258	18.4	5,370,976	13.2	42,017,944

宮城、岩手兩縣沿岸町村に於ける昭和七年生産額は、合計 42,017,944圓にして、其内水産物價額 20,128,766圓、即ち生産總額の 47.9% を示す。

第三表 三陸沿岸地方町村人口一人當生産額調 (昭和七年末現在)

縣名	町村名	生産額	人口	人口一人當生産額	縣名	町村名	生産額	人口	人口一人當生産額
宮城縣	大島村	170,516	4,009	43	岩手縣	綾里村	233,211	3,276	71
	鹿折村	495,600	4,745	104		越喜來村	453,418	3,398	134
	唐桑村	720,805	8,689	83		吉濱村	179,960	1,854	97
	氣仙沼町	2,450,161	13,913	176		唐丹村	417,862	3,855	108
	松岩村	252,142	4,490	56		釜石町	13,527,465	30,601	442
	階上村	209,014	3,739	56		鶉住居村	298,591	4,049	72
	大谷村	199,315	3,807	52		大槌町	1,326,293	13,032	102
	御嶽村	328,833	5,400	61		船越村	990,297	3,763	263
	小泉村	115,765	2,130	54		織笠村	304,036	2,264	134
	歌津村	325,096	5,361	61		山田町	1,032,727	5,909	175
	志津川町	823,238	7,442	110		大澤村	490,722	1,472	333
	戸倉村	268,701	3,598	77		重茂村	313,428	2,311	136
	十三濱村	191,497	3,615	52		津輕石村	260,694	3,564	74
	大川村	244,853	5,049	48		磯雞村	544,161	2,763	201
	十五濱村	1,297,018	7,598	173		宮古町	2,713,070	18,551	146
	宮戸村	37,347	1,365	27		崎山村	132,678	1,297	102
	女川町	1,642,564	10,093	164		田老村	644,439	4,983	133
	大原村	131,622	3,665	36		小本村	213,911	2,728	78
	鮎川村	204,347	5,123	40		田野畑村	261,384	4,314	61
	荻濱村	385,968	3,992	97		普代村	290,585	2,940	99
岩手縣	関上町	789,499	6,930	114		野田村	242,883	3,893	62
	坂元村	271,165	4,715	68		宇部村	346,781	3,008	115
	計	11,555,066	119,288	97		長内村	118,760	4,091	29
	氣仙町	519,379	4,462	116		久慈町	338,079	6,683	51
	高田村	1,163,123	4,376	266		夏井村	76,835	2,318	33
	米崎村	291,488	2,629	115		侍濱村	201,330	2,078	97
	小友村	199,583	2,469	81		中野村	155,579	2,895	54
	廣田村	420,792	3,890	108		種市村	435,650	7,712	57
	末崎村	374,601	3,279	114		計	30,462,878	179,219	170
	大船渡町	493,529	4,749	103	總計				
	赤崎村	432,611	3,821	113			42,050,382	298,597	141

人口一人當生産價額宮城縣に於て97圓、岩手縣に於て170圓、兩縣沿岸人口一人當り生産額141圓となり、比較的高率なる生産價額を示す。(註、昭和五年度本邦人口一人當生産價額約100圓なり)。殊に第二表三陸沿岸町村生産額調査に依りて、水産價額が全生産價額大略半額を占むる事實に徴する時は、沿岸部落に於ける人口一人當生産價額は、より以上大なる價格を示す可く、三陸沿岸地方が本邦に於ける有數なる漁業地と稱せられる處を實證するものであらう。

斯の如き地方に於て古來頻々たる津浪の發生を見、而も全滅的災害を繰り返したるにもかゝらず、その災害防止に關し、最近の一二の事例を除いては、何等の恒久的對策をも講ぜず、貴重なる生命、財産の喪失を繰り返せるは遺憾の事である。

明治二十九年三陸津浪に際しては國家に於て恒久的災害善後措置を講ぜられたるもの尠く、殊に生命財産の危險に最も多くさらさるる沿岸各部落地に對する津浪災害防止施設は、IV中「明治二十九年復興事業概要とその昭和八年津浪に與へたる効果」に記述する數例を除くの外は、殆ど何等の對策をも講ぜざりしに等しき状態にて、原部落地に單なる復舊を遂げたる結果、昭和八年三陸津浪に依て沿岸部落地は明治二十九年の夫と殆ど同様の災害を繰り返してゐる。

本報告書に於ては昭和八年三月津浪災害に關し、その被害概要を述べ、明治二十九年三陸津浪の善後措置とその津浪被害防止上の効果を検討し、之に依て考慮さる可き實際的の津浪被害対策を述べ、今回國に於て助成施行せられたる各種復興計畫並に復舊事業中、都市計畫的立場に於て考察せられたる、沿岸部落の津浪被害防止対策の計畫並に實行上の諸問題に就て記述せんとするものである。

II. 被害の概要

昭和八年三月三日 三陸沖地震

昭和八年三月三日午前二時三十一分頃岩手縣釜石町の東方約140軒の沖合(東經144.7° 北緯39.1°)に起りし強震の震度分布に就て中央氣象臺發表の報告に依れば、有感覺區域は北海道の殆んど全部、東北、關東、中部、北陸各地方の全般、近畿地方の一部に及び、北海道及び東北地方の太平洋震とりの地域及び關東地方の一部は強震地域となつてゐる。今最近の我國に於ける二三の破壊的地岸寄昭和八年の夫との規模の大小を比較するに、大正十二年九月一日の關東大地震、昭和二年三月七日の北丹後烈震、昭和五年十一月二十六日の北伊豆烈震及昭和八年三陸沖強震は何れも震源の深さが極めて浅いと推定せられ、從て夫等の震度分布の狀況に依り規模の大小を論ずれば、北伊豆烈震は規模最も小にして、北丹後烈震之に亞ぎ、更に昭和八年地震は關東大地震よりも大である。斯の如く三陸沖地震はその規模大なりしにかかわらず、地震に依る直接の被害が他の大地震に比し極めて輕微なりしは、震央が遠く海底にありし事と、震央に最も接近せる三陸沿岸の地盤が比較的強固なりし爲なりと考察せられる。

土地、家屋、人命被害概要

北海道、青森縣、岩手縣、宮城縣及福島縣の太平洋沿岸に面せる地方に於ては地震度30分乃至40分にして、波高最高 28.9米(岩手縣氣仙郡廣田村根崎附圖第 11 圖参照)に及ぶ津浪襲來し、沿岸各部落は明治二十九年三陸津浪より37年を隔てゝ再び全滅的災害を被れり。宮城、岩手兩縣に於ける被害概要を示せば下の如し。

第四表 土地、家屋、人命被害調査

縣名	町村名	部落名	土地の被害						家屋の被害				人命の被害				
			宅地		田畑		山林		計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	行衛不明	負傷	計
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水									
宮城縣	坂元村	磯中	0.23 0.06		8.90 7.14			9.13 7.20	棟 1	棟 28	棟 30	棟 59	人 —	人 —	人 12	人 13	
		磯濱															
	關上町	關上區	0.17		—		—	0.17	—	—	24	24	—	—	—	—	
		十五濱村	0.46 0.46 0.21 0.02 — 0.05		0.28 0.39 1.09 — 0.10 —		— — — — — —	0.74 0.85 1.30 0.02 0.10 0.05	9 18 23 2 — —	20 39 8 — — —	91 83 1 5 1 8	120 140 32 7 1 8	— — 69 — — —	— — — — — —	— — 41 — — —	— — 10 — — —	

縣名	町村名	部落名	土 地 の 被 害					家屋の被害				人命の被害			
			宅 地		田 畑		計	流 失		倒 壊		死 亡	行 衛 不 明	負 傷	計
			流 失	浸 水	流 失	浸 水		流 失	浸 水	流 失	浸 水				
宮城縣	雄勝	雄勝	2.18	—	11.20	—	13.38	257	104	206	657	—	—	—	—
		雄勝	0.09	—	0.20	—	0.29	—	—	17	17	—	—	—	—
	宮戸	宮戸	—	—	4.95	—	4.95	—	—	—	—	—	—	—	—
		宮戸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女川町	登神	0.62	—	—	—	0.62	—	—	214	214	—	—	—	—
		登神	0.55	—	—	—	0.55	—	—	150	150	—	—	—	—
		小高	0.02	—	—	—	0.02	—	—	11	11	—	—	—	—
		小高	0.04	—	—	—	0.04	1	2	21	24	—	—	—	—
		大野	0.01	—	0.04	—	0.05	—	—	5	5	—	—	—	—
		大野	0.06	—	0.22	—	0.28	—	—	30	30	—	—	—	—
		飯子	—	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—
		飯子	0.02	—	0.03	—	0.05	2	3	8	13	—	—	—	—
		小女	0.34	—	—	—	0.34	—	—	148	148	—	—	—	—
		小女	0.02	—	—	—	0.02	—	—	14	14	—	—	—	—
		宮ヶ	0.18	—	1.35	—	1.53	7	15	47	69	—	—	2	2
		石ヶ	0.02	—	5.25	—	5.27	—	—	15	15	—	—	—	—
		桐ヶ	0.08	—	0.12	—	0.20	—	—	37	37	—	—	—	—
		竹ノ	0.22	—	0.37	—	0.59	—	—	98	98	—	—	—	—
		尾浦	0.05	—	0.23	—	0.31	—	—	19	19	—	—	—	—
		御前	0.02	—	0.05	—	0.07	—	—	15	15	—	—	—	—
		指出	0.15	—	—	—	0.15	—	—	54	54	—	—	—	—
		寺江	0.06	—	—	—	0.06	—	—	38	38	—	—	—	—
		寺江	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
	茨村	茨村	0.18	—	—	—	0.18	—	—	39	39	—	—	—	—
		積小	0.12	—	0.30	—	0.42	—	—	29	29	—	—	—	—
		福貴	0.04	—	—	—	0.04	—	—	9	9	—	—	—	—
		鹿立	0.13	—	—	—	0.13	—	—	20	20	—	—	—	—
	大村	小淵	0.35	—	7.76	—	8.11	4	—	53	57	—	—	—	—
		新山	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	—	—	—
		谷川	0.27	—	29.10	—	29.37	77	9	7	93	23	—	14	40
		鯨分	0.29	—	9.27	—	9.47	39	9	11	59	33	—	9	45
		泊	0.06	—	—	—	0.06	—	—	9	9	—	—	1	1
		大谷	—	—	—	—	—	—	3	—	3	—	—	—	—
	川村	小綱	0.15	—	17.59	—	17.65	6	7	35	48	—	—	—	—
		小綱	0.22	—	—	—	0.22	7	—	42	49	—	—	1	1
	志津町	鮎川	0.25	—	0.10	—	0.35	1	1	49	51	1	—	2	3
		志津	2.42	—	1.15	—	3.57	—	—	170	170	—	—	2	2
		平磯	0.05	—	—	—	0.05	—	—	15	15	—	—	—	—
		荒砥	0.03	—	—	—	0.03	—	—	12	12	—	—	—	—
		清浦	0.16	—	0.23	—	0.42	5	4	39	48	—	—	1	1
	戸倉村	細浦	0.08	—	0.39	—	0.47	3	1	24	28	—	—	1	1
		折立	0.03	—	6.14	—	6.17	—	—	9	9	—	—	—	—
		在郷	0.02	—	0.70	—	0.72	—	—	5	5	—	—	—	—
		波傳	0.13	—	5.70	—	5.83	8	5	16	29	—	—	3	3
		瀧濱	—	—	0.80	—	0.80	—	—	3	3	—	—	—	—
		瀧濱	0.05	—	0.10	—	0.15	12	5	1	18	1	—	12	13
		清長	0.04	—	2.70	—	2.74	12	3	3	18	—	—	—	—
		寺濱	0.04	—	0.60	—	0.64	3	3	3	9	—	—	2	2
	十三濱村	月立	0.03	—	0.10	—	0.16	—	—	16	16	—	—	—	—
		立長	0.08	—	0.23	—	0.31	1	1	23	25	—	—	—	—
		白鹽	0.05	—	41.59	—	41.55	—	1	16	17	—	—	—	—
		白濱	0.01	—	—	—	0.01	—	—	2	2	—	—	—	—
		室濱	0.05	—	0.10	—	0.15	—	—	11	11	—	—	—	—
		室泊	0.10	—	1.30	—	1.40	—	—	23	23	—	—	—	—
		泊川	0.06	—	—	—	0.06	5	6	4	15	—	—	—	—
		指指	0.80	—	0.27	—	1.07	137	13	7	157	1	—	3	4
		指指	0.05	—	4.73	—	4.78	8	—	8	16	8	—	4	12
		指指	0.06	—	—	—	0.06	7	3	11	21	—	—	—	—
	歌津村	非伊	0.03	—	0.60	—	0.63	—	—	13	13	—	—	—	—
		伊里	0.19	—	0.74	—	0.93	7	3	67	77	—	—	—	—
		館泊	0.01	—	0.20	—	0.21	2	1	3	6	—	—	—	—
		館泊	0.02	—	1.59	—	1.52	—	1	2	3	—	—	—	—

[illegible]

縣名	町村名	部落名	土地の被害						家屋の被害				人命の被害				
			宅地		畑田		山林		計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	行方不明	負傷	計
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水									
岩手縣	小友村	唯兩三森鹽矢ノ浦	0.01	0.76	1.49	3.96	—	0.10	6.32	33	2	35	8	10	—	—	18
		出替市崎谷浦	0.01	0.61	—	1.78	—	—	2.40	10	17	27	—	—	—	—	—
		日崎	—	0.74	0.17	5.27	—	—	6.18	4	28	32	—	—	2	—	2
		森	—	0.02	—	3.57	—	—	3.59	—	1	1	—	—	—	—	—
		鹽矢	—	0.04	0.49	1.78	—	—	2.31	—	2	2	—	—	—	—	—
	廣田村	六ヶ浦	—	0.49	0.69	0.92	—	4.36	6.46	26	1	27	8	5	5	18	3
		根集	—	1.07	0.92	1.38	—	3.63	7.00	15	1	16	1	1	1	1	3
		澤濱	—	0.53	0.10	0.13	—	9.25	10.04	9	—	9	1	14	1	16	1
		中泊	0.14	1.75	0.24	0.72	—	2.38	5.23	11	5	16	6	2	8	16	2
		野陽洞	—	1.24	0.11	0.58	—	1.48	3.41	7	9	16	1	1	—	—	—
	末崎村	船河原	0.07	0.20	0.43	1.55	—	—	2.25	9	—	9	15	3	9	27	8
		峰浦	0.21	0.82	0.03	0.55	—	—	1.61	47	8	55	2	—	6	8	3
		細野	0.19	0.72	0.15	0.46	—	—	1.52	32	1	33	1	—	2	3	8
		小細浦	0.16	0.89	0.12	0.79	—	—	1.96	35	1	36	4	1	3	8	8
		梅神及原濱里石	0.15	0.50	0.22	1.26	—	—	2.13	13	2	15	4	1	3	—	—
	大船渡町	赤茶笹永下船平	0.07	0.25	0.13	1.87	—	1.00	3.32	1	—	1	—	—	—	—	—
		澤前	0.04	0.53	0.02	1.29	—	—	1.88	8	4	12	—	—	1	1	—
		船屋	0.02	0.79	0.37	1.96	—	—	3.14	29	13	42	8	2	3	13	—
		船渡	—	0.02	0.04	0.81	—	—	0.87	—	1	1	—	—	—	—	—
		澤前	1.00	0.39	9.42	4.95	—	—	15.76	7	13	20	—	—	—	—	—
	赤崎村	合長上下	1.32	0.46	—	1.65	—	—	3.43	14	67	81	—	—	8	8	—
		足崎	0.07	0.19	—	1.09	—	—	1.35	3	29	32	—	—	8	8	—
		蛸浦	0.04	0.35	—	2.21	—	—	2.60	5	16	21	—	—	1	1	—
		青永山生	—	—	—	—	—	—	—	13	41	54	—	—	1	1	—
		宿野	0.07	0.16	1.93	5.38	—	0.56	8.10	8	3	11	13	7	1	21	—
	綾里村	田石	0.02	0.02	0.04	0.18	—	0.30	0.53	2	3	5	1	—	6	7	—
		湊	0.10	1.51	0.45	4.35	—	0.21	6.62	16	7	23	15	1	33	49	—
		岩野	0.10	0.34	—	3.17	—	0.09	3.70	24	6	30	17	1	44	62	—
		砂子	0.09	1.56	0.07	4.63	—	—	6.38	16	9	25	8	4	5	17	—
		小白	0.04	0.34	—	2.77	—	—	3.45	33	7	40	8	3	1	12	—
	越喜來村	本根	0.08	0.81	0.05	2.49	—	—	3.43	10	9	19	—	—	—	—	—
		嶺	0.07	1.23	0.03	0.53	—	—	1.86	13	13	26	2	—	3	5	—
		—	—	—	—	23.26	—	—	23.26	28	5	33	1	—	3	4	—
		—	0.81	0.20	0.78	0.33	—	0.50	2.62	31	6	37	1	1	4	6	—
		—	0.91	0.10	1.12	—	—	—	2.13	27	2	29	7	2	9	18	—
	吉村	本根	3.64	0.37	3.57	3.57	—	—	11.15	117	—	117	61	28	16	105	—
		嶺	0.47	0.20	0.90	1.44	—	—	3.01	19	12	31	1	—	5	6	—
		砂子	0.15	0.02	0.17	0.12	—	—	0.46	6	2	8	—	1	1	2	—
		小白	0.98	0.10	1.35	0.53	—	0.23	3.24	34	—	34	18	48	1	67	—
		—	0.06	0.02	0.14	0.02	—	—	0.21	2	—	2	1	1	1	3	—
	唐丹村	花露	0.33	0.51	0.03	0.94	—	—	0.91	13	3	16	6	4	5	15	—
		本小片荒大	2.14	2.45	4.29	5.29	0.15	0.26	14.58	101	—	101	136	200	29	355	—
		—	1.98	2.85	0.33	0.43	0.26	0.47	6.32	107	1	108	4	2	5	11	—
		—	0.63	0.93	0.43	0.99	1.32	2.48	7.04	33	1	34	3	3	1	7	—
		—	0.39	0.64	4.95	5.95	0.07	0.09	12.09	11	—	11	7	4	—	11	—

縣名	町名	村落名	土地の被害						家屋の被害				人命の被害												
			宅地		田地		山林		計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	行衛不明	負傷	計								
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水																	
岩手縣	釜石町	東仲澤門場只大松嬉平白佐	前町村 前所越 渡原 石田 濱須	5.63	48.07	—	—	—	—	53.70	戸	戸	戸	人	人	人	人								
											87	44	131	1	—	4	5								
											76	33	109	1	—	8	9								
											—	6	6	—	—	—	—								
											—	27	27	—	—	3	3								
											172	5	177	1	—	35	36								
		322	384	706	19	4	48	71																	
		9	234	243	1	—	9	10																	
		69	17	86	1	—	5	6																	
		85	4	89	1	—	4	5																	
		41	8	49	1	6	9	19																	
		18	70	88	8	3	2	13																	
	鶴居村	兩箱白桑片室根水	石崎岸 濱岸 濱海	1.57	1.73	0.24	1.43	0.05	0.07	5.12	88	3	91	2	1	9	12								
				—	—	—	—	—	—	—	16	17	33	—	—	1	—								
				0.17	0.19	0.18	0.59	0.06	0.15	1.25	1	—	1	—	—	—	—								
				0.23	0.23	0.59	0.99	0.09	0.10	2.14	6	—	6	—	—	—	—								
				0.13	0.17	0.17	0.23	0.06	0.10	0.83	28	11	39	—	—	1	1								
				0.02	0.07	0.33	0.73	0.04	0.03	1.25	15	14	29	1	3	7	11								
	大槌町	小大安吉里赤浪	鉦樋渡 濱板	2.59	1.67	12.11	5.41	—	—	21.69	232	135	357	27	1	32	60								
				3.49	11.45	3.51	15.00	—	—	33.48	—	—	—	—	—	—	—								
				3.59	0.64	—	4.22	—	—	8.45	151	20	170	14	9	34	57								
				3.78	0.23	4.86	9.11	—	—	17.98	97	10	107	6	4	13	23								
				0.23	0.34	0.93	0.81	—	—	1.46	4	23	39	—	—	—	—								
				0.09	0.03	3.53	0.11	—	—	3.82	6	—	6	—	—	—	—								
船越村	船田大小谷	越濱浦島	—	0.99	—	29.71	—	—	39.70	24	—	24	2	—	3	5									
			—	3.93	—	4.95	—	—	8.91	185	11	196	2	1	5	8									
			—	0.33	—	2.97	—	—	3.39	19	16	35	—	—	—	—									
織紋村	織紋跡	笠浦濱	—	2.05	—	1.69	—	—	3.74	7	74	81	—	1	—	1									
			—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	3	—	3	—									
			—	—	—	—	—	—	3	23	26	—	2	—	2	—									
山町	境川南仲八三荒祭寺	田向町 區町 幡日濱谷小路	4.29	9.91	—	—	—	—	14.29	77	—	77	3	—	7	10									
										196	—	196	3	—	9	12									
										92	28	120	—	—	1	3									
										13	19	32	1	—	2	—									
										—	32	32	—	—	—	—									
										8	10	18	—	—	—	1									
大澤村	大澤	里吉雜代部奈刺卷磯切組	0.22	4.73	0.01	6.83	—	0.96	12.81	77	—	77	3	—	7	10									
										196	—	196	3	—	9	12									
										92	28	120	—	—	1	3									
										13	19	32	1	—	2	—									
										—	32	32	—	—	—	—									
										8	10	18	—	—	—	1									
津輕村	赤法	雞濱濱高金白	0.17	0.76	0.95	10.67	—	—	12.55	77	—	77	3	—	7	10									
										196	—	196	3	—	9	12									
										92	28	120	—	—	1	3									
										13	19	32	1	—	2	—									
										—	32	32	—	—	—	—									
										8	10	18	—	—	—	1									
										雞濱村	雞濱濱高金白	0.17	0.76	0.95	10.67	—	—	12.55	77	—	77	3	—	7	10
																			196	—	196	3	—	9	12
																			92	28	120	—	—	1	3
																			13	19	32	1	—	2	—
																			—	32	32	—	—	—	—
																			8	10	18	—	—	—	1

縣名	町村名	部落名	土地の被害						家屋の被害				人命の被害				
			宅地		畑		山林		計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	行方不明	負傷	計
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水									
岩手縣	宮古町	鐵崎	—	0.70	—	0.19	—	—	0.70	23	55	78	156	9	—	4	108
	崎山村	ト中島戸	—	0.02	—	0.10	—	—	0.12	2	—	2	2	—	—	1	1
	田老村	田乙濫小水	—	17.52	—	0.76	—	0.49	18.77	311	1	312	506	311	115	932	
		老部内港澤	—	0.04	—	0.16	—	—	0.20	182	9	191	59	7	—	79	
	小本村	小中茂小	1.42	0.03	24.13	36.10	0.99	0.03	62.70	82	44	123	111	7	26	144	
		本野師成	0.12	0.02	2.66	3.00	—	0.02	5.82	6	2	8	—	—	—	—	
	田野畑村	北机戸	—	—	—	—	—	0.42	0.42	2	—	2	—	—	—	—	
		明井賀	0.01	—	1.03	0.25	3.33	0.34	5.87	1	—	1	3	1	1	5	
		平賀	0.40	—	0.46	0.01	1.12	0.19	2.18	64	—	64	46	33	8	90	
		羅須賀	1.37	—	1.37	0.03	1.48	0.66	4.91	12	7	19	—	—	—	—	
		大須賀	—	—	—	—	—	0.46	0.46	43	—	43	10	8	2	20	
		大野	—	—	—	—	—	0.46	0.46	—	—	—	—	—	—	—	
			0.03	—	—	—	—	0.85	0.85	—	—	—	—	—	—	—	
			—	—	—	—	—	1.12	1.15	—	—	—	—	—	—	—	
	普代村	普代	—	0.40	1.52	13.35	—	—	15.27	70	35	105	6	23	33	62	
		太田名部	—	1.85	2.76	4.94	—	—	9.55	82	2	84	21	78	45	144	
		堀内持井崎	—	1.78	—	0.36	—	—	2.14	24	1	25	1	6	3	10	
		堀内持井崎	—	0.25	—	—	—	—	0.25	6	—	6	—	—	—	—	
	野田村	安川田	—	—	—	0.79	—	0.29	1.08	6	5	11	—	—	1	1	
		下米前	—	—	—	0.07	—	0.12	0.19	—	—	—	—	—	—	—	
	新廣	0.14	0.29	—	3.96	—	3.96	8.21	4	5	9	—	—	—	—		
		0.09	3.21	—	18.21	—	7.43	29.02	43	33	76	5	—	—	5		
		0.03	0.39	—	10.27	—	0.32	11.07	6	—	6	2	—	—	2		
		—	—	—	—	—	—	0.03	3	—	3	—	—	—	—		
宇部村	久喜	—	0.12	—	—	—	—	0.12	6	2	8	3	1	—	4		
	小柳	—	0.08	—	—	—	—	0.08	4	—	4	1	4	—	5		
長内村	下長内	—	—	1.98	1.48	—	—	3.46	—	—	—	—	—	—	—		
	洲子尻	—	0.06	—	—	—	—	0.06	2	—	2	2	—	—	2		
		—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	8	—	4	12		
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
久慈町	湊	—	0.98	—	4.85	—	6.94	12.77	2	10	12	—	—	—	—		
夏井村	大関伊崎	0.01	0.53	0.44	1.81	—	2.97	5.79	1	7	8	1	—	6	7		
		—	—	—	—	—	—	—	1	2	3	—	—	1	1		
中野村	小内家野	0.08	0.33	—	1.15	—	0.29	1.85	4	1	5	4	—	1	5		
	小有中	—	0.01	—	0.09	—	0.99	1.09	1	—	1	—	2	—	2		
		—	—	—	—	—	1.30	1.32	1	—	1	—	—	—	—		
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
種市村	八宿大戸	—	0.56	—	13.23	—	6.94	20.76	33	6	42	49	28	20	97		
	木及濱家尻	—	—	—	—	—	—	—	7	2	9	20	—	6	26		
		—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	4	1	—	5		
		—	—	—	—	—	—	—	8	3	11	1	—	4	4		
計		54.49	155.06	140.82	430.71	13.05	171.09	965.22	4,962	2,270	7,232	1,514	1,133	889	3,536		

(備考) 宮城縣に於ける土地の被害中宅地の部は流失、倒壊、浸水せる建物の建坪面積を總計せるもの
家屋の被害は人家、納屋、其の他建物の棟數を以て表はせるものなり。

岩手縣に於ける家屋の被害中流失、焼失、倒壊は之を區別し得ざるを以てその合計數を以て示す。但し焼失戸數は釜石町に之れ有るのみなり。

上表に就て見るに宮城縣に於ける家屋の流失、倒壊、浸水棟數 4,453棟、死傷 471人、岩手縣に於ける流失、倒壊、浸水戸數 7,232戸、死傷 3,536人、兩縣に於ける死傷合計 4,007人(被害戸數は宮城縣の統計棟數なるを以て兩縣の合計を示し得ず)に達し、岩手縣災害部落に於ける罹災前戸數 24,243戸、人口 146,624人に對する割合夫々 29.8% 2.4% を示す。以て如何に被害の大なりしかを知るに足る。

今昭和八年津浪の被害と後出 IV に記載する明治二十九年津浪被害とに關し、記錄の不明、不備のものを除き、被害の輕重を比較すれば次の如し。

被 害 種 別	縣 名	明 治 29 年	昭 和 8 年
家屋の被害(流失、倒壊)	宮 城 縣 岩 手 縣	2,455戸 5,446戸	4,453棟 4,932戸
人命の被害(死 傷)	宮 城 縣 岩 手 縣	4,693人 28,948人	471人 3,536人

家屋の被害(流失、倒壊戸數)に就て見るに宮城、岩手兩縣に於て明治29年、昭和8年再度の被害大差なきを知る。(宮城縣に於ける昭和8年家屋の被害は棟數を以て示せる爲大なる計數となれるも、一戸二棟の割合と見れば明治二十九年と大差なし。)人命の被害に關しては昭和八年に於ける被害明治二十九年の夫より遙に少なるは、地震の發生に依り津浪の襲來を豫知せる古老その他の避難に對する指導宜敷を得たる結果と推測せらる。

殘存人口、戸數と被害人口、戸數との割合は附圖「昭和八年津浪に依る人口、家屋被害概況表示圖」に示す如し。

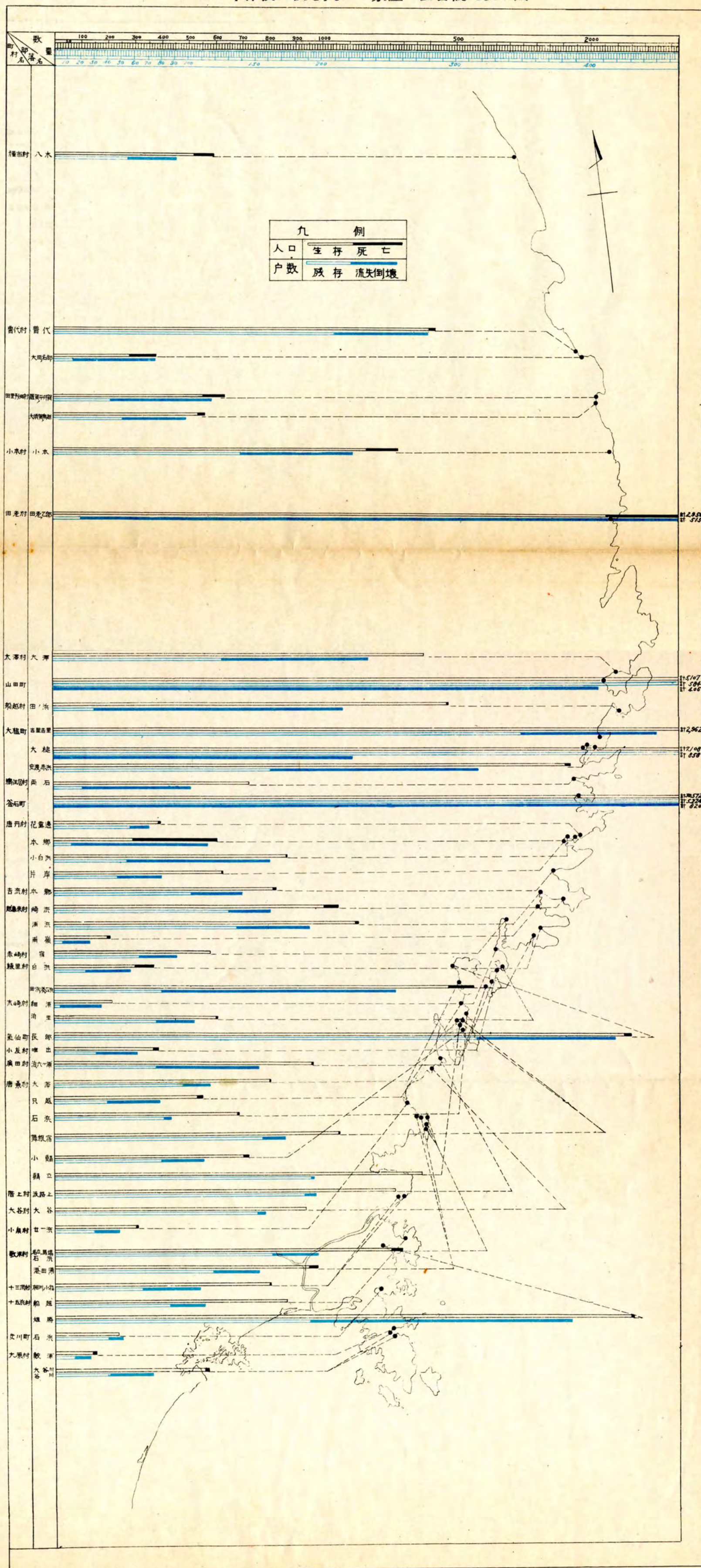
工作物被害概要

土地、家屋、人命に關する被害の外、土木工作物に關する被害概況を示せば次の如し。

第五表 工 作 物 被 害 調

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋	梁	港	灣
宮城縣	唐 桑 村	大只宿 根 小	一米	一米	—	—	護岸 同	547米
			—	—	—	—		337
			179	—	—	—		—
			102	—	—	—		—
	鹿 折 村	三ノ瀨	437	—	—	—	—	—
			—	—	—	—		—
	大 島 村	淺浦 根 田 尻 長	—	—	—	—	護岸 同 同 同	70
			—	—	—	—		90
			—	—	—	—		150
	階 上 村	瀨森 知 川	—	—	—	—	護岸 同	228
			164	—	—	—		208

昭和八年津浪に依る人口・家屋・被害概況表示圖



縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港	灣
宮城縣	大 谷 村	大 谷	—米	—米	—	護岸	255米
	小 泉 村	赤 崎 三 濱 藏 十 一	— 200 130	— — —	— — —	護岸 同	246 147 —
	志 津 川 町	松 原 八 幡 町 川 清 裏 細 水 荒 砥	— — — — —	— — — — —	— — — — —	護岸 突堤 護岸 同 同 同 (延長不明)	88 590 27 277 138
	戸 倉 村	折 立 小 濱 波 谷 水 邊 毒 川	— 304 — — 14	— — — — —	— — — — —	護岸 同 同	133 — 276 140 —
	歌 津 村	伊 里 前 名 足 港 浦 田 ノ 濱 石 中 濱 馬 山 場	— — — — 81 141 —	— — — — — — —	— — — — — — —	護岸 同 同 同	34 15 — 355 — — 105
	十 三 濱 村	小 泊 大 室 小 室 月 濱 相 川 白 濱	48 35 128 675 — —	— — — — — —	— — — — — —	護岸 同	— 75 — — — 30
	大 原 村	鮫 ノ 浦 大 谷 川 前 綱 大 綱 小 淵 小 倉	302 417 426 — — 85 235	— — — — — — —	— — — — — — —	護岸 同 同 海岸堤防	115 — 277 23 396 — —
	鮎 川 村	鮎 川 濱	—	—	1箇(橋長12米)	—	—
	女 川 町	指 濱 御 前 宮 ケ 石 崎 竹 濱 尾 浦 高 崎 女 崎 野 川 飯 濱 子 濱	116 111 1,208 41 29 — — — —	— — — — — — — — —	— — — — — — — — —	1箇(橋長4.55米) 護岸 同 同 (延長不明)	— — — — — — 513 186
	十 五 濱 村	名 振 雄 勝 船 戶 水 濱 船 越 大 須 荒 屋	210 2,473 1,010 116 — — —	— — — — — — —	— — — — — — —	1箇(橋長7.3米) 護岸 防波堤	— — — — 264 434 —
	坂 元 村	磯 濱	—	—	—	海岸堤防 (延長不明)	—
岩手縣	氣 仙 町	福 伏	720	護岸 144	3箇(橋長各3.6米)	船溜 54 船揚場 72	—

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港 灣
岩手縣		長 部	一米	一米	1箇(橋長12.6米)	{護岸360 防砂堤23米 船溜場50
	高 田 町	下 宿	540	護岸 439	1箇(橋長16.2米)	防波堤 452 防潮堤 1,530
	米 崎 村	沼脇 濱	360 — 180	護岸 90 — —	1箇(橋長14.4米) — 1箇(橋長10.8米)	棧橋 護岸 — 41 41
	小 友 村	唯三 江浦	270 900 270 900	— — — —	— — — —	— — — —
	廣 田 村	喜根中泊中大長 多崎濱 澤 央陽洞	540 126 54 330 1,080 — 270	護岸 574 同 513 同 54 同 144 同 702 同 144 同 189	— — 1箇(橋長18米) 1箇(橋長14.4米) 1箇(橋長10.8米) — —	護岸 同 同 同 — — — 51 36 50 100 — — —
	末 崎 村	舟峯細中小梅小門泊恭 河 原岸浦野浦及原濱里石 細神河ノ	54 459 324 684 730 180 270 510 —	— — — — — — — 護岸 198 同 54	— 1箇(橋長3.6米) 3箇(橋長各3.6米) 2箇(橋長3.6米) 2箇(橋長各1.8米) 1箇(橋長3.6米) 1箇(橋長3.6米) — —	— — 護岸 900 棧橋 108 — 護岸 990 棧橋 36 — — 護岸 同 216 216 —
	大 船 渡 町	茶笹永下 尾 船	— — 90 —	護岸 216 — — —	— 1箇(橋長5.4米) 2箇(橋長各3.6米) 1箇(橋長7.2米)	護岸 — 360 — —
	赤 崎 村	合長蛸清永山生宿佐 足崎浦水濱口形野	549 — 666 414 483 342 1,044 1,512 252	護岸 360 — — — — — — 同 108 —	2箇(橋長各9米) — — 2箇(橋長各7.2米) 2箇(橋長各10.8米) — 3箇(橋長各14.4米) — —	— — — 防波堤 54 護岸 234 — 同 189 同 180 同 576 —
	綾 里 村	田石湊岩野白砂小 濱濱 崎前濱濱濱 子 白	1,080 1,080 4,320 630 180 1,070 90 450	— 護岸 180 同 437 — — 同 450 — 同 540	1箇(橋長12.6米) 2箇(橋長各9米) 3箇(橋長各4.7米) 1箇(橋長18米) — 2箇(橋長各12米) — 1箇(橋長9米)	護岸 189 同 270 船曳場360 防波堤414 — — 護岸 270 同 450 同 180 同 180
	越喜來村	崎浦泊市 濱濱 嶺	216 1,080 180 1,440	— 護岸 1,440 — —	1箇(橋長3.6米) 6箇(橋長各14米) — 3箇(橋長9米)	護岸 同 同 同 — 59 36 54
	吉 濱 村	本 根 千 鄉 白 歲	3,240 — —	護岸 180 — —	1箇(橋長9米) — —	荷揚場 51 護岸 36 防波堤414 船曳場 90 船揚場51 船揚場 90
	唐 丹 村	花 露 邊 鄉	89 792	護岸 99 同 495	— 1箇(橋長22米)	護岸 178 同 198

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港 灣
岩手縣		小 白 濱 片 荒 川	890米 890 594	護岸 149米 同 415 同 347	1箇(橋長13米) 1箇(橋長27米) 1箇(橋長22米)	護岸 594米 船揚場 131 護岸 297
	釜 石 町	釜 石	4,871	護岸 248	1箇(橋長117米)	護岸 842 棧橋 360
	鶯 住 居 村	兩 箱 石 箱 片 崎 根 岸 濱	648 302 432 149	護岸 297 同 535 同 2,277 同 495	— 1箇(橋長13米) — 1箇(橋長7.2米)	— — 護岸 495 —
	大 槌 町	大 小 槌 小 里 吉 吉 安 渡	288 — 288 —	護岸 270 同 930 同 360 同 432	1箇(橋長40米) 1箇(橋長149米) — 1箇(橋長54米)	— — — —
	船 越 村	船 越 田 ノ 濱 大 谷 浦 小 谷 島	2,700 2,709 540 189	— — — —	3箇(橋長各3.6米) 2箇(橋長各5.4米) 2箇(橋長各1.8米) 1箇(橋長1.8米)	護岸 540 同 720 船曳場 36 —
	織 笠 村	織 笠	900	—	1箇(橋長14.4米)	護岸 162
	山 田 町	山 田	—	—	—	護岸 459
	大 澤 村		900	—	3箇(橋長各9米)	護岸 90
	重 茂 村	元 村 里 姉 千 吉 石 川 濱 音 部 代 荒 卷 鷲 磯 追 切 仲 組	2,520 360 189 180 180 720 180 180 180 180	護岸 1,620 同 720 同 540 同 540 同 540 同 720 同 540 同 360 — —	7箇(橋長各3.6米) 2箇(橋長各5.4米) 1箇(橋長7.2米) — — 2箇(橋長各5.4米) — — — —	— — 船曳場 270 護岸 194 — 同 104 — — — —
	津 輕 石 村	赤 津 輕 津 輕 石	630 144	護岸 864 同 648	2箇(橋長10.8米) 1箇(橋長5.4米)	護岸 234 —
	磯 雞 村	磯 小 山 小 山 雞 田 田	360 —	護岸 360 —	1箇(橋長14.4米) —	— —
	宮 古 町	宮 鐵 古 鐵 々 崎	— —	— —	1箇(橋長198米) —	棧橋 270 同 360
	田 老 村	田 乙 老 乙 部	9,900	—	3箇(橋長各16.2米)	—
	小 本 村	小 中 本 中 野 茂 島 小 師 成 成	652 832 459 — —	護岸 1,139 — — 同 483 同 110	1箇(橋長43.2米) 1箇(橋長14米) — 1箇(橋長18米) —	— — — 防波堤 59 護岸 54 —
	田 野 畑 村	北 机 山 明 戸 平井賢・羅 賢 和 野 大須賀・島 越 切 牛 大 芦	— 432 684 324 810 — —	— — 護岸 324 — 同 324 — —	1箇(橋長3.6米) 2箇(橋長各3.6米) 3箇(橋長各3.6米) 4箇(橋長各3.6米) 2箇(橋長各5.4米) 8箇(橋長各3.6各) 1箇(橋長1.8米) 1箇(橋長1.8米)	— — — 船揚場 154 護岸 54 — 船揚場 36 — —
	普 代 村	普 力 代 白 持 井 井	1,611 — —	護岸 751 — —	4箇(橋長94*56*45*63米) — —	護岸 72 船揚場 44 護岸 63 護岸 99 船揚場 22

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港 灣
岩手縣		堀内	283米	一米	1箇(橋長5.5米)	船揚場 41.4米
		澤田	—	—	1箇(橋長13米)	船曳場 14.4
		太田名部	149	護岸 99	1箇(橋長30米)	同 49
	野田村	下安	396	—	—	—
		家川	198	—	1箇(橋長22米)	護岸 22
		田内	475	護岸 135	—	81
		城山	644	同 990	1箇(橋長34米)	防波堤 86
		新廣内	297	—	—	—
		廣内	574	—	1箇(橋長27米)	—
	宇部村	久小	108	—	1箇(橋長27米)	船曳場 261
		喜袖	99	—	—	船揚場162 護岸13
	長内村	三子	871	—	—	防波堤 216
	久慈町	湊	—	—	1箇(橋長268米)	防波堤 130
	夏井村	大湊・半崎	660	—	—	—
	侍濱村	北侍	—	—	—	船曳場 216
宮城縣		濱前	—	—	—	護岸 79
		南侍	—	—	—	同 49
	中野村	子内	—	—	—	船曳場 36
		小有	—	—	—	同 18
		中野	—	—	—	同 32
	種市村	八大川	576	護岸 148	—	防波堤189 船溜場61
		宿玉	599	同 56	1箇(橋長5.4米)	護岸 22
		戸川	656	同 248	2箇(橋長各3.6米)	船溜場 22
			374	同 72	—	同 20
			360	—	2箇(橋長各3.6米)	—

昭和八年三陸津浪に依る被害の概況を通覧すれば上掲二表の如くにして、その被害見積額宮城縣に於て、家屋被害額881,308圓、工作物被害額467,790圓、岩手縣に於て、家屋被害額7,557,754圓、工作物被害額7,950,385圓、合計16,857,227圓に達し、その外田畑、山林、船舶、漁具等凡ゆる被害を見積ればその被害額は極めて大なるものであらう。

III 波高、浸水面積、家屋の流失倒壊面積

津浪の波高は震央よりの距離、灣形、灣口の震央に對する方向、海底勾配に依て異り、同一部落に於ても場所に依り異なる。次表に於ける波高は部落地附近に於ける平均最高浸水位に就き、平均最大満潮位より測定したる數字にして、岩手、宮城兩縣の調査にかかわり、多少の誤謬なきを保し難し。卷末に掲ぐる計畫圖に示す縦横斷面圖に於ける波高は、其の縦横斷測量線上に於ける津浪浸水位を示すものなるを以て、下表波高と相異なることあり。

第六表 波高、浸水面積、家屋の流失倒壊區域面積

縣 名	町 村 名	部 落 名	波 高		浸 水 面 積		家屋の流失、倒壊區域面積		灣 形
			明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	
宮城縣	唐桑村	大只小宿舞	m	m	he	he	不	明	乙類第五 同 第四 同 第五 同 上 同 上
			6.59	3.90	16.11	10.21	不	明	
			8.30	6.60	8.48	7.03	〃	〃	
			5.70	2.70	6.96	5.09	〃	〃	
			2.20	1.30	9.08	8.31	〃	〃	
			3.30	2.15	8.28	7.97	〃	〃	
	階上村	波杉路ノ上下	5.60	2.70	85.58	63.41	〃	〃	甲類第二

縣 名	町 村 名	部 落 岸	波 高		浸 水 面 積		家屋の流失、倒壊 區 域 面 積		灣 形
			明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	
宮城縣	大 谷 村	大 谷	m 4.90	m 2.90	he 12.81	he 8.20	不 明	he 1.16	甲類第二
	小 泉 村	二 十 一 濱 藏 内	7.90 11.50	3.70 7.50	8.37 2.02	5.34 1.25	// //	1.74 0.21	甲類第一 同 上
	歌 津 村	港ノ浦 田石名中馬伊里	6.50 7.50 10.50 7.70 7.50 7.50 2.70	4.30 5.40 10.10 5.90 6.90 6.70 1.75	12.06 12.82 3.27 5.09 11.54 9.38 11.97	12.06 8.83 2.54 2.98 9.38 6.03	// // // // // // //	3.30 2.48 0.49 0.76 1.52 —	甲類第一 甲類第二 甲類第一 甲類第二 同 上 同 上 乙類第五
	志津川町	清細志津川	2.40 3.50 1.20	0.90 2.20 0.60	10.06 10.15 58.31	6.41 6.25 14.49	// // //	0.55 0.21 —	乙類第五 同 上 同 上
	戸 倉 村	水折	0.90 2.40	0.30 1.60	7.36 18.16	3.60 8.08	// //	1.48 —	乙類第六 同 上
	十三濱村	相 川	5.80	4.10	6.90	5.74	//	1.82	乙類第四
	大 原 村	小大網倉 谷 谷 川 鮫ノ川 小 淵	— 4.90 2.50 2.70 1.70	1.40 5.60 3.95 3.50 2.50	— 6.97 10.39 2.39 3.47	3.90 12.13 16.32 6.03 4.78	// // // // //	— — 2.07 0.76 —	乙類第五 同 上 同 上 乙類第四 乙類第五
	女 川 町	女 川	1.40	2.30	11.80	15.30	//	—	丙種第七
	十五濱村	雄船勝 船 渡 名 越 荒 振	3.60 — — —	3.85 3.50 3.50 —	15.17 — — —	25.59 1.74 — 1.75	// // // //	5.28 0.66 — 1.16	乙類第五 同 上 同 上 甲類第一
岩手縣	氣 仙 町	長盛、古部 砂、要、双 六、谷、伏 高、田、町	3.45 3.45 —	3.85 3.85 —	6.42 1.80 65.98	5.78 1.12 62.14	// // //	2.87 0.62 24.60	乙類第四 乙類第六 同 上
	米 崎 村	沼腸ノ田 濱 砂	— 4.21 —	— 3.00 —	8.63 0.21 0.25	5.93 9.19 0.22	// // //	5.11 0.19 0.15	乙類第六 乙類第五 乙類第六
	廣 田 村	根中泊大長六ヶ 崎、野陽洞 澤 陽 浦	32.60 — 6.00 — — — 9.00	28.87 — 4.00 — — — 7.00	7.84 11.65 6.75 4.04 1.41 4.67 7.60	7.00 10.05 5.23 3.41 1.04 3.42 6.46	// // // // // // //	1.65 2.98 3.47 1.49 0.33 1.49 0.16	甲類第一 乙類第五 乙類第六 甲類第二 乙類第六 乙類第五 甲類第二
	小 友 村	唯兩三森鹽矢 日ノ	9.20 — 1.40 — — —	7.70 — 1.70 — — —	7.36 3.09 7.55 5.91 2.96 1.36	6.32 2.40 6.20 3.59 2.31 0.97	// // // // // //	2.81 6.04 0.43 — — 0.21	乙類第五 乙類第六 乙類第四 同 上 同 上 乙類第五
	末 崎 村	舟細小梅小門泊基 河 細 河ノ	— 5.00 — — 8.90 8.00 —	— 3.00 — — 6.50 6.50 —	2.69 1.89 2.60 3.67 1.98 4.45 1.29	2.25 1.52 2.13 3.32 1.88 3.14 0.87	// // // // // // //	0.26 1.06 0.63 0.02 0.31 2.41 0.05	乙類第五 同 上 乙類第四 乙類第五 同 上 同 上 乙類第四
	大船渡町	赤澤、茶屋前 釜 崎 永 澤 下 船 渡、平	3.20 — — 7.00	1.80 — — 6.00	17.18 3.97 1.78 3.04	15.76 3.43 1.35 2.69	2.10 1.58 1.39 2.81	1.98 1.19 1.16 2.28	乙類第六 同 上 同 上 同 上

縣 名	町 村 名	部 落 名	波 高		浸 水 面 積		家屋の流失、倒壊、 區 域 面 積		灣 形
			明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	
岩手縣	赤 崎 村	合長 蛸清 永山 生 宿 野	m 18.00	m 13.00	he 不明	he 8.10	he 不明	he 4.27	甲類第二
			— 6.10	— 4.30	" "	0.53 6.62	" "	0.33 3.64	甲類第三
			— —	— —	" "	3.70 6.33	" "	2.41 1.90	乙類第五
			5.45	3.09	" "	6.33 3.45	" "	1.90 1.16	乙類第六
			— —	— —	" "	3.45 3.43	" "	1.16 1.02	乙類第五
			2.70	1.80	2.52	1.86	"	1.44	同上
			— —	— —	不明	23.26	"	13.87	同上
			— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	綾 里 村	田 石 湊 岩 野 白 砂 小	11.00	7.70	3.38	2.62	"	0.81	甲類第二
			13.00	9.00	2.66	2.13	"	0.91	同上
			12.57	9.00	17.69	11.15	"	4.63	同上
			— —	— —	4.69 0.99	3.01 0.46	" "	0.47 0.15	同上
			25.60	18.60	4.79	3.24	"	2.64	甲類第一
	越喜來村	崎 浦 市 泊 嶺	11.63	7.80	4.98	4.33	2.72	2.49	乙類第四
			9.28	6.72	20.81	19.46	1.50	8.22	同上
			— 13.25	— 8.63	8.24 6.28	7.65 5.73	1.00 0.97	0.94 0.59	同上
	吉 濱 村	本 根 千 歳	26.13	14.30	111.00	53.78	10.20	57.50	甲類第一
			13.60	6.10	30.62	20.21	0.99	0.59	甲類第三
	唐 丹 村	花 露 本 白 小 荒 片 大	13.80	8.30	1.45	0.91	0.83	0.66	乙類第四
			14.50	9.30	18.49	14.58	6.26	5.12	同上
			14.60	9.60	7.02	6.32	8.23	4.12	乙類第五
			— 13.00	— 7.80	7.60 15.20	7.04 12.09	6.70 0.63	6.54 0.33	同上
			12.50	6.90	0.78	0.22	0.06	—	乙類第四
	釜 石 町	釜 平 白 佐	7.90	4.13	87.20	53.72	66.60	34.65	乙類第五
			7.50	4.50	11.12	6.41	4.09	3.80	同上
			7.40	4.40	3.68	1.74	1.93	1.13	同上
			— —	— —	3.67	2.52	0.50	0.49	甲類第二
	鵜 住 居 村	雨 箱 白 桑 片 室 根	6.70	5.50	7.34	5.12	3.28	2.61	乙類第四
			8.50	4.40	4.89	1.25	2.12	0.45	乙類第五
			6.40	5.50	3.99	2.14	0.53	0.50	同上
			6.90	6.00	2.31	0.86	1.69	0.42	乙類第六
	大 槌 町	小 大 安 吉 浪 赤	— 3.80	— 2.30	25.87 41.65	21.69 33.48	13.20 13.95	12.40 8.66	乙類第五
			3.00	2.00	9.34	8.45	4.90	3.69	同上
			8.50	4.20	27.64	17.98	12.78	7.09	同上
			8.85	4.75	4.69	3.82	0.17	0.09	乙類第六
			4.20	3.90	2.11	1.46	0.30	0.29	同上
			— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
	船 越 村	船 田 大 小 谷	6.58	3.55	37.05	30.70	9.90	1.98	乙類第四
			9.11	6.08	11.53	8.91	7.93	4.96	同上
			7.87	4.84	5.46	3.30	1.49	0.99	同上
	織 笠 村	織 細 跡	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
			4.39	2.88	5.14	3.74	1.98	0.18	乙類第五
	山 田 町		6.57	4.75	15.20	14.20	7.60	6.65	乙類第六

縣 名	町 村 名	部 落 名	波 高		浸 水 面 積		家屋の流失、倒壊、 區 域 面 積		灣 形
			明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	
岩手縣	大澤村	大澤	m 6.57	m 4.75	he 16.03	he 12.81	he 7.15	he 4.02	乙類第六
	重茂村	元姉千石川 音與種荒鶴追	—	—	10.70	6.64	6.66	6.10	甲類第二
		里吉雞濱代部奈刺卷磯切	16.20	10.20	2.32	2.10	2.30	2.06	甲類第一
			—	—	2.15	1.20	1.60	0.83	甲類第二
			—	—	1.70	0.81	1.50	0.66	同 上
			—	—	1.59	0.58	0.76	0.30	乙類第四
			10.60	7.60	3.56	1.71	0.93	0.42	甲類第二
			—	—	1.30	0.47	0.45	0.21	同 上
			8.18	3.63	0.70	0.33	0.41	0.21	同 上
			—	—	1.40	0.21	0.35	0.05	乙類第六
	津輕石村	赤法 前脇	—	—	58.00	20.64	16.85	4.96	乙類第六
			—	—	16.98	7.97	4.96	2.98	同 上
	磯鷄村	磯高金白	7.27	2.27	17.24	12.55	4.04	0.93	乙類第五
			7.27	2.27	11.93	8.47	4.90	1.95	乙類第六
			—	—	6.62	6.06	2.62	0.93	乙類第五
			7.27	2.27	10.68	0.97	1.20	—	同 上
	宮古町	宮嶽 ケ 古崎	8.48	3.36	0.89	0.53	0.49	0.33	乙類第五
			8.48	3.36	2.58	0.70	1.12	0.41	乙類第四
	崎山村	ヤ田女 中遊 ト島戸	—	—	0.23	0.12	0.11	0.03	甲類第二
	田老村	田乙下楡小永 攝 老部待内港澤	13.64	7.60	21.50	18.77	17.52	15.54	甲類第二
			10.00	7.00	0.31	0.20	0.17	0.10	甲類第三
	小本村	小中茂小 本野師成	5.38	2.40	63.35	62.70	1.64	1.11	甲類第二
			—	—	9.62	5.82	0.39	0.23	同 上
			20.20	16.98	0.17	0.11	0.13	0.09	同 上
			—	—	2.92	1.80	0.33	0.24	同 上
	田野畑村	北 机 山 戸賀賀野賀越牛	—	—	0.54	0.42	—	—	甲類第三
			—	—	0.49	0.34	—	—	同 上
			—	—	6.28	5.87	—	0.01	甲類第二
			15.80	10.00	2.80	2.18	1.75	1.49	同 上
			—	—	1.28	1.15	—	—	同 上
			19.60	10.00	4.11	3.94	2.45	1.89	甲類第三
			—	—	0.51	0.46	—	—	同 上
	普代村	普大堀力白黒 代部内持井崎	18.12	13.00	19.63	15.27	—	0.33	甲類第二
			12.93	9.10	—	9.55	—	0.80	甲類第三
			—	—	—	2.14	—	0.11	同 上
			—	—	—	0.25	—	0.18	同 上
	野田村	下玉 米前 新廣 家川 田濱 山内	9.18	4.00	—	1.08	—	0.79	甲類第三
			9.18	4.00	—	0.19	—	—	同 上
			—	—	—	4.66	—	3.37	同 上
			—	—	—	29.02	—	9.62	同 上
			—	—	—	11.07	—	4.07	同 上
			—	—	—	0.03	—	0.03	同 上

縣 名	町 村 名	部 落 名	波 高		浸 水 面 積		家屋の流失、倒壊、 區 域 面 積		灣 形
			明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	明治29年	昭和8年	
岩手縣	宇 部 村	久 小 喜 袖	m 21.20 21.20	m 6.38 6.38	he 2.71 0.59	he 0.12 0.08	he 1.03 0.23	he 0.09 0.05	甲類第三 同 上
	長 内 村	下 長 内 子 端 尻 二 洲 河	— 23.00	— 6.50	7.94 0.12	3.46 0.05	— —	0.10 0.04	甲類第二 同 上
	久 慈 町	湊	15.70	6.70	—	12.77	—	1.04	甲類第二
	夏 井 村	大 閉 伊 崎 口	—	—	5.83	5.79	—	0.03	甲類第二
	侍 濱 村	桑 侍 白 本 麥 畑 濱 前 波 生	26.00	6.44	0.48	—	0.08	—	甲類第三
	中 野 村	小 有 子 内 家 野	20.00 — —	6.40 — —	3.78 3.91 1.65	1.85 1.09 1.32	1.42 0.02 0.05	0.41 0.02 0.03	甲類第三 同 上 同 上
	種 市 村	八 宿 戸 大 川 類 木 戸 家 濱 尻	11.64 12.00	6.81 7.00	24.51	29.77	—	1.12	甲類第三

〔備考〕 上表中被高は部落地附近に於ける浸水位の最高平均を取り平均最大満潮位より測定せるものなり。

灣形の類別は震災豫防評議會案に依る。震災豫防評議會は昭和八年三月三陸地方津浪被害に鑑み浪災豫防に關し調査研究し、「津浪災害豫防に關する注意書」を添へ、内務大臣に建議あり。その第二章「海岸線の形狀及び海底の深淺と津浪の加害狀況」を下に抜粋し、灣形と被高との關係に就て概念的觀念を得るに資す。

海岸線の形狀及び海底の深淺と津浪の加害狀況——震災豫防評議會「津浪災害豫防に關する注意書」(第二章)抜粋。

津浪は平常の水準面上 20~30 米の高さに達することあるを以て、次に記す港灣の地形は各々の場合に相當する高さを修正して考ふるを要す、從て平常の水準にては V 字形ならざるものも、水準を若干高めるときは其の形式に近づくものありと知るべし。三陸沿岸に普通見るが如き港灣に於ては灣口の深さ甲、乙類に於ては概して 30~40 米乃至 70~80 米なりとす。

甲類 直接外洋に向へる灣

第一 灣形 V 字をなせる場合 津浪は灣奥に於て 10 米乃至 30 米の高さに達し、汀線に於ては一層勢を増して浪を更に高處に打上ぐるを通常とす。

綾里灣、吉濱灣、姉吉、集、十五濱村荒等此部類に屬す。

第二 灣形 U 字をなせる場合 津浪は前者に比較して稍輕きも高さ 15 米に達することあり。

田老、久慈、小本、大谷等此部類に屬す、綾里湊は其變形と見るを得べし。

第三 海岸線に凸凹少き場合 津浪は其の高さ前記第二に近くして少々低く 12 米に達することあり。

吉濱村千歳、赤崎村長崎、十五濱村大須等此部類に屬す。

乙類 大灣の内に在る港灣

第四 港灣 V 字形をなして大灣に開く場合 津浪は第一の形式を取るも波高少々低く十五米に達することあり。

船越山田の兩灣に連なれる船越、兩石灣に開ける兩石港、十五濱村相川等此部類に屬す。

第五 港灣 U 字形をなして大灣に開く場合 津浪は第四に比較して一層低く、波高 7~8 米に達することあり。

廣田灣に開ける泊、釜石灣に連れる釜石港、大槌灣に連なれる大槌港、追波灣に開ける船越灣等此部類に屬す。

第六 海岸線凸凹少き場合 津浪は第五に比して一層低く 4~5 米に達することあり、又破浪することなく單に水の増減を繰り返すに過ぎざる場合多し。

山田灣内に於ける山田港、大船渡灣に於ける大船渡港等此部類に屬す。

丙類

第七 灣細長く且つ比較的に淺き場合 津浪は概して低く、波高漸く 2~3 米に達す。

氣仙沼灣此部類に屬し、女川灣之に近し。

丁類

第八 九十九里濱型砂濱 海岸直線に近く海底の傾斜比較的に緩にして、津浪は其の高さ 4~5 米に達することあり。

青森縣東海岸、宮城縣亘理郡沿岸等此部類に屬す。

港灣は其の形狀深淺に従ひ以上の如く數種に分類し、各々の場合に相當する波高限度の概數を記載せるも灣側及び灣底の凸凹屈曲等の津浪に與ふる影響も亦決して輕視すべきにあらず、屈曲凸凹甚しきときは浪勢之に由つて減殺せらるゝに至るべく、從て同型に屬する港灣に於ても其環境の如何によりて波高限度に多少の差違ありと知るべし。

波高及浸水面積

上掲第六表を通覽するに牡鹿半島以南に於ては大體に於て明治二十九年の波高より昭和八年の波高大にして、牡鹿半島以北は明治二十九年の波高昭和八年の夫より高く、其の差北上するに従ひ大となるの觀あり。明治二十九年の震災が昭和八年の夫よりも北方に偏せるを示すものであらう。

今明治二十九年昭和八年兩回の津浪に於て最高の波高を知る爲に波高 20 米以上に達したるものを摘出すれば次の場し。

		波 高		浸水面積		灣形
		昭和八年	明治廿九年	昭和八年	明治廿九年	
廣田村集	根崎	28.87 米	32.60 米	7.00 ha	7.84 ha	甲類第一
綾里村	白濱	18.60	25.60	3.24	4.79	同 上

		波 高		浸水面積		灣 形
		昭和八年	明治二十九年	昭和八年	明治二十九年	
小本村	茂 師	16.98米	20.20米	0.11he	0.17he	甲類第二
吉濱村	本 郷	14.30	24.13	53.78	111.00	甲類第一
侍濱村	侍 濱	6.64	26.00	—	0.48	甲類第三
長内村	大 尻	6.50	23.00	0.05	0.12	甲類第二
中野村	小子内	6.40	20.00	1.85	3.78	甲類第三
宇部村	久喜、小袖	6.38	21.20	0.20	3.30	同 上

波高に於て明治二十九年、昭和八年の兩回を通し最高を示すものは廣田村集、根崎（附圖第 11 圖参照）にして、第二位は綾里村白濱（附圖第 21 圖参照）である。（綾里村白濱に於ける波高は廣田村集根崎より大なりと云ふ調査あれ共、本調査に依る波高測定標準に基き岩手縣の掲出せるものは上記の如し）。然して兩回に於ける波高が大體に於て不變なる順位を示すは灣形が波高に對し決定的なる要素たる事を示すものである。此處に注意すべきは吉濱村本郷に於ける明治二十九年波高が小本村茂師の夫よりはるかに大なりしにもかかわらず、昭和八年に於ては逆の現象を示せるは、吉濱村本郷に於て津浪豫防施設として築造せる防潮堤（VI. 明治二十九年 三陸津浪被害に對する復興事業概要参照）に負ふ處大なりしものと想像せらる。次に波高と浸水面積との關係に就て見るに、浸水面積は同一場所に於ては波高に比例する事は勿論なるも、一方波高の極めて大なる個所に在りては浸水面積は比較的狭少なるを知る。之は波高の大なるが如き港灣に接する地形は自ら高峻にして、平地部少き爲なる事を示すものである。

家屋の流失倒壊區域面積

家屋の流失倒壊區域面積は、直接に人命、財産の災害を受けたる面積であつて、大體に於て津浪の破壊的勢力を發揮したる區域なりと看做して差し支へなし。市街地に於ける流失、倒壊區域と殘存家屋群との境界は明らかに津浪の破壊的衝擊力を及ぼしたる範圍を示すものである。

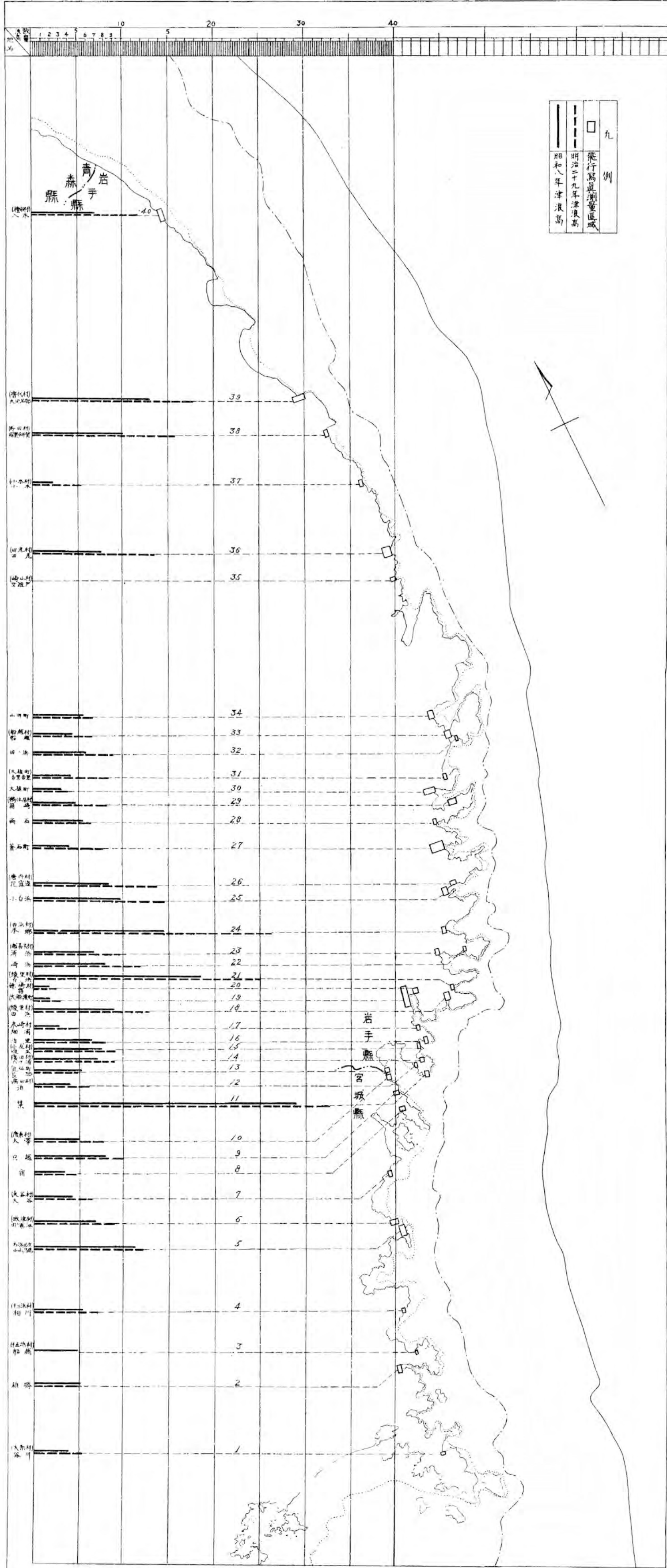
明治二十九年津浪に於ける家屋の流失、倒壊區域は明瞭ならざるも、殘存せる極めて不備なる資料並に現場に於ける古老の説明に依て見るも、浸水面積が大體に於て昭和八年に於けるものより大なりしと同じく、津浪の破壊的勢力を發揮せる區域も、昭和八年の夫より、少々大なりしと推定せらる。

明治二十九年以前に於ける津浪が、如何なる程度のものなりしやを知るに足る資料を缺けるも、少くも最近の數回に於ては明治二十九年程度以上の猛威を振ひたる事なきものゝ如くである。従て昭和八年津浪に於ける家屋の流失、倒壊區域を明確にし、明治二十九年程度の津浪に對し、之の區域より少々廣き範圍を最も危険なる區域と看做さねばならぬ。即 之の區域が津浪豫防對策として、第一に考慮せらるべき土地であり、第二には浸水區域に對する防護施設である。

附圖 波高並、飛行寫眞測量圖位置表示圖 は昭和八年津浪災害復興計畫樹立の爲行へる飛行寫眞測量圖 52 枚の内本報告書に掲出する 40 枚の位置を表示し、併せて其各個所に於ける明治二十九年、昭和八年兩回の波高を圖示せるものなり。

附圖第 1 圖乃至第 40 圖は津浪被害の比較的大なりし部落を中心とする飛行寫眞測量圖にして明治二十九年昭和八年兩回に於ける津浪浸水區域並に昭和八年津浪に依る家屋の流失、倒壊區域を記入せり。

波高並飛行寫真測量圖位置表示圖



IV. 明治二十九年三陸津浪被害に對する復興事業概要

明治二十九年以前に於ける三陸津浪災害に對する復興事業に就ては何等の記録なく、明治二十九年の夫も記録の留む可きもの尠きも、以下被害の大略と、當時施行せられし二三の復興事業並に津浪防禦對策を述べ、夫等施設の昭和八年津浪に與へたる効果に及び、以て津浪被害對策に對する參考に資せんとす。

明治二十九年三陸津浪被害概要

第七表 明治二十九年津浪に依る土地、家屋、人命被害調査

縣 名	町村名	部落名	土 地 の 被 害				家 屋 の 被 害				人 命 の 被 害		
			宅地	田畑	山林	計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	負傷	計
岩手	小泉村	藏内	5,190	10	—	5,190	16	1	2	19	60	10	70
		廿一	23,680	60	—	23,740	28	5	4	37	148	58	206
		歌生	1,100	20	—	1,120	3	1	3	7	12	—	12
		今朝	60	605	—	665	—	1	2	3	2	1	3
		磯泉	840	—	—	840	1	5	56	62	1	—	1
	大谷村	大平	27,060	6,550	—	33,610	67	2	1	70	241	60	301
		谷磯	7,500	1,500	—	9,000	14	2	1	16	28	20	102
	階上村	明杉	21,881	5,381	100	27,362	81	7	—	88	432	114	546
		戸下磯	862	—	—	862	3	1	—	4	7	2	9
		長磯	646	611	—	1,557	4	8	10	22	3	1	4
		大島村	崎長	2,941	1,392	80	4,413	8	5	47	60	29	2
	田外		805	560	—	1,365	2	—	—	2	9	—	9
	磯中		1,000	1,524	120	2,646	3	—	—	3	16	—	16
	濱外		1,235	200	—	1,435	4	1	—	5	7	1	8
	松岩村	片濱	559	1,832	—	2,391	—	1	80	81	1	—	1
	鹿折村	鶴ヶ浦	3,737	515	3	4,255	3	7	29	39	8	5	13
唐桑村	舞根	1,764	460	—	2,224	6	7	6	19	13	11	24	
	浦宿	707	180	—	887	2	4	6	12	4	5	9	
	馬場	3,292	840	—	4,132	18	1	—	19	36	20	56	
	石立	1,208	160	30	1,398	5	—	—	5	38	6	44	
	鮎立	3,258	620	150	4,028	15	2	2	19	98	23	121	
	小崎	15,689	175	—	15,864	44	8	14	66	67	45	112	
	笹崎	8,713	300	—	9,013	26	—	1	27	115	30	145	
	笹崎	42	90	—	132	1	—	—	1	14	1	15	
	笹崎	1,033	150	50	1,233	2	1	1	4	34	2	36	
	越井	6,440	3,280	60	9,780	51	—	—	51	237	8	245	
		岩井	225	—	30	255	2	—	1	3	11	1	12
		大澤	11,910	6,400	200	18,510	53	—	—	53	178	12	190
御嶽村	大澤	549	35	675	1,259	—	2	1	3	3	4	7	
志津川町	沖須賀	8,183	770	50	9,003	36	26	188	250	34	50	84	
	荒戸	8,053	49	—	8,102	4	21	5	30	30	16	46	
	袖濱	831	102	—	933	3	8	3	14	11	3	14	
	平磯	7,670	32	—	7,702	5	5	6	16	10	6	16	
	清水	16,615	14,500	80	31,195	60	2	3	65	168	75	243	
	清浦	11,711	975	2	12,688	34	—	—	34	122	15	137	
歌津村	笹ノ	2,369	198	15	2,582	4	6	2	12	10	—	10	
	寄木	5,944	216	10	6,170	9	—	3	12	29	2	31	
	伊里	27,050	561	15	27,626	42	18	12	72	58	61	119	
	管前	2,941	572	10	3,563	6	1	2	9	5	—	5	
	笹濱	454	314	5	773	3	3	—	6	6	—	6	

縣 名	町村名	部落名	土 地 の 被 害				家 屋 の 被 害				人 命 の 被 害		
			宅地	田畑	山林	計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	負傷	計
宮城縣		稲淵濱	—	36	—	36	—	—	—	—	2	—	2
		泊濱	3,891	14	12	3,917	7	2	9	18	8	2	10
		馬場濱	6,661	158	5	6,824	13	1	4	18	51	19	70
		中山濱	5,655	589	20	6,255	32	2	1	35	154	28	182
		名足濱	8,352	2,340	9	10,701	26	—	1	27	124	15	139
		石濱	3,896	451	—	4,347	16	4	—	20	67	17	84
		田濱	34,015	1,989	110	36,114	52	3	—	55	209	43	252
		湊濱	11,932	5,236	40	17,238	39	4	—	43	105	15	120
	戸倉村	長瀧水濱	4,939	720	6	5,683	11	7	1	19	30	17	47
		寺濱	1,965	1,080	—	3,045	3	1	2	6	10	1	11
		藤濱	2,910	220	—	3,130	3	3	1	7	8	6	14
		瀧濱	898	49	—	947	5	1	5	11	2	—	2
		波傳谷	6,690	640	—	7,340	7	4	18	29	16	12	28
		津ノ宮	349	24	—	373	2	3	1	6	—	—	—
		水戸邊	127	830	—	957	—	3	—	3	—	—	—
十三濱村		折立	975	6,100	—	7,075	2	8	51	61	—	—	—
		相川濱	10,852	110	359	11,312	37	5	—	42	161	33	194
		大指濱	3,360	2	5	3,367	9	1	1	11	14	15	29
		小指濱	3,639	15	17	3,671	10	1	2	13	24	17	41
		小室濱	147	4	—	151	—	2	3	5	—	—	—
		大室濱	2,479	54	7	2,540	4	10	4	18	13	6	19
		小泊濱	634	3	—	637	—	3	2	5	—	—	—
		小長濱	95	25	—	120	—	2	4	6	2	4	6
		月立濱	102	21	5	128	—	4	4	8	1	—	1
		神濱	31	25	—	56	—	1	4	5	—	—	—
		白濱	—	7	—	7	—	—	5	5	—	—	—
		瀧濱	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
		波濱	—	8	—	8	—	—	—	—	—	—	—
女川町		女川	11	10	19	40	—	1	16	17	1	2	3
		神々子	653	30	4	687	—	8	19	27	—	4	4
		飯沼	—	17	1	18	—	—	13	13	—	—	—
		浦ノ浦	10	4	—	14	—	1	2	3	—	—	—
		浦ノ浦	49	7	—	47	—	—	2	2	—	—	—
		御前	70	2	—	72	—	1	8	9	—	—	—
		指ヶ島	120	2	—	122	—	2	27	29	—	—	—
		出ヶ島	640	163	21	824	3	7	23	33	—	—	—
		寺ヶ島	—	—	—	—	—	—	4	4	—	—	—
		石ヶ島	439	—	—	439	—	6	17	23	—	—	—
		桐ヶ島	405	—	—	405	—	7	15	22	—	—	—
		江ノ島	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—
		小宮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大谷村		谷川	1,075	365	—	1,440	4	2	11	17	1	—	1
		給分	—	183	—	183	—	5	11	16	—	—	—
		鮫ノ泊	—	90	—	90	—	—	6	6	—	—	—
		濱原	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—
		小網	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
萩濱村		小福	—	50	—	50	—	—	2	2	1	—	1
		實崎	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—
鮎川村	鮎川	—	—	150	—	150	—	—	10	10	—	—	—
十五濱村		雄勝	4,293	1,078	45	5,419	17	102	23	142	31	235	263
		船名	8,598	472	576	9,553	12	7	42	61	27	80	107
		名振	1,692	70	—	1,762	1	1	29	31	—	—	—

縣 名	町村名	部落名	土 地 の 被 害				家 屋 の 被 害				人 命 の 被 害		
			宅地	田畑	山林	計	流失	倒壊	浸水	計	死亡	負傷	計
		水大分立唐	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	人	人	人
		濱濱濱濱	—	—	—	—	—	—	9	9	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	17	17	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	13	13	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	2	42	44	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	4	42	46	—	—	—
	大川村	長 面	150	25	—	175	1	—	57	58	1	—	1
	計		被害見積額ナルヲ以テ計 數セス				984	393	1,078	2,455	3,452	1,241	4,693

(備考) 土地の被害に就ては流失、浸水せる面積に就き被害見積額を以て計上せるものなり。人命の被害中死亡には行衛不明をも含む

縣 名	町村名	部落名	土 地 の 被 害								家屋の被害 流失	人 命 の 被 害		
			宅 地		田 畑		山 林		計	死亡		負傷	計	
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水						
岩手縣	氣仙町		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	8.22	戸 37	人 42	人 —	人 42	
	高田町		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	65.90	1	19	10	22	
	米崎村	沼脇 田澤 濱 砂	— — —	1.72 — 0.12	— — —	6.94 0.21 0.13	— — —	— — —	8.66 0.21 0.25	18	11	38	49	
	小友村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	28.23	65	203	66	269	
	廣田村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	43.96	146	570	98	638	
	末崎村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	23.04	159	620	50	670	
	大船渡町		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	25.97	67	97	70	167	
	赤崎村	宿	内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	2.52	29	455	69	524	
	綾里村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	35.86	183	1,347	95	1,442	
	越喜來村	崎濱 浦泊 市 嶺	1.86 1.41 1.66 2.02	2.21 — — —	0.42 19.40 6.58 4.24	— — — —	— — — —	0.49 — — —	4.98 27.81 8.24 6.28	118	430	58	488	
	吉濱村	本郷 根白 千 歳	1.65 0.09 —	0.33 — 0.01	19.83 0.27 —	9.91 0.49 0.27	29.73 — —	49.55 29.77 19.84	111.00 30.62 20.12	73	194	57	251	
	唐丹村	花露邊 本白郷 小濱岸 片川石 荒大	0.44 2.64 2.43 0.81 0.58 0.13	0.72 3.32 3.32 1.15 0.81 0.23	0.04 4.96 — 2.65 5.80 0.06	0.06 7.39 0.58 1.33 7.64 0.01	0.04 0.02 0.10 0.33 0.11 0.11	0.10 0.07 0.59 1.33 0.23 0.24	1.45 18.40 7.02 7.60 15.20 0.78	224	2,135	78	2,213	
	釜石町	釜石 平田 白濱 須	6.64 1.12 0.95 0.43	73.30 10.00 2.73 3.24	7.23 — — —	— — — —	— — — —	— — — —	87.20 11.12 3.68 3.67	615	5,900	500	5,500	
	鶴住居村	兩箱 白桑 片室 根	4.26 内譯不明 0.59 0.75 0.05	0.15 〃 0.22 0.22 0.12	0.47 〃 6.66 0.20 0.59	2.30 〃 2.27 0.93 0.46	0.09 〃 0.12 0.06 0.05	0.08 〃 0.13 0.15 0.61	7.34 4.89 3.99 2.31 1.79	227	1,045	78	1,123	

縣 名	町村名	部落名	上 地 の 被 害								家屋の 被 害 流失	人 命 の 被 害		
			宅 地		田 畑		山 林		計	死亡		負傷	計	
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水						
岩手縣	大槌町		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	111.30	500	900	724	1,924	
	船越村	船越 田ノ濱 浦 大 小 谷 島	— — — —	4.00 5.00 0.50 0.03	— — — —	33.05 6.56 4.96 3.41	— — — —	— — — —	37.05 11.56 5.46 3.44	104	1,250	701	1,951	
	織笠村	織 笠	—	2.30	—	2.84	—	—	5.14	20	200	50	250	
	山田町	山 田	内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	15.20	388	840	745	1,585	
	大澤村	大 澤	—	5.76	0.01	8.99	—	1.27	16.03	193	500	419	919	
	重茂村	元村里 姉吉 千 石 川 音部 奥里 種奈 荒刺 鷲巻 追磯 仲切 組	2.50 0.14 0.15 0.11 0.11 0.42 0.06 0.06 0.01 0.10	0.10 — — — — — — — — —	3.08 1.00 1.60 1.20 1.00 2.30 0.10 0.51 0.80 0.90	1.00 — 0.10 0.18 — 0.10 — — 0.10 —	3.00 1.00 0.20 0.18 0.30 0.20 1.00 0.13 0.17 0.41	1.02 0.18 0.10 0.03 0.09 0.54 0.14 — 0.32 0.17	10.70 2.32 2.15 1.70 1.50 3.56 1.30 0.70 1.49 1.58	103	496	33	529	
	津輕石 村	赤 前 法 脇	— —	0.43 0.11	— —	57.57 16.87	— —	— —	58.00 16.98	211	1,028	583	1,614	
	磯鷲村	磯鷲高濱 金濱白濱	内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	46.47	18	3	1	4	
	宮古町	宮 古 鉄ヶ崎	— —	0.63 1.60	— —	0.26 —	— —	— 1.97	0.89 3.57	20 250	12 100	43 33	55 133	
	崎山村	ヤト、 田中鳥 女遊戸	内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	0.23	100	90	54	144	
	田老村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	25.41	230	1,400	1,340	2,740	
	小本村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	76.06	330	367	257	624	
	田野畑 村	北 山 机 戸 明 野 和 野 平井、福 野、越、大 島、大 切 牛 大 芦	— — — — 0.70 0.16 — —	— — — — 0.03 — — —	— — 1.00 — 0.20 1.50 — —	— — 0.22 — 0.01 0.05 — —	— — 3.33 — 0.92 1.60 — —	0.56 0.49 1.73 1.28 1.57 0.80 0.51 0.93	0.56 0.49 6.28 1.28 2.80 4.11 0.51 0.93	325	98	45	143	
	普代村	普 代	内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	19.63	258	1,010	83	1,096	
	野田村	野 田	不 明	〃	〃	〃	〃	〃	〃	90	258	69	327	
	宇部村		内詳不明	〃	〃	〃	〃	〃	3.30	48	160	80	240	
	長内村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	8.06	53	125	121	246	
	久慈村	湊	不 明	〃	〃	〃	〃	〃	〃	100	400	190	590	
	夏井村		内譯不明	〃	〃	〃	〃	〃	5.83	—	—	—	—	
	侍濱村			0.04	0.07	—	0.02	—	0.35	0.48	59	100	79	279

縣 名	町村名	部落名	土 地 の 被 害							家屋の被害 流失	人 命 の 被 害		
			宅 地		田 畑		山 林		計		死亡	負傷	計
			流失	浸水	流失	浸水	流失	浸水					
岩手縣	中野村	小子内	0.10	1.31	—	1.63	—	0.71	3.78	53	151	78	229
		有家	0.08	1.33	—	1.79	—	0.71	3.91				
		中 野	—	—	—	—	1.65	1.65					
	種市村		西詳不明	〃	〃	〃	〃	〃	24.54	30	100	91	191
	計		不明ナルモノ多キ爲計數ヲ掲ケ得ス							5,446	21,753	7,192	28,948

(備考) 家屋の被害、人命の被害は全町村に於けるものなり

岩手縣に於ける家屋の被害、人命の被害は各部落別に知るを得ざるを以て、各町村の總計を計上す。家屋の被害は記録には流失とせるも、事實は流失、倒壊を含むものと考へらる。

土地の被害の總計は明治二十九年津浪の浸水區域なりと認め得るものにして、主要部落に於けるその實際に就ては附圖第1圖乃至第40圖に記入せる明治二十九年浸水線を以て示す。

第八表 明治二十九年津浪に依る工作物被害調

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港 灣	其 他
岩 手 縣	越 喜 來 村	崎 濱	702	米	2	—	—
		浦 濱	828	—	3	—	—
		泊 濱	270	—	1	—	—
		甫 嶺	810	—	5	—	—
	吉 濱 村	本 郷	4,500	護岸180	2	不 明	水路2,160米 防潮堤414米
		根 千	—	—	—		
	釜 石 町		不 明	〃	〃	〃	〃
	鶴 住 居 村	雨 石	594	護岸198	—	—	—
		箱 崎	916	同 297	8	—	—
		片 岸	782	同 1,485	33	—	—
		根 岸	198	同 150	4	—	—
	船 越 村	船 越	5,400	—	4	不 明	—
		田 濱	2,700	—	3	〃	—
		大 浦	900	—	3	〃	—
		小 谷 島	270	—	—	—	—
	織 笠 村	織 笠	1,440	—	2	不 明	—
	山 田 町	山 田	不 明	〃	〃	〃	〃
	大 澤 村	大 澤	1,350	—	3	不 明	—
	重 茂 村	元 村	5,670	護岸3,600	10	—	—
		姉 吉	720	同 1,440	6	—	—
		千 鷄	540	同 1,080	3	—	—
		石 濱	540	同 1,080	2	—	—
		川 代	510	同 1,080	2	—	—
		普 部 里	1,620	同 1,620	4	—	—

縣 名	町 村 名	部 落 名	道 路	河 川	橋 梁	港 灣	其 他
岩 手 縣		荒 卷	310	護岸9,000	2	—	—
		鶉 磯	360	同 540	2	—	—
		追 切	330	—	2	—	—
		仲 組	720	—	4	—	—
	津 輕 石 村	赤 前	324	護岸216	3	—	—
		津 輕 石	648	同 1,296	3	—	—
	宮 古 町	宮 古	450	—	5	—	—
		鎌 ケ 崎	591	—	—	—	—
	田 野 畑 村	明 戸	432	—	3	—	—
		羅賀、平井賀	510	—	3	—	—
		大賀、島ノ越	630	—	6	—	—
		(其 他)	360	—	3	—	—

明治二十九年津浪に依る工作物被害に就ては宮城縣には記録の徴す可きものなく、岩手縣に於けるものも、上掲の如く、その状況不明なるもの極めて多く、唯當時に於ける被害の一半を昭和八年津浪の夫と對比し、以て當時の被害概況を推知し得る一助とせんが爲に、茲に掲出せるものである。

今岩手縣に於ける明治二十九年津浪罹災前人口、戸數と死傷者數、流失倒壊戸數との比率を示せば次の如し。

明治二十九年岩手縣沿岸町村人口	103,995人	死 傷 者 總 計	28,838人	比 率	28.7%
同 上 戸 數	17,105戸	流 失 倒 壊 戸 數	5,446戸	比 率	31.8%

即岩手縣に於ては沿岸町村人口の27.8%の死傷者を出し、沿岸町村戸數の31.8%を津浪の呑み去るに任せてゐる。一方第八表工作物被害の程度より見るも、明治二十九年に於て昭和八年の夫よりやゝ大なりし事を察知し得る。

斯の如き大災害に關し、當時國費を以て施行せられし復舊並に浪災防護施設の無きは勿論、部落に於て個人的の努力に依る對策すら殆ど講ぜられざりしに等しき状態なりしは、當時の國狀上誠に止むる得ざりし所ならんも、二三の部落が自力を以て施行せる防護對策が、昭和八年津浪に對して殆ど完全に近き勝利を擧げたる事實に照し、誠に残念の事であつた。

明治二十九年復興事業概要とその昭和八年津浪に與へたる効果

明治二十九年津浪被害に對する復興事業に關しては、國庫の助成を受けたるもの殆どなく、營々自力を以て安住地の造成をなせるもの、又は其の他の防浪對策を講ぜるもの數例を擧げ得るに過ぎず。然りと雖も之等は貴重なる實例なるを以て、その復興事業概略を記載し、その昭和八年津浪に與へたる効果を研討し、以て防浪對策の參考に資せんとす。

1、宮城縣唐桑村大澤

縣道に沿ひたる現在の大澤部落は明治二十九年津浪後、現地に組合組織を以て敷地造成を行ひ海岸低地部より移轉したるものである。昭和八年津高3.90米の津浪の襲來を被りたるも本部落

は何等被害を受けず、單に海岸危險區域に再移轉したる數戸のみ昭和八年津浪の厄に遭ひたるものである。(附圖第10圖參照)

2、宮城縣大谷村大谷

縣道に沿ひたる大谷部落は明治二十九年津浪後、村營事業として現地に敷地造成を行ひ高地移轉をなしたるものにして、昭和八年波高 2.9 米の津浪を被りたるも災害を受けず。(附圖第7圖參照)

3、宮城縣十五濱村雄勝

雄勝部落の郵便局は明治二十九年津浪に鑑み、當時の地盤より四尺の地上をなせしも、昭和八年津浪の波高は之より更に四尺に及び被害を被れり。之は單に局部的の一小例に過ぎざるも、調査充分ならざる不徹底の豫防施設に安んずるは、無益なるを實證するものである。(附圖第2圖參照)

4、宮城縣唐桑村只越

明治二十九年津浪後部落へ接する北方臺地へ敷地造成工事に著手したる處、工事途中にして岩盤に遭遇したるを以て、敷地造成を斷念し、之にかゆるに只一本の幅員約3尺の避難道路を新設したるに止まりしのみ。當時の技術上岩盤掘鑿の困難なりし事情ありしとは云へ、若し之の工事を完成するか、又は他に住宅適地を選定し、高地移轉を遂行したりとせば、今回の浪災を免れ得たるや明らかなる處である。當時新設せられし避難道路は今回の津浪に對し、幅員狹少なりし爲所期の目的を達成し得ず、之亦不徹底なる施設は行はざるに勝る程度なる事を物語る。(附圖第9圖參照)

5、岩手縣越喜來村崎濱

明治二十九年波高11.6米の津浪に襲はれ、宅地流失面積8,170坪、部落の殆ど全部を壊滅せしめられたるものと想像せらる。津浪後部落民協力一致、原地に市區改正を行ひ、三陸沿岸部落としては稀に見る整ひたる街衢を構成せるも、昭和八年波高7.8米の津浪に依りて市區改正を行へる大部分を再び破壊、流失し盡され、罹災前戸數 155戸中流失倒壊家屋31戸、浸水18戸、家屋の被害計49戸を數へ、死亡50人、負傷14人、計64人の死傷者を出したり。想ふに市區改整を施したる當時に於て、今一步を進めて津浪防護施設の完備に努力し、例へば防浪堤の如き工作物を海岸に設置するか、若は、北方丘陵地に部落地の移轉を圖りたりとすれば、昭和八年津浪に依る災害は完全に防止し得られたであらう。(附圖第22圖參照)

6、岩手縣鶉住居村箱崎

明治二十九年津浪波高8.5米宅地の流失、浸水面積6,411坪、當時の部落の大部分を壊滅せしめられた。之等の被害家屋の内その大部分は自發的各個に後方高地に移轉したるため、昭和八年波高4.4米の津浪に際しては家屋の流失、倒壊面積 1,350 坪に過ぎず、之は危險區域に復興せるもののみに止り、高地移轉が充分の効果を發揮せるを知り得る。(附圖第29圖參照)

7、岩手縣船越村船越

古へ善知識の巡錫するあり、高地居住の安全なるを説き勧めたる結果、高地に移轉するものあ

り、殊に明治二十九年波高 6.6 米の津浪を被り、家屋の流失、倒壊面積30,000坪に及び、部落殆ど全滅に歸するや、高地移轉の必要を痛感し、全部落自發的に且つ自力を以て、現部落地に移轉し、街衢整然たるものあり、昭和八年津浪に於ては勿論殆ど災害を被らず。(附圖第33圖参照)

8、岩手縣吉濱村本郷

波高 26.2米の津浪の襲來に依り、大災害を被りたる結果、海岸に延長523米、高 8.2米の防潮堤を築造せり。その構造前面法を扣45度の割石を以て法3分に積立て、裏法2割として土羽打芝張を施し、天場幅員3.6米、裏堤脚に接し10米の幅に防潮林を植栽す。昭和八年波高14.3米の津浪の襲來に際して、防潮堤中央部より缺壊、全延長を流失したるも、同村小字上野部落の災害を免れたるは上記防潮堤に依る所大なりと思料せらる。(附圖第24圖参照) 上記の外昭和八年津浪に於て同村に於ける被害の比較的大ならざりしは、部落民が各々自力を以て比較的高地に移轉せるが爲に外ならず。

9、岩手縣唐丹村小白濱

明治二十九年三陸津浪に依る 小白濱部落に於ける 人命の被害 500~600 人、家屋の被害戸數 120~130戸にして、家屋の流失、倒壊面積24,800坪に及び全滅に歸せり。之が復興に當り部落民は災害義捐金を以て畑地を買収し、自力(村としては干渉せず)を以て海岸より約200米後退せる高地に移轉せしも、海岸との連絡道路其他の施設を完備するに至らざりし爲め、一旦高地に移轉したる部落民中漁業を生業とする人々は日常の業務に多大の不便を感じ、漸次舊位置に下る傾向を生じたり、過々大正十二年九月一日山火事に逢ひ、高地にある住宅は灰燼に歸し、高地住宅の大半は舊低地に再び移り住みたる爲、昭和八年三月三日波高11.6米の津浪に依り罹災前戸數 158戸中、流失倒壊104戸、半壊3戸、浸水1戸、計108戸を算し、低地部の聚落は完全に壊滅に歸し、死傷11名を出せり。今假りに一旦移轉せし高地に定住したりとすれば、昭和八年津浪に於ては家屋の被害は皆無なるべかりしことは地勢上より見て明かである。(附圖第25圖参照)

此の外明治二十九年津浪災害後、同村花露邊部落にありては約10戸、片岸部落にありては約 5 戸の自力高地移轉ありて今日に及び、今回の津流に何等の被害を受けず。

10、岩手縣崎山村女遊戸

明治二十九年津浪罹災前の戸數15戸にして、津浪の爲め相當の被害を蒙り(詳細は不明)なるも、之の復興に當り、部落民舉りて約 1,000米後方の緩傾斜地をなせる澤に移り、此處に復興せり。之も他のものと同じく自力移轉にして組織的復興計畫に非ざりし爲め各戸點在せりと雖も、昭和八年津浪に際しては、戸數23戸の内僅かに一戸のみ些少の浸水を被りたるのみにて、人口 184人中一名の死傷者をも出さず。(附圖第35圖参照)

以上は明治二十九年津浪の善後策にして部落に關するものを可及的廣範圍に亘り調査して得たる資料なるも、記録等の微す可きもの尠く、その詳細を知るに由なし。其の他の町村に於ては復興乃至津浪防護に對し何等の方策をも講ぜず、無爲に原地に部落復舊を遂げ、災害を再び繰り返したるものゝ如くである。

以上の數例に依り明治二十九年復興事業の昭和八年津浪に與へたる効果に就て見るに、部落の高

地移轉を行へるものは被害を完全に逃れ、原地に復舊せるものは、再び災害を繰り返せる事を知る。防浪堤は吉濱村本郷に設けられたる程度のものでは、堤防夫れ自體が缺壊せる事實より見て、單に津浪勢力を弱め得る程度の効力を有するに過ぎず。部落を完全に防護する爲には部落の高地移轉と同等の効果を發揮し得可き大さと強度とを有する防浪堤たらざる可からず。然して此處に最も注意を要するは防浪對策なくして、復興計畫をなす事の無意味なるを實證せることである。越喜來村崎濱の如きは明らかにその實例である。事情の許す限り部落は之を高地に移轉し、現地復舊の止むなきものに在りては、充分の防浪施設を行ふ事に依りてのみ意義ある復興をなし得るものである。

V. 津 浪 被 害 對 策

概 説

昭和八年三陸津浪に依て被害の皆無又は輕微なりし部落に就てその原因を概觀するに

- 1、部落が堅固にして高峻なる斷崖の上に位置する爲異常なる海なりを聞知したる程度にて被害なし、
- 2、部落を高地に移轉せる爲被害尠し、
- 3、堅牢なる防浪堤の爲被害尠し、
- 4、護岸を築造したる爲被害尠し、
- 5、遠淺の灣を埋立てたるため被害尠し、
- 6、防潮林ありし爲被害尠し、
- 7、明治二十九年津浪に經驗を有する古老の言を守り相當の處致を講じ又は速に避難したる爲被害尠し。

更に被害の大なりし原因は

- 1、津浪の勢力を増大するが如き灣形を有する灣奥に位するもの、
- 2、部落が斷崖に圍まれ避難するを得ざるが如き位置にあるもの、
- 3、道路の幅員狹少又はその系統亂雜にして、避難の困難なりしもの、

等を挙げ得可く、大體に於て豫てより津浪の災害に就て關心を有し、その防護を常に念頭より離さざりし個所に於て被害尠かりしを知り得る。三陸沿岸地方の如く古來屢々津浪の災害を被る地方に於ては、今後も津浪の襲來を豫期せざる可からざる状態にあるを以て、明治二十九年並に昭和八年の災害に鑑み、再び之を繰り返さざる如き防護對策を講じ、我國有數の漁業地三陸沿岸をして安住の地たらしむる様努力せざる可からず。

津浪の豫防施設は、其の波高及衝擊力を基礎として對策を講ずるの外なきは勿論なるも、波高は灣形、海底勾配等に於て左右せられ、例へば海底勾配急にして灣口が直接外洋に開くV字形灣の灣奥に於ては津浪の波高衝擊力共最も大となる可き個所なるを以て、自然の大勢力に對抗するに足る防護施設を行ふこと不可能の場合多し。宮城縣小泉村二十一濱同藏内、十五濱村荒、岩手縣綾里灣、吉濱灣、姉吉、集等灣形甲類第一に屬するものこれなり。之に反し海底勾配緩なるものは津浪の勢力は著しく減殺され土木工作物若は防潮林等に依り津浪防護の目的を達し、若は被害を減殺し得る場合多し。(土木試驗所報告第二十四號參照)

以下述ぶる防護施設は其の採用に當りて部落の産業經濟的組織、灣形、海底勾配、後方地貌等に就き詳細の調査を遂げ、津浪防護對策として其何れを採る可きかを決定せざる可からず。

津 浪 防 護 對 策

波高大にして且つ其破壊力の大なる地方に就ては如何なる工作物を設くるとも津浪防護の對策とならぬ、部落移轉を敢行する外に方法がない。反之して波高大ならず、其破壊力比較的少なる場合、即所謂浸水型の地方に就ては津浪防護の方法が考られる。

1、部落の高地移轉

浪災豫防法として最も完全なるは敷地を造成して部落を高地に移轉せしむることである。殊に波高、衝擊力の大きな可き江灣の灣奥に位するが如き部落に於ては、之を防護するに如何なる土木工作物を以てするも、尙安住の地たるを得ざるものと考へらるゝを以て、萬善の方策としては高地移轉あるのみである。幸にして、津浪災害の頻發するが如き地方の海岸線は、多く高峻なる山崖を以て構成さるゝを通例とするを以て、多少の土木工作を行ふ事に依て適當なる敷地を造成し得る場合多し。茲に注意すべきは沿岸部落住民の生業主として漁撈又は海運業なる場合多きを以て、その生活主體たる海と住居とが直接せざる故を以て、部落民の日常生活に非常なる不便を與へ、結局は再び危險區域たる海濱に再移轉をなす恐れありとなす説である。「日常生活の不便を忍ばんより、十數年乃至數十年に一回の全滅を選ばん」と極言するもののあることである。然し乍ら津浪の災害は諸種の天災の内最も悲慘にして、其の損失亦極めて莫大である。之をしも忍びて、單なる日常生活の多少の不便を忍び得ざる筈はない。而も之等想像し得る可き不便は、海濱舊部落地に於ける共同作業場の設置、倉庫、事務所等非住家の建設並に之等共同作業場と移轉住宅地との連絡道路の新設等に依り殆ど除却し得らるるのみならず、共同施設、協力作業等の機會を得せしめて、部落民の經濟社會生活上、更に一步を進むる結果ともなり得る。

然して津浪の所謂危險區域をして、永久に危險區域たるの認識を得せしめ、高地移轉をなせる住宅群をして、永久に安住の地に留まらしむる爲には、法令に依る住宅禁止區域の設定等は、津浪災害豫防に對する側面的方策として、必要のものとなるであらう。

2、敷地の地上げ

高地に住宅適地を物色し得ざる事情ある場合にして、津浪の波高高からざる場合に於ては、舊部落地の地上げを行ひ、之を強固なる護岸を以て囲み、その天端に防浪壁を設くる等の事に依りて浪災を免れ得る場合がある。之の場合には附近を流るる河川沿の低地等を以て、津浪の緩衝地帯たらしむる等の用意をなさざれば津浪の勢力を正面より被り相當の被害ある可きを覺悟せねばならぬ。

3、防 浪 堤

高地移轉をなし得可き適當なる敷地を求め得ざる場合に於ては、防浪堤の築設に依り防浪の目的を達するの外なし。即ち防浪堤は、部落の高地移轉をなし能はざる場合に於て、高地移轉と同等の効果を發揮せしむる目的を以て築造せらる可きものである。従て防浪堤の高さは津浪の波高よりも高く強度も又津浪の衝擊力に抵抗し得るものたらざる可からず。津浪の大勢力に全面的に拮抗する爲には極めて巨大なる堤防たらざる可からざるを以て、防浪堤を設置する場合には、相當面積を有

し殊に相當奥行ある例へば河川沿岸平地部の如き津浪の勢力を緩和し得る所謂緩衝地帯を存する必要あり。防浪堤の方向は津浪の方向に直角ならざるを宜しとす。灣内に入れる津浪の進行方向は灣形に依りて大體一定せるものの如くなるを以て、その方向を知るは比較的容易なり。

5. 防 浪 建 築

防浪建築とは建築物を以て防浪堤と相似たる効果を挙げんとするものにして、沿岸聚落地が現在港灣に接して海運を主要目的とする經濟活動をなせる場合は、高地移轉をなし得ざるは勿論、防浪堤をも築造し得ざるを以て、港灣地帯に接する一側の建築物をして、對震對浪の構造たらしめ、以て、防浪の目的を達せんとするものである。昭和八年浪災の跡を見るに家屋の流失區域に於て木造家屋の大部分は流失、倒壊せるにかゝらず、石造、鐵筋コンクリート造等の建築物、建造物は完全に残存せる外、木造家屋と雖も、基礎の固定せるものゝ残存せるものあり。而も之等残存家屋の後方に在る家屋はその被害比較的尠かりし事實あり。即市街地に於ては止むを得ざる方策として防浪建築を行ふべきである。

5. 街 路 の 整 備

市街地に於ける街路の系統亂雜にして、幅員狹少なる爲逃げ道を失ひ、或は迷ひ、生命を喪失せるもの、又は部落が三方高峻なる崖に囲まれ、爲に避難するを得ず、災厄に遭ひたるもの多し。市街地又は大聚落地にして危險區域内に復興するの止むを得ざる事情ある場合は、直接津浪の勢力を防止する方策を講ずる事の必要なるは勿論、市街地内に於ける街路の整備（街路系統の確立並に街路幅員の擴張）を行ふを要す。街路の整備は非常時に際しては避難或は防火の道路となり、平常時に於ては經濟活動の發展に資し得。

6. 埋 立 及 護 岸

昭和八年津浪に際し、堅固なる護岸の設けありし爲津浪の勢力を弱め、被害を輕減し得たる例多し。遠淺の海面を埋立て、堅固なる護岸を築きし爲に被害を尠くしたる例あり。之等の場合護岸附近に於ては相當の被害を被るを覺悟せざる可からざるも、その後方地に於ては浪津の勢力は大いに減殺せらるゝものゝ如し。岩手縣山田町の一部、同末崎村細浦の埋立地等は之の實例である。

7. 避 難 道 路

地震と津浪とは同時に發生するものなれ共その傳播速度に差あり、その發生より海岸に到達するまでに地震は30秒程度を要するに過ぎざるも、津浪は20分乃至40分を要す（震災豫防評議會）。斯の如く津浪襲來に際しては時間的には相當の餘裕あるにもかゝらず避難す可き道路不完全にして、遭難したるもの多かりし事實に鑑み、部落より附近高地へ導く避難用の道路を設く事は必要の施設である。殊に神社、小學校、役場等公共の建物は部落の高所に設くるを適當とするを以て、部落より之等に至る道路を避難道路と兼用せしむる場合に於て常時、非常時何れの場合に於ても充分の効果を發揮し得るであらう。

8. 防 潮 林

海岸に廣闊なる防潮林の植栽ある爲に被害を免れたる部落あり、又は家屋の周圍に樹木多くありし爲に流失、或は倒壊を免れたる家屋あり。即ち相當の樹齡を有する防潮林は少く共津浪の勢力を

減殺し得るものの如し。

9、防 波 堤

防波堤は津浪の波力を軽減せしむることあり。三陸沿岸部落の位置する江灣は凡て漁港として利用せらるゝと見て差し支へなく、従て防波堤の築造は平時に於ける漁港としての港灣の利用を全からしめる利益と津浪勢力減殺と兩面の効果を有す。

10、津浪豫報装置

地震發生後津浪の襲來迄には相當の時間あり、然も潮位に異常あるは經驗に徴して明らかなるを以て、此の潮位の變化を利用して津浪の襲來を豫知し避難に便せしめんとするものである。

VI. 都市計畫及復興事業

三陸沿岸地方に於ては、人口3萬を有する都市より戸數10に足らざる小聚落に至る迄數百を以て算し、其の大部分は津浪の災害を被りたりと雖も、被害の輕微なるもの、又は部落の極めて小なるものに於ては自力を以て適當の復興をなし、殊に小部落に在りては、災害部落地を捨て、附近の大部落に併合移住するものあるを以て、以下報告せんとするものは、主として、部落の比較的大にして災害の大なりしもの、國庫補助、又は利子補給、低利資金の融通に依りて復興事業を遂行したるもの等を主體として記述す。

計 畫 方 針

都市らしき形態を備ふる大聚落と漁業農業を生活中心とする小聚落との間には、其の防浪對策又は部落移轉計畫等につき自ら相異なる方針を採る可きである。

I. 都市的聚落地

茲に都市的聚落地と稱するは釜石、山田、大槌、大船渡等の如く都市的機構を有する市街地を指す。之等の都市的聚落地は沿岸地方に於ける交通、經濟、教育等社會生活の中樞をなす地方的中心市街地たるものである。

1. 敷 地

之等の市街地は、その位置が現在並に將來の繁榮に對して、絶對に必要な要素たる場合が多い。且又從來港灣其他の設備の爲に多大の資本が投下されて居るが故に、假に斯の如き市街地が津浪或は其の他の災害に依り全滅に頻せる場合ありとするも、其の敷地が危險區域に在るの故を以て、直に附近安全地帯に市街地を移轉するは、不可能である。以上の理由に依り都市的聚落地はその原敷地に復興するを本則とし、その敷地内に就き土地の利用を工夫し、海邊に直接するを絶對的要件とする運送業、倉庫、その他の建築物を除き、住宅は後方安全なる高地に敷地を造成し移轉せしむ。

2. 道 路

市街地を中心とし、隣接市街地、附近聚落地との連絡を緊密ならしむ可き路線を選定し、此等幹線道路を基準として、市街地並に市街地たる可き土地に就き道路組織を整備す。其幅員は非常時に於て避難或は防火の用に備へ得る最小限を保たせる必要がある。後方高地に於ける集團移轉敷地と市街地、並に海岸とは移轉者が日常の往復に不便を感じざる程度の連絡道路を設ける必要がある。

高臺の安全地帯に部落移轉を行ひ得ざる場合は現在部落より後方高臺に達する避難道路を設くる必要がある。

3. 防 浪 施 設

波高大ならず、家屋の流失倒壊區域廣大ならざる場合には、津浪の浸水を逃れ得る程度に市街地の地上げを行ふ。之の場合、盛土法面は練石積とし尙盛土天端に防浪壁を設くるを可とす。臨港區域に於て、直接水面を利用する必要がある場合には、護岸の嵩上、補強を行ひ、遠淺の海面は之を埋立て後方地帯に於ける波高並に衝撃力の減殺に資す。更に港灣に直接する建築物は耐震、耐浪の構造たらしめ、後續木造建築物の保護に備ふ。港灣施設として堅固なる防波堤を築造するの要あるは勿論なり。

II. 漁 農 聚 落

沿岸部落は生業漁を主とし、農を副とするもの、又は漁業のみに依るものあり。之等を茲に漁農聚落と總稱す。三陸沿岸地方に於ける部落の大部分は之の形式のものなり。

1. 敷 地

漁農聚落に於ては住民の生業は主として漁業である。然しながら、必ずしも海岸に密接して居住するを必要とせず。日常の作業に不便を感じざる程度の距離にして、相當の施設を有するに於ては、安住の地に敷地を設くるは極めて望ましき事である。殊に三陸沿岸地方に於ける漁農聚落の如く、環境高峻なる山崖に囲まれたる支谷部に位置するものは、津浪の災害最も悲慘なる部類に屬するを以て、部落敷地を附近高地に移轉するは、他の如何なる防浪對策より勝れるものなり。

部落敷地の選定要項下の如し。

海濱に近きこと、

既往の津浪に於ける最高浸水線以上に位すること、

海を望み見得ること、

南面の高地なること、

飲料水の取得容易なること、

2. 部 落 の 構 成

全部落高地移轉をなすものに在りては、部落構成の中心を造成敷地に移し、町村役場、警察署、學校、社寺等公共的施設は之を造成敷地の最高所に位置せしめ敷地の中心には部落民交歡の用に供す可き小廣場を設け、之に接して集會所、共同浴場等を設く。

部落の一部移轉をなすものに在りては、部落の構成は移轉戸數の多少に依り自ら異なる可きも、移轉敷地は舊部落殘存戸數をも收容し得る面積を有する敷地を選定し、殘存戸數の漸次高地移轉を可能ならしむる用意を須ひたり。

家屋の流失倒壊區域にして海濱に接する區域は、部落の共同作業場として之を利用し又は倉庫、納屋、工場、事務所其の他の非住家屋の建築地並に網干場、船曳場等として之を利用するの途を講じたり。

3. 道 路

移轉部落敷地と共同作業場、海濱との連絡は部落生活に必要不可欠からざる重要な施設なるを以て、充分の施設を行ふを要す。交通幹線(縣道、重要町村道)と新敷地との連絡道路亦必要にして、縣道、町村道等の新設又は改修さるゝものは可成新部落敷地を連結せしむる様路線の選定を行ふ。重要道路は之を津浪の災害を被らざる高地に配置する必要あり。何となれば、再び津浪に襲はれたる場合、救捐その他後方連絡途絶し、部落民の糧道を絶つが如き事態を惹起することなからしむる必要あるのみならず、かゝる公共工作物が屢々破壊さるゝ損失を繰り返へすが如きは賢明なる策に非さればなり。

4. 防 浪 施 設

部落の高地移轉を行ふを得ざるものにありては、防浪堤、護岸の築造、防潮林の植栽、避難道路の新設等を行ふ。

以上の外、鐵道の敷設せらるゝものある場合には安全なる高地を利用す可きは勿論にして、特に鐵道驛の如きは新部落敷地に接する等の考慮を必要とす。

計畫並に事業

I. 計 畫

上述の計畫方針に基き計畫せられたるもの、宮城縣に於て15ヶ町村、60部落、岩手縣に於て20ヶ町村、42部落、其内下記市街地並に部落に於ける計畫圖32葉は當該部落の飛行寫眞測量圖と共に之を掲示す。尙釜石町、田老村に就ては特に復興計畫圖(街路復舊事業詳細圖)を添付す。

縣 名	町 村 部 落 名	圖面番號	縣 名	町 村 部 落 名	圖面番號
宮城縣	大原村谷川	1	岩手縣	越喜來村崎濱	22
同	十五濱村雄勝、船戸	2	同	越喜來村浦濱、泊	23
同	十五濱村船越	3	同	吉濱村本郷	24
同	十三濱村相川	4	同	唐丹村小白濱、片岸	25
同	歌津村石濱、名足、中山	5	同	唐丹村本郷、花露邊	26
同	歌津村田ノ浦、港	6	同	釜石町釜石	27
同	唐桑村 宿	8	同	鶴住居村雨石	28
岩手縣	廣田村 泊	12	同	大槌町大槌、安渡	30
同	氣仙町長部	13	同	大槌町吉里吉里	31
同	廣田村六ヶ浦	14	同	船越村田ノ濱	32
同	小友村唯出	15	同	山田町山田	34
同	末崎町村泊里、門濱	16	同	田老村田老、乙部	36
同	末崎村細浦	17	同	小本村小本	37
同	綾里村浜、田ノ濱、石濱	18	同	田野畑村平井賀、羅賀	38
同	大船渡笹崎	19	同	普代村普代、太田名部	39
同	赤崎村 宿	20	同	種市村八木、大濱	40

(備考) 圖面番號は飛行寫眞測量圖番號と共同のものなり。

以上の計畫圖に對する計畫説明は、本文に省略し、計畫圖に記載す。

II. 建築禁止區域の設定。

浸水區域、殊に家屋の流失、倒壊區域は部落敷地として最も危険なる地域なるを以て、高地移轉を行ひ得る部落に在りては、計畫制限の一として、建築禁止區域の設定も亦止むを得ざる方策であ

らう。建築禁止區域の設定に依て、高地移轉を行へる住宅が危險區域に再移轉するを防ぎ、又は危險區域と認めらるゝ敷地に殘存する部落をして安住地への移轉を促進するを得べし。宮城縣に於ては縣令を以て既に建築禁止區域を設定し、岩手縣に於ては目下考究中に屬す。宮城縣に於ける海嘯罹災地建築取締規則を示せば下の如し。

海嘯罹災地建築取締規則（昭和八年六月三十日宮城縣令第三十三號）

第一條 昭和八年三月三日ノ海嘯罹災地域並海嘯罹災ノ虞アル地域内ニ於テハ知事ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ住居ノ用ニ供スル建物（建物ノ一部ヲ住居ノ用ニ供スルモノヲ含ム以下同シ）ヲ建築スルコトヲ得ス

前項ノ地域ハ知事之ヲ指定ス

建物ノ用途ヲ新ニ定メ又ハ變更ノ上住居ノ用ニ供スルトキハ住居ノ用ニ供スル建物ヲ建築スルモノト看做ス

第二條 前條ノ場合住居ノ用ニ供スル建物ノ敷地並構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、建物ノ敷地ハ安全ト認ムラルル高サ迄地揚ヲ爲スコト

二、建物ノ腰積ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ基礎ヲ設クルコト

三、建物ハ土臺敷構造ト爲シ土臺ハ前號ノ腰積又ハ基礎ニ緊結スルコト

四、建物ノ土臺及敷桁ノ隅角ニハ縁材ヲ使用スルコト

五、建物ニハ適當ニ筋違又ハ方杖ヲ設クルコト

土地ノ狀況ニ依リ支障無シト認ムルトキハ前各號ノ制限ニ拘ラス認可スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ

一、申請者ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱主タル事
務所ノ所在地及代表者ノ住所氏名）

二、敷地ノ位置（見取圖添附ノコト）

三、地揚施行方法並高サ

四、建物ノ構造種別用途

前項ノ申請人ニシニ未成年者禁治產者又ハ妻ナルトキハ法定代理人保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス申請者ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第四條 第二條ノ地揚及建物ノ工事竣工シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

前項ノ建物ニハ見易キ場所ニ様式第一號ノ標示ヲ掲出スヘシ

第五條 第一條ノ地域内ニ於テ工場倉庫其ノ他住居ノ用ニ供セサル建物ヲ建築セムトスル者ハ口頭又ハ文書ニ依リ最寄リノ警察署派出所又ハ駐在所ニ届出ツヘシ其ノ竣工シタルトキ亦同シ

前項ノ建物ニハ見易キ場所ニ様式第二號ノ標示ヲ掲出スヘシ

第六條 第一條第一項第四條第一項及第五條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス前項ノ罰則ハ其ノ者カ未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ之ヲ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法郎燒付板(徑八寸)

様式第一號(紫地ニ文字自抜)



様式第二號(赤地ニ文字自抜)



宮城縣に於て前掲縣令第二條第二項の規定に依り建築禁止區域を指定したる町村下の如し。

坂本村坂元、本郷

大原村大字谷川濱

大原村大字鯨浦

十五濱村雄勝濱

十五濱村船越濱字荒

十五濱村船越濱

十三濱十ヶ村濱相川

歌津村中山、馬場

歌津村名足

歌津村字石濱

歌津村字田ノ浦、上ノ山、南ノ澤

歌津村字港

小泉村字二十一濱

唐桑村大字唐桑東舞根、西舞根

唐桑村大字唐桑字浦

唐桑村大字唐桑字宿浦

唐桑村大字唐桑字小鯖

唐桑村大字小原本字只越、唯越

唐桑村大字小原本字竹神及岨山

III. 大槌町吉里吉里新漁村(理想部落)建設計畫概要

各部落に於ける計畫の大様は附圖計畫圖に記載せるも各部落に於て復興計畫が如何なる方針を以て進捗せるやを知るに足る一例として大槌町吉里吉里新漁村建設計畫の概要を記載す。

1. 現 況

部落面積約一方里、東方太平洋に面し、海岸に向ひ緩傾斜をなし、氣候比較的溫暖にして戸數272戸、人口 1,732人、業態別戸數下の如し

漁業 152戸 農業 39戸 商業 25戸 勞働 17戸 其他39戸

2. 部 落 の 建 設

敷地は住宅適地造成事業に依り造成し、之に半壊以上の被害住宅100戸を移轉せしめ、建築に要する資金は産業組合に於て借入れ、建築用材の購入、設計、建設に至る迄購買組合の事業として經營し、一齊に建築を完成せしめ、之を居住者に年賦掛込の方法に依り賣却す。津浪に依り床上浸水程度の被害を受けたる住家は之が移轉實費を供給し急速に移轉せしめ、殘餘の住宅をも漸次高地に移轉せしめ、全部落の移轉を圖る。

3. 住宅附屬の共同設備

イ、簡易水道 産業組合經營を以て敷設す。

ロ、共同浴場 各戸に浴場を設置せず、部落中央に共同浴場を設け、産業組合之を經營す。

ハ、診療所 消防屯所、託兒所、青年道場等を設く。

4. 津浪防止及備荒施設

イ、防潮林 満潮水位線より50米を距て、幅員30米、延長 482米、及幅員10米、延長 375米の防潮林を町營を以て植栽す。前者は家屋保護、後者は耕地保護の目的とす。

ロ、防浪堤 防潮林の前方に高さ約2米、延長 857米の防浪堤を町事業として築造す。

ハ、其 他 計畫圖に示す避難道路を設くる外、町營備荒倉、備荒林等を設く。

5. 産業經營

水産關係に於ては棧橋（幅2間延長50間）船溜、船揚場、共同販賣所、共同製造所、水産倉庫、漁船漁具等を共同施設する外、海苔養殖場、蠣養殖場、乾燥場等を設く。

以上の外農業關係、養蠶關係、林業關係、副業關係等部落生活上必要なる凡ゆる施設の完備を期す。

以上は吉里吉里理想部落計畫の大様にして、他の罹災部落に於ても、同程度の理想を以て、復興の力強き努力をなしつつあり。

IV. 事業

以上の計畫の内國庫の補助を得て施行せしめたる事業は、街路復舊事業並に住宅適地造成事業の二にして、その大略を下に掲ぐ。

1. 街路復舊事業並その進捗状況

昭和八年津浪被害部落中、都市的聚落地なるか、又は夫に近き聚落地にして、高地移轉を行ひ得ざる事情あるものは、現敷地に復興するの外なし。即都市的聚落地の計畫方針に基き街路組織を整理し、幅員を整備するの要あり。その第一着手として、緊急施工の要ありと認めらるゝ路線を選び、國庫の補助を得て、町村をして街路復舊事業を施行せしむ。事業の大様とその進捗状況を下せば下の如し
工事の進捗状況は昭和九年一月末日現在を以て示す。

第九表 街路復舊事業並其工事進捗状況

縣 名	町 村 名	部 落 名	復舊街路延長	復舊街路幅員	工 事 進 捗 状 況
岩手縣	氣 仙 町	長 部	1,941 ^米	3.3 - 5.5 ^米	二月上旬着工
	末 崎 村	細 浦	439	5.7	三月上旬着工
	大 船 渡 町	笹 崎	934	5.5—12.0	二月中旬着工
	釜 石 町	釜 釜	4,062	3.0—23.0	三月中旬着工
	大 槌 町	大 槌	1,361	4.7—11.0	同 上
	山 田 町	山 田	2,184	6.0—15.0	一月下旬着工
	田 老 村	田老、乙部	6,197	4.5—11.0	三分通出來三月中竣工
	計		16,523		

街路復舊事業の進捗比較的遅れたるは用地買収の關係にあり、然りと雖も現地に於ては建築線を指定し、又は建築線に似たる中合せをなして、その計畫道路敷は保留せられ居る状態なるを以て、

事業遂行上、何等の支障なきものである。

2. 住宅適地造成事業並その進捗状況

部落の高地移轉、敷地の地上げ等の住宅適地造成事業を執行せるものは、宮城縣に於て15ヶ町村、60部落、岩手縣に於て18ヶ町村、38部落に及ぶ。宮城縣に於ける60部落中集團移轉をなせるもの11部落、他の49部落は各戸移轉、岩手縣に於ける38部落は全部集團移轉なり。

本事業は町村事業にして、津浪善後措置として執行せらる可き諸種の事業の内最も緊急の事業に屬す。

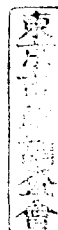
昭和八年三月三日末明かううじて津浪の猛襲を逃れ得たる罹災民は、その後數ヶ月を経るも安住の境地に達せず、輕微なる飢饉にも床を跳りて附近高地に逃れ、人心競々たるものあり、意氣全く喪失せる状態なりしは事後數ヶ月の間に現場を視察せる人々の等しく認むる處にして、當時「罹災民の精神的復興は先ず敷地造成より」なる感を深ふせるものである。斯の如き意味に於て、敷地造成事業の執行は極めて迅速を要したるも、適地の選定、敷地取得の問題等種々難問題多かりし爲め、理想的の事業の進捗を計り得ざりしも、昭和九年三月中には住宅敷地の造成は全部竣功を見るを得可き状態に至つた。以下宮城、岩手兩縣に於ける部落別住宅適地造成面積並にその進捗状況を明らかにする。工事の進捗状況は昭和九年一月末日現在を以て示す。

第十表 敷地造成面積並其工事進捗状況

縣 名	町 村 名	部 落 名	移轉 戸數	敷地造成 面積 坪	流失倒壊 戸數	家屋の流失倒壊 面積 坪	工 事 進 捗 状 況	備 考
宮 城 縣	唐 桑 村	大只石高崎宿	23	2,114	20	16,959	六分通出來三月末竣功	各戸移轉
			32	2,516	30	8,259	同上	同上
			4	422	5	—	同上	同上
			5	589	2	—	同上	同上
		中中小井	22	1,859	9	2,059	二分通り出來三月下旬功竣	集團移轉
			7	439	2	—	六分通出來三月末竣功	各戸移轉
			58	2,751	31	6,000	同上	集團移轉
			—	—	—	—	—	—
	鹿折村	三ノ濱	2	459	3	—	竣功	各戸移轉
	大 島 村	横中浅廻大磯浦	3	254	—	—	七分通出來二月末竣功	各戸移轉
			3	263	—	—	同上	同上
			1	92	—	—	同上	同上
			1	89	1	—	同上	同上
		初平草濱	1	93	—	—	同上	同上
			1	102	—	—	同上	同上
			1	39	—	—	同上	同上
	大谷村	大 谷	6	463	6	3,599	竣功	各戸移轉
	階上村	波長路磯上濱	6	530	6	4,159	九分通り出來二月中旬功竣	各戸移轉
			1	296				
	小 泉 村	二今歌藏泉	5	421	18	5,259	竣功	各戸移轉
			9	735	—	—	同上	同上
			7	554	—	—	同上	同上
			6	428	4	659	同上	同上
			2	169	—	—	同上	同上
	志津川町	細浦水	1	49	5	1,600	竣功	各戸移轉

縣 名	町 村 名	部 落 名	移轉 戸數	敷地 面積	流失 戸數	家屋の 倒壊面積	工事進捗状況	備 考
宮城縣	志津川町	阿西蛇 會田主	戸 2 1 2	坪 308 158 389	戸 — — —	坪 — — —	竣 同上 同上	各戸移轉 同上 同上
	戸倉村	波傳 谷濱水濱 藤清 寺	4 8 4 4	274 480 483 558	2 7 1 1	4,500 — — —	九分通り出来二月中旬 竣 同上 同上 同上	各戸移轉 同上 同上 同上
	歌津村	港田ノ浦足濱場山 名石馬中泊寄伊里 木前	6 28 11 7 7 1 2 2	516 2,610 1,326 665 759 421 30 132 151	6 27 11 7 16 1 — 4	10,000 7,500 2,500 1,500 4,600 — — —	九分通出来二月末竣功 同上 竣 九分通出来二月末竣功 同上 同上 同上 同上	各戸移轉 同上 同上 同上 同上 同上 同上
	十三濱村	長鹽 谷濱指指泊川入 月大小相相川田ノ入	1 1 7 6 5 29 29	129 66 1,017 832 1,235 2,318 772	1 — 4 2 1 4 —	— — — — — 5,500 —	七分通り出来三月上旬 竣 同上 同上 同上 同上 同上 同上	各戸移轉 同上 同上 同上 同上 同上 集團移轉
	鮎川村	鮎金 川華 濱山	1	114	2	—	竣 功	各戸移轉
	大原村	谷川 浦 蛟ノ泊 淵川倉 大小谷網	19 16 9 2 13	3,925 1,852 958 120 1,715	32 13 1 — 1	6,250 2,300 — — —	八分通り出来三月下旬 竣 同上 同上 同上 同上	集團移轉 各戸移轉 同上 同上 集團移轉
	女川町	石塚家 濱濱取	20 4	1,000 200	10 2	— —	竣 同上	集團移轉 同上
	十五濱村	荒 越渡勝振 室船雄名	17 48 34 236 26	1,422 2,311 1,935 14,395 2,058	18 25 195 10	3,500 2,000 3,000 13,000 —	四分通り出来五月中旬 竣 同上 同上 同上 同上	各戸移轉 集團移轉 同上 同上 同上
	坂元村	磯	14	1,274	21	2,250	竣 功	各戸移轉
	計		801	64,678	612	116,670		
岩手縣	氣仙町	長 部	86	5,364	105	8,688	二 月 上 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
	廣田村	六ヶ浦 泊	15 45	958 2,735	27 50	500 10,500	一 月 末 日 竣 功 七分通り出来二月中旬 竣	集團移轉 同上
	小女村	唯 出	19	1,113	35	8,500	八分通り出来二月上旬 竣	集團移轉
	末崎村	泊 里	19	1,330	42	7,300	五分通り出来三月上旬 竣	集團移轉

縣 名	町 村 名	部 落 名	移轉 戸數	敷地 面積	流失 戸數	家屋の流失 倒壊面積	工 事 進 捗 状 況	備 考
	末 崎 村	細 浦	35	1,833	33	3,200	八分通り出来二月上旬 竣	集團移轉
	赤 崎 村	宿	29	1,313	33	4,370	二 月 上 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
	綾 里 村	湊	146	7,387	117	14,016	二 月 上 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
		石 濱	29	1,139	29	2,744	六分通り出来二月下旬 竣	同上
		田ノ濱	18	898	37	2,448	七分通り出来二月中旬 竣	同上
		白 濱	15	842	34	7,983	竣功(家屋建築中)	同上
	越喜來村	浦 濱	79	3,494	58	24,899	二 月 上 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
		下 市	21	1,252	27	1,898	同上	同上
		崎 嶺	25	789	49	7,526	未 定	同上
	吉 濱 村	本 郷	11	519	43	152,700	六分通り出来二月下旬 竣	集團移轉
	唐 丹 村	本 郷	101	5,637	101	25,500	六分通り出来二月中旬 竣	集團移轉
		小 白 濱	85	4,168	108	12,430	同上	同上
		小 片 岸	69	2,762	34	19,890	二 月 中 旬 着 工 三 月 中 竣 功	同上
		花 露 邊	29	1,425	16	2,000	同上	同上
	唐 石 町	臺 村	18	567	仲町 (釜石市街地 流失倒壊 焼失 61,500 --)	釜石市街地 流失倒壊 43,456	二 月 上 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
		狐崎	11	376		109	同上	同上
		坊主	13	851		89	同上	同上
		崎山石	52	2,238		--	同上	同上
	鶴住居村	雨 石	93	3,991	91	7,983	七分通り出来二月中旬 竣	集團移轉
	大 槌 町	小 枕	49	1,782	171	--	七分通り出来二月中旬 竣	集團移轉
		惣 川	29	790		--	竣功	同上
		安 渡	29	939		10,859	竣功	同上
		吉里吉里	109	4,932		21,466	四分通り出来三月中旬 竣	同上
	船 越 村	田ノ濱	249	12,197	196	15,000	一 月 中 旬 着 工 三 月 中 竣 功	集團移轉
		前 須 賀	29	109	24	--	同上	同上
	田 老 村	田老、乙部	599	未確定	593	47,000	近々着工ノ豫定	集團移轉
	小 本 村	小 本	71	3,314	126	3,364	七分通り出来二月中旬 竣	集團移轉
	田野畑村	島ノ越	35	1,675	59	7,400	四分通り出来三月中旬 竣	集團移轉
		平 非 賀	47	3,179	64	5,390	同上	同上
	普 代 村	太田名部	54	3,559	84	9,230	六分通り出来三月中旬 竣	集團移轉
	種 市 村	八大 木	29	1,174	42	1,410	九分通出来一月末竣功	集團移轉
		大 川	9	663	9	--	同上	同上
		尻 尻	5	323	11	--	同上	同上
	計		2,199	87,580	2,660	550,923		
合 計			3,000	182,283	3,272	667,593		



VII. 復興事業執行の方法

國庫補助

昭和八年三陸津浪災害の甚大にして、復舊の緊急なるに鑑み、政府は都市計畫關係に於て下記の如く國庫補助並に低利資金利子補給を決定せり。

1. 街路復舊事業費補助

總工費を 100,000圓と豫定しその八割五分即 85,000圓を國庫に於て補助することとし、曩に述べたる岩手縣下七ヶ町村に於て町村工事を以て復路復舊工事を施行せしめつゝある。

2. 住宅適地造成資金利子補給

浪災に依り流失、倒壊、浸水したる區域に於ける部落の復興に際し、其の住宅を高所に移轉せしむる爲の住宅適地造成費を 539,600圓と豫定し、之に對し低利資金を融通し、その利子を國庫に於て補給するものなり。

住宅適地造成事業執行の方法

本事業は町村工事を以て執行するものにして、事業の範圍は住宅敷地を造成するに止り、住宅敷地に於ける家屋の建設は別途産業組合或は住宅組合等に於て爲すものである。

住宅適地造成事業執行に當り、住宅適地造成敷地取得の方法はおゝむね民有地を町村に於て買收し、敷地造成を行ふを普通とすると雖も、村有地にして住宅適地に該當する土地あるを利用するものあり（岩手縣小本村）、部落共有地を利用するものあり（岩手縣田野畑村平井賀）、又は罹災者の所有に屬する適地あるあり。従て事業執行者の用地取得の方法は之を一律に述ぶるを得ざるも、何れも之を公共團體に於て買收し又は歸屬せしむる方法を探る事に於ては變りなし。

住宅敷地が公共團體に依り造成せられ、罹災者が之に移轉したる曉に於ける該土地と移轉者との關係に就て述べれば、敷地造成資金の外土地買收費其の他を加算したる金額を移轉者に其の坪數に應じて割當て、之を五ヶ年据置き十五ヶ年償還の方針を採り、償還終了の曉に於ては該土地の所有權は、町村より居住者に移らしむるの方法を採れるを通例とす。

復興事業費及財源

復興事業及其の財源を述ぶるに當り先ず、復興事業施行町村に於ける財政狀況を一覽す。

第十一表 三陸沿岸復舊事業施行町村財政狀況

縣名	町村名	昭和七年度歳入				昭和七年度歳出			
		經常部	臨時部			經常部	臨時部	合計	
			起債	其ノ他	計				
宮城縣	唐桑村	77,302.00	—	—	—	77,302.00	37,809.00	39,493.00	77,302.00
	鹿折村	68,809.00	—	—	—	68,809.00	28,090.90	40,719.00	68,809.00
	大島村	39,598.95	—	—	—	39,598.95	25,521.40	14,077.55	39,598.95
	大谷村	59,082.00	—	—	—	59,082.00	23,503.00	35,579.00	59,082.00
	階上村	46,342.00	—	—	—	46,342.00	25,013.00	21,329.00	46,342.00
	小泉村	23,099.00	—	—	—	23,099.00	15,691.00	7,408.00	23,099.00
	志津川町	163,361.00	—	—	—	163,361.00	62,903.00	100,458.00	163,361.00
	戸倉村	19,350.00	—	—	—	19,350.00	18,207.00	1,143.00	19,350.00

縣 名	町 村 名	昭 和 七 年 度 歳 入				昭 和 七 年 度 歳 出		
		經 常 部	臨 時 部			經 常 部	臨 時 部	計
			起 債	其ノ他	計			
岩手縣	歌津村	49,080.67	—	—	—	49,080.67	33,147.67	15,933.00
	十三濱村	40,864.00	—	—	—	40,864.00	25,932.00	14,932.00
	鮎川村	50,544.29	—	—	—	50,544.29	29,762.68	15,377.53
	大女川町	40,130.11	—	—	—	40,130.11	25,253.98	14,831.28
	十五濱村	61,563.00	—	—	—	61,563.00	49,039.09	12,524.00
	坂元村	93,484.00	—	—	—	93,484.00	47,781.09	45,703.00
	計	54,354.00	—	—	—	54,354.00	22,482.00	31,872.00
計		886,964.02	—	—	—	886,964.02	470,135.73	411,879.39
岩手縣	氣仙町	26,847.00	—	—	—	26,847.00	26,493.00	349.00
	廣田村	28,241.00	—	—	—	28,241.00	26,511.94	1,729.06
	小友村	15,684.80	—	—	—	15,684.80	14,546.06	1,138.74
	末崎村	21,164.31	—	—	—	21,164.31	18,139.73	3,024.58
	大船渡町	32,295.27	—	—	—	32,295.27	31,156.84	1,138.43
	赤崎村	29,167.06	—	—	—	29,167.06	19,726.00	9,441.06
	綾里村	29,750.00	—	—	—	29,750.00	21,950.96	7,799.04
	越喜來村	51,884.00	—	—	—	51,884.00	34,392.00	17,492.00
	吉濱村	16,165.20	5,000.00	—	5,000.00	21,165.20	14,086.62	7,078.58
	唐丹村	25,465.00	—	—	—	25,465.00	22,239.54	3,225.46
	釜石町	142,607.43	—	—	—	142,607.43	115,421.49	27,185.94
	郷住居村	33,699.00	—	—	—	33,699.00	22,562.00	11,137.00
	大槌町	88,487.00	—	—	—	88,487.00	68,747.00	19,740.00
	船越村	27,838.81	—	—	—	27,838.81	25,415.29	2,423.52
	山田町	44,464.00	4,000.00	—	4,000.00	44,464.00	40,877.00	3,587.00
	田老村	45,202.00	—	—	—	45,202.00	24,230.00	20,972.00
	小本村	23,555.16	—	—	—	23,555.16	15,984.39	7,570.77
	田野畑村	26,017.00	—	—	—	26,017.00	25,101.00	916.00
	普代村	21,265.98	—	—	—	21,265.98	17,774.40	3,491.58
	種市村	39,640.34	—	—	—	39,640.34	34,191.04	5,448.40
計		765,440.36	9,000.00	—	9,000.00	774,440.36	619,552.20	154,888.16
合 計		1,652,404.38	9,000.00	—	9,000.00	1,661,404.38	1,033,637.93	566,767.55

復興事業に要する経費は住宅適地造成及街路復舊の二事業に付合計 675,879圓の巨額を要し之を罹災各町村の昭和七年度豫算に對比せば其の40.9%に當り、疲弊せる同地方の團體財政を以てしては到底其の負擔に堪えざるを以て、住宅適地造成費に付ては其の全額に對し預金部低利資金を融通することとし、又街路復舊費 107,110圓に付ては其の内 100,000圓の85%に相當する85,000圓を國庫に於て補助し、殘額 15,000圓に對しても預金部低利資金を融通することとし、之等低利資金に對しては何れも其の償還終了年度迄利子支拂相當額を國庫に於て補給することとなれり。尙宮城縣に於ては住宅適地造成費の27.5%に相當する金額を補助金として義捐金中より支出せり。

住宅適地造成費及街路復舊費並に其の財源を各町村別に示せば次の如し、

第十二表 復興事業費及財源調

縣 名	事業種別	事業執行者	事業費	事業費財源				
				補助金	低利資金	一般歳入	其ノ他	計
宮城縣	住宅適地造成	唐桑村	37,484	10,567	26,900	17	—	37,484
		折尾村	643	82	561	—	—	643
		大谷村	1,230	298	932	—	—	1,230
		階上村	1,087	318	—	—	769	1,087
		小泉村	1,602	369	1,233	—	—	1,602
		計	5,263	1,578	3,685	—	—	5,263

縣 名	事 業 種 別	事 業 執 行 者	事 業 費	事 業 費 財 源				
				補 助 金	低利資金	一般歳入	其ノ他	計
宮城縣	宅住適地造成	志津川町	1,593	275	1,318	—	—	1,593
		戸倉津村	4,115	1,060	—	—	3,055	4,115
		歌津村	12,244	3,056	9,188	—	—	12,244
		十三濱村	13,808	3,398	10,410	—	—	13,808
		鮎川村	142	32	—	—	110	142
		原川町	18,391	3,262	15,129	—	—	18,391
		大女川町	2,746	823	1,923	—	—	2,746
		十五濱村	104,000	31,180	72,820	—	—	104,000
		坂元村	2,804	733	—	—	2,071	2,804
		計	207,152	57,031	144,099	17	6,005	207,152
岩手縣	住宅適地造成	氣仙町	7,568	—	7,560	8	—	7,568
		廣田村	8,451	—	8,450	1	—	8,451
		小友村	850	—	850	—	—	850
		末崎村	15,830	—	7,600	8,230	—	15,830
		赤崎村	6,232	—	6,230	2	—	6,232
		綾里村	55,652	—	55,650	2	—	55,652
		越喜來村	30,495	—	15,900	14,595	—	30,495
		吉濱村	2,288	—	2,280	8	—	2,288
		唐丹村	53,217	—	47,980	5,237	—	53,217
		釜石町	26,140	—	26,140	—	—	26,140
		鶴住居村	23,450	—	23,400	50	—	23,450
		大槌町	18,705	—	18,700	—	5	18,705
		船越村	22,340	—	22,340	—	—	22,340
		田老村	66,000	—	66,000	—	—	66,000
		小本村	7,644	—	7,640	4	—	7,644
		田野畑村	7,060	—	7,060	—	—	7,060
		普代村	6,055	—	6,050	5	—	6,055
		種市村	3,640	—	3,640	—	—	3,640
		計	361,617	—	333,470	28,142	5	361,617
	合 計		568,769	57,031	477,569	28,159	6,010	568,769
	街 路 復 舊	氣仙町	7,000	5,950	1,050	—	—	7,000
		末崎村	2,000	1,700	300	—	—	2,000
		大船渡町	6,000	5,100	900	—	—	6,000
		釜石町	40,000	34,000	6,000	—	—	40,000
		大槌町	12,000	10,200	1,800	—	—	12,000
		大山田老村	27,110	17,000	3,090	7,110	—	27,110
		計	13,000	11,050	1,900	59	—	13,000
總 計	675,879	142,031	492,519	35,319	6,010	675,879		



明治二十九年三陸津浪災害繪圖（宮城縣廳社會課藏）



1. 宮城縣大原村谷川
災害状況。波高 3.59 米の津浪に依り 32 戸を流失倒壊す。(附圖第 1 圖參照)



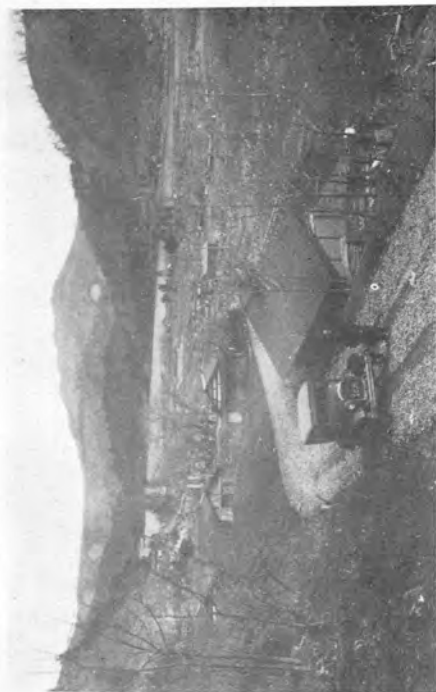
2. 宮城縣大原村谷川。
復興状況。海岸に防浪堤を築造す。部落後方(寫眞の右方)高臺に敷地造成を行ふ。(附圖第 1 圖並計畫圖參照)昭和九年一月末撮影。



3. 宮城縣大原村大谷川。
災害状況。波高 5.6 米の津浪に依り海岸道路破壊す。



4. 宮城縣大原村大谷川
復興状況。道路復舊に當り築堤をなし防浪堤を兼ねしむ。昭和九年一月末撮影。



5. 宮城縣十五濱村雄勝、船渡。
雄勝町東部災害状況。前面平地部は建築禁止區域。雄勝市街地は左方山陰に位し、右方に見ゆる聚落は船渡部落なり。(附圖第2圖參照)



6. 宮城縣十五濱村雄勝。
市街地災害状況。中央に在る縣道と右方山地部とに挟まれたる敷地を約2米地上げし226戸を收容す。(附圖第2圖並計畫圖參照)



7. 宮城縣大原村鮫ノ浦。
災害状況。津浪波高3.5米流失倒壊戸數13戸。



8. 宮城縣大濱村相川。
敷地造成事業進捗状況。2,300坪の敷地を造成し29戸を收容す。(附圖第4圖並計畫圖參照) 昭和九年一月三十一日撮影。



9. 宮城縣歌津村田ノ浦。
災害状況。波高 5.4 米の津浪に依り流失、倒壊戸數 27 戸。寫眞はその宅地跡。(附圖第 6 圖並計畫圖參照)



11. 宮城縣唐桑村大澤。
災害状況。波高 3.9 米の津浪に依る。



10. 宮城縣大谷村大谷。
災害状況。波高 2.9 米の津浪を被る。昭和八年三月三日午前七時撮影。



12. 宮城縣唐桑村大澤。
復興状況。海岸防浪堤を築造す。昭和九年一月十九日撮影。



13. 宮城縣唐桑村小罇。災害状況。波高2.70米の津浪に依り流失、倒壊戸数31戸を出す。津浪は寫眞第14右上薬葡屋根家屋の床上に及ぶ。



14. 宮城縣唐桑村小罇。復興状況。正面の山の両側奥地に敷地造成事業を行ふ。面積2,754坪、移轉戸数38戸、昭和九年一月十三日撮影。



15. 宮城縣唐桑村只越。災害状況。波高6.6米の津浪に依り、流失倒壊戸数39戸を出す。内32戸は敷地造成事業に依り各戸移轉す。



16. 岩手縣廣田村六ヶ浦。住宅適地造成事業進捗状況。敷地造成面積958坪、收容戸数15戸、(附圖第11圖並計畫圖參照)昭和九年三月十七日撮影。



17. 岩手縣廣田村泊。住宅適地造成事業進捗状況。本部落ニヶ所の造成敷地の内北方に於けるもの。(附圖第 12 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月十七日撮影。



18. 岩手縣末崎村泊里。住宅適地造成事業進捗状況。面積 1,360 坪の敷地を造成し、19 戸を收容す。(附圖第 16 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月十七日撮影。



19. 岩手縣末崎村細浦。細浦灣内に於ける流失倒壊家屋材片。津波波高 3.0 米流失倒壊戸數 33 戸。(附圖第 17 圖參照)



20. 岩手縣綾里村田濱、石濱。田濱、石濱兩部落に於ける住宅適地造成事業進捗状況。灣形申類第二に屬し、津浪波高前者は 7.7 米、後者は 9.0 米、敷地造成面積田濱 989 坪、石濱 1,130 坪。(附圖第 18 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月二十三日撮影。



21. 岩手縣綾里村襲。
住宅適地造成事業進捗状況。波高 9 米、流失倒壊戸數
117 戸、造成敷地面積 7,287 坪、146 戸を收容す。
(附圖第18圖並計畫圖參照)昭和九年三月二十三日撮影



22. 岩手縣綾里村襲。
寫真第 21 の北部分、前面家屋はバラツク。その前面
は河川災害復舊事業に依る築堤工事。(附圖第 18 圖並
計畫圖參照)昭和九年二月十三日撮影。



23. 岩手縣越喜來村白濱。
住宅適地造成事業進捗状況。灣形甲類第一に屬し、津
浪波高 18.6 米 造成敷地 842 坪 15 戸を收容す。
(附圖第 21 圖參照)昭和九年三月三十一日撮影



24. 岩手縣唐丹村本郷。
災害状況。南方高臺より舊部落地を望む。罹災前家屋
112 戸の内 101 戸を流失倒壊し舊部落地は殆ど宅地
たりし遺跡を止めず。波高 9.3 米。(附圖第 26 圖參照)
昭和八年五月四日撮影。



25. 岩手縣唐丹村本郷。南面の斜面なり。(附圖第 26 圖並計畫圖參照) 昭和八年五月四日撮影



26. 岩手縣唐丹村本郷。住宅適地造成事業進捗状況。寫眞第 25 に示す位置に於て面積 5,637 坪の敷地を造成し 101 戸を收容す。山裾を縫ふは附替縣道。左方の道路は連絡道路(附圖第 26 圖並計畫圖參照)昭和八年三月末撮影



27. 岩手縣唐丹村小白濱。災害状況。部落北方縣道附近より西南面の寫眞にして、前面高臺は明治二十九年津波後移轉せしもの。昭和八年津波に依り流失倒壊戸數 108 戸。(附圖第 25 圖參照)昭和八年五月四日撮影。



28. 岩手縣唐丹村小白濱。住宅適地造成事業進捗状況。造成敷地部落北方二ヶ所の内東方の部分。造成敷地總面積 4,163 坪、收容戸數 85 戸。(附圖第 25 圖並計畫圖參照)昭和八年十月二十三日撮影。



29. 岩手縣釜石町。
災害状況。津浪に依る災害は火災に依り更に惨害を増加す。



30. 岩手縣釜石町。
災害状況。火災に依る惨状。



31. 岩手縣釜石町。
災害状況。港灣地帯に於ける津浪の惨状。



32. 岩手縣釜石町。
寫眞第 31 と同箇所^ニに於ける災害後二ヶ月目の復興振^リ、(附圖第 27 圖參照) 昭和八年五月四日撮影。



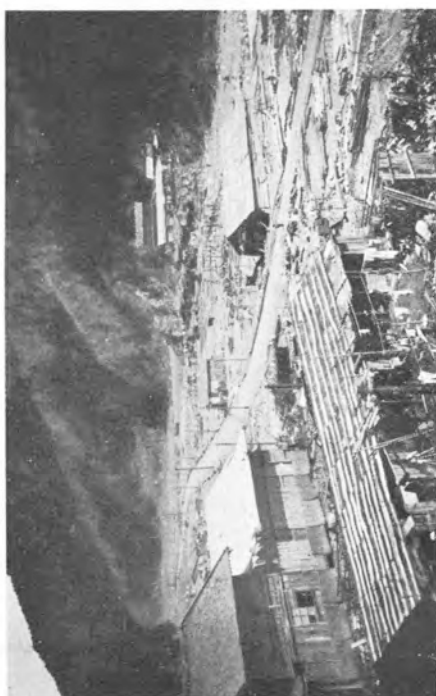
33. 岩手縣釜石町。
災害狀況。海面に突出し鉄筋混凝土床版上に基礎を固定し建築せられたる木骨タイル張り建築の被害。津浪は一階軒下迄達したるも窓其他を破壊せられたるに止る。(昭和八年五月四日撮影)



35. 岩手縣鵜住居村兩石。
災害狀況。波高5.5米の津浪に依り部落全滅。流失倒壊戸數91戸を出せり。寫眞は縣道に倒壊せる家屋材片取除きの狀況。(附圖第28圖參照)。



34. 岩手縣釜石町。
焼失區域内縣道筋の復興振り、(附圖第27圖參照) 昭和八年五月五日撮影。



36. 岩手縣鵜住居村兩石。
災害後二ヶ月餘に於ける部落跡地、昭和八年五月六日撮影



37. 岩手縣鷺住居村兩石。住宅適地造成事業進捗状況。舊部落地西側山間の支谷部に於けるもの。(附圖第 28 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月末撮影。



38. 岩手縣鷺住居村兩石。住宅適地造成事業進捗状況。寫眞第 40 と共に東側山裾に於けるもの、縣道との連絡道路數條を出せり。(附圖第 28 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月末撮影。



39. 岩手縣鷺住居村兩石。住宅適地造成事業進捗状況。舊部落地東側に於ける最北支谷部のもの。(附圖第 28 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月末撮影。



40. 岩手縣鷺住居村兩石。住宅適地造成事業進捗状況。寫眞第 39 圖の延長。以上本部落に於ける造成敷地面積 3,391 坪、收容戸數 93 戸、(附圖第 28 圖並計畫圖參照) 昭和九年三月末撮影。



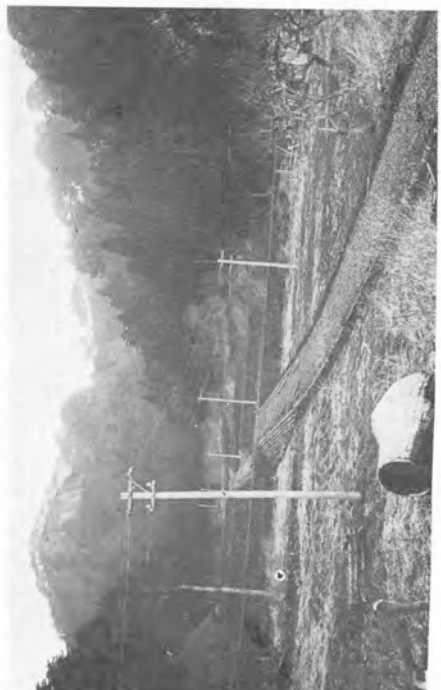
41. 岩手縣大槌町。
災害状況。津浪波高 2.3 米に依り流失倒壊戸數 222 戸
浸水 135 戸を出せり。御路復舊事業を行ひ現地復興
をなす。(附圖第 30 圖並計畫圖參照)



43. 岩手縣大槌町惣川。
住宅適地造成事業進捗状況。造成敷地面積 790 坪、20
戸を收容す。昭和九年三月末撮影。



42. 岩手縣大槌町安渡。
住宅適地造成事業進捗状況。造成敷地面積 939 坪、20
戸を收容す。(附圖第 30 圖並計畫圖參照) 昭和九年三
月末撮影。



44. 岩手縣大槌町小杵。
住宅適地造成事業進捗状況。造成敷地面積 1,782 坪、收
容戸數 40 戸。昭和九年三月末撮影。



45. 岩手縣大槌町吉里吉里。
災害状況。津浪波高 4.20 米、流失倒壊戸數 107 戸、
(附圖第 31 圖參照) 昭和八年五月六日撮影



46. 岩手縣大槌町吉里吉里。
住宅適地造成事業進捗状況。造成敷地面積 4,932 坪、
收容戸數 100 戸、(附圖第 31 圖並計畫圖參照) 昭和九
年三月末撮影



47. 岩手縣船越村田ノ濱
災害状況。波高 6 米の津浪に依り流失、倒壊戸數 195
戸を出し、部落殆ど全滅す。



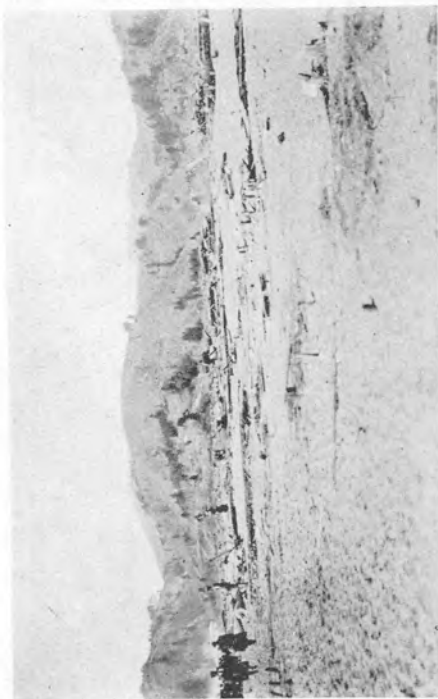
48. 岩手縣船越村田ノ濱
災害後約二ヶ月を経過したる舊部落地。バラツクの散
在するを見るも敷地造成事業完成を待ち 240 戸集團移
轉す。(附圖第 32 圖並計畫圖參照) 昭和八年五月六日
撮影



49. 岩手縣田老村田老。
災害状況。灣型甲類第二に屬し波高 7.60 米、流失倒壊
戸數 503 戸、死傷 1011 人を出し全滅す。寫眞は災
害地より灣口を望む。(附圖第 36 圖參照)



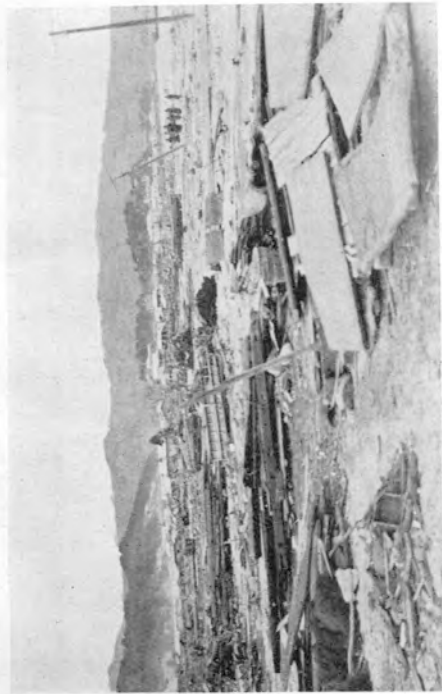
51. 岩手縣田老村田老。
災害後約二ヶ月を経過せる復興状況。縣道兩側に商店の
營業せるあり。正面の山鼻は計畫防浪堤の西端取付部な
り。(附圖第 36 圖並計畫圖參照) 昭和八年五月七日撮影



50. 岩手縣田老村田老。
災害状況。寫眞は海岸より望める部落地跡。左方白く
見ゆるは災害をまぬがれし小學校。(附圖第 36 圖參照)



52. 岩手縣田老村田老。
殘存せる小學校、津浪浸水位は學校石垣の下端に達
す。(附圖第 36 圖並計畫圖參照) 昭和八年五月七日撮影



53. 岩手縣山田町。災害状況。波高4.75米の津波に依り流失倒壊戸數108戸、浸水44戸、寫真後方市街地の殘存せるは海岸護岸の堅固なりしに依る。街路復舊事業を施行し、現地に復興す。(附圖第34圖並計畫圖參照)



55. 岩手縣田野畑村島ノ越。災害状況。津波波高10米、流失倒壊戸數50戸にして全滅に歸す。



54. 岩手縣小本村小本。住宅適地造成事業進捗状況、造成敷地面積3,314坪、收容戸數71戸、(附圖第37圖並計畫圖參照)昭和九年三月十七日撮影。



56. 岩手縣田野畑村平井賀。波高10米、(明治二十九年には寫真右方最上位の家屋迄浸水す)流失倒壊戸數50戸、前面高地は移轉敷地の一なり(附圖第38圖並計畫圖參照)昭和八年五月八日撮影



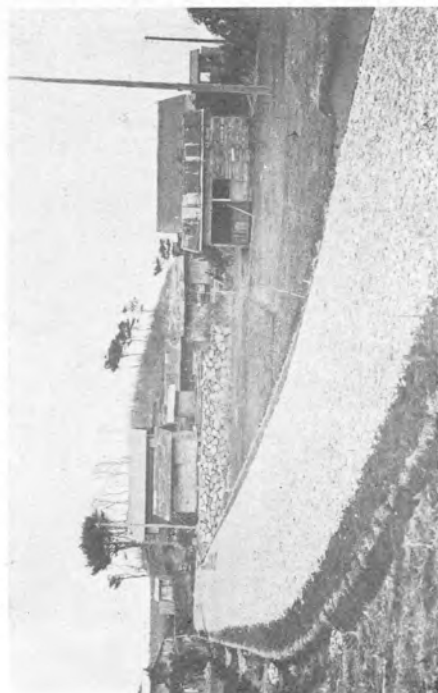
57. 岩手縣種市村八木。
災害状況。八木驛附近の被害状況を示す。波高 6.8 米
流失倒壊戸數 42 戸。














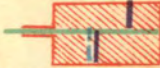







59. 岩手縣種市村八木。
住宅適地造成事業進捗状況。寫眞第 58 に於ける説明
参照。

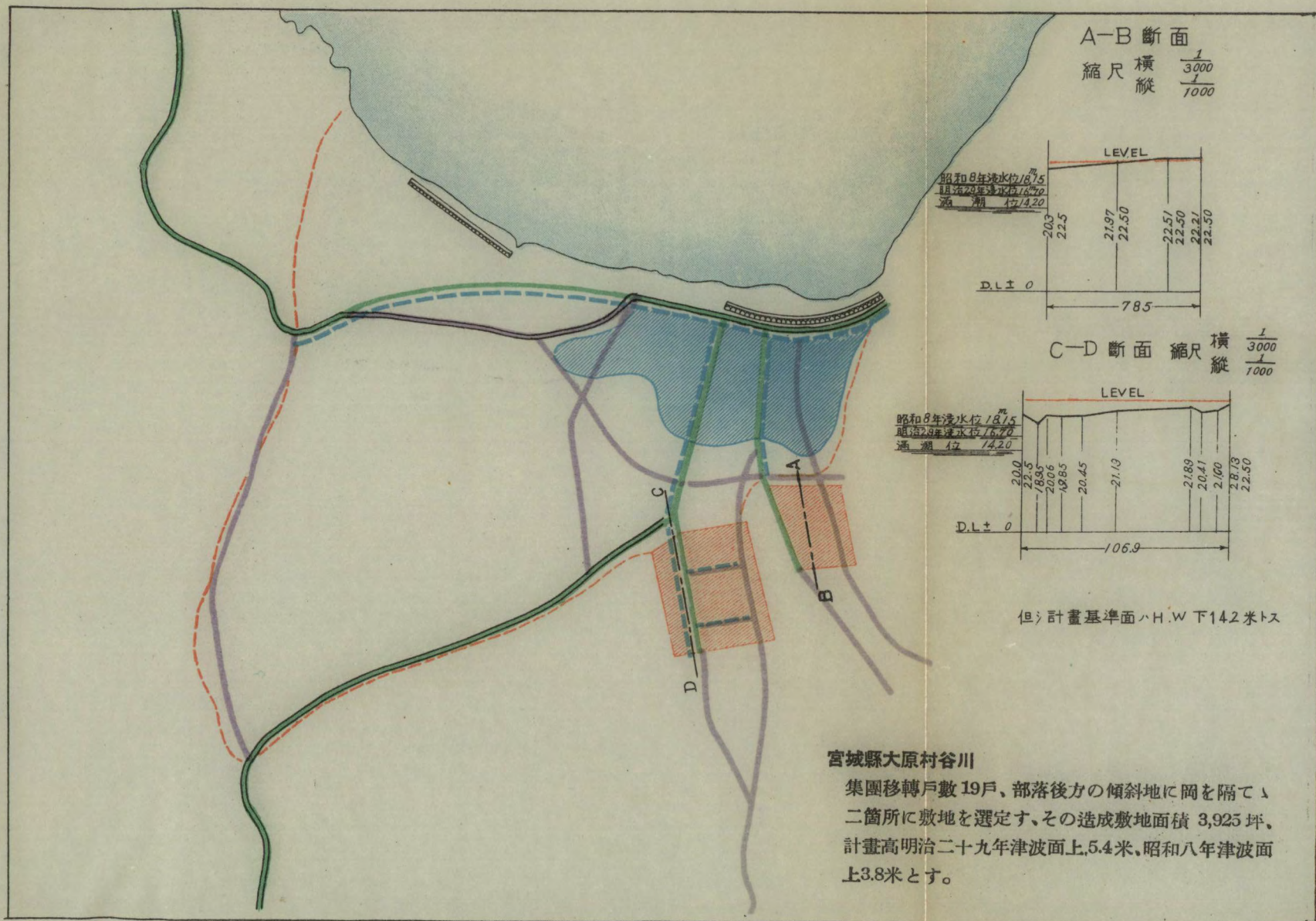


58. 岩手縣種市村八木。
住宅適地造成事業進捗状況。本部落に於ては寫眞第 59
に示すものと二ヶ所に敷地を造成す。その總面積
1,174 坪、收容戸數 20 戸、(附圖第 40 圖並計畫圖參
照)昭和九年三月十九日撮影。



60. 岩手縣種市村大濱。
住宅適地造成事業進捗状況。敷地造成面積 323 坪、收容
戸數 5 戸、中央道路は縣道附帯線なり、(附圖第 40 圖
並計畫圖參照)昭和九年三月十九日撮影。

計 畫 圖 凡 例	鐵 道		既 成 線
			豫 定 線
	路 畫 線	在來道路 	相當幅員アルモノ
		計 	幅員15米以上
		畫 	幅員11—12米
		路 	幅員7—10米
		線 	幅員4—6米
		線 	幅員2—3米
		事業 	街路復舊事業
		路線 	其他ノ事業
	例		昭 和 8 年 家屋流失倒壊區域
			宅地造成區域
			建築禁止區域
			復 舊 事 業 防浪堤及防波堤
			復 舊 事 業 堤防及護岸
			復 舊 事 業 改 修 河 川
飛行 寫真 測量 圖 凡 例			昭 和 8 年 津波漫水線
			明 治 2 9 年 津波漫水線
			昭 和 8 年 家屋流失倒壊區域



第 一 圖



宮 城 縣
大原村 谷川
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺 五 千 分 ノ 一

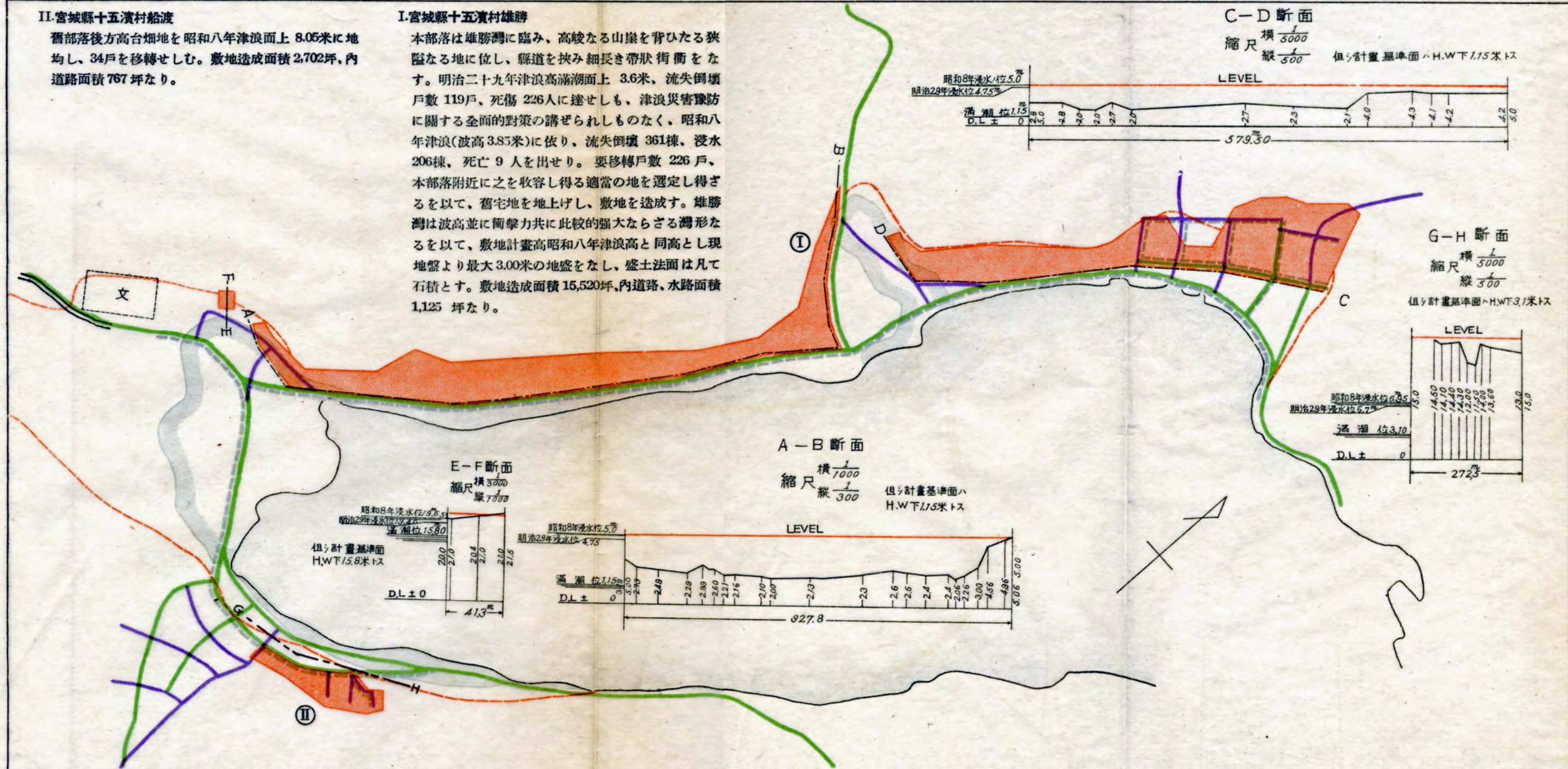
第一圖



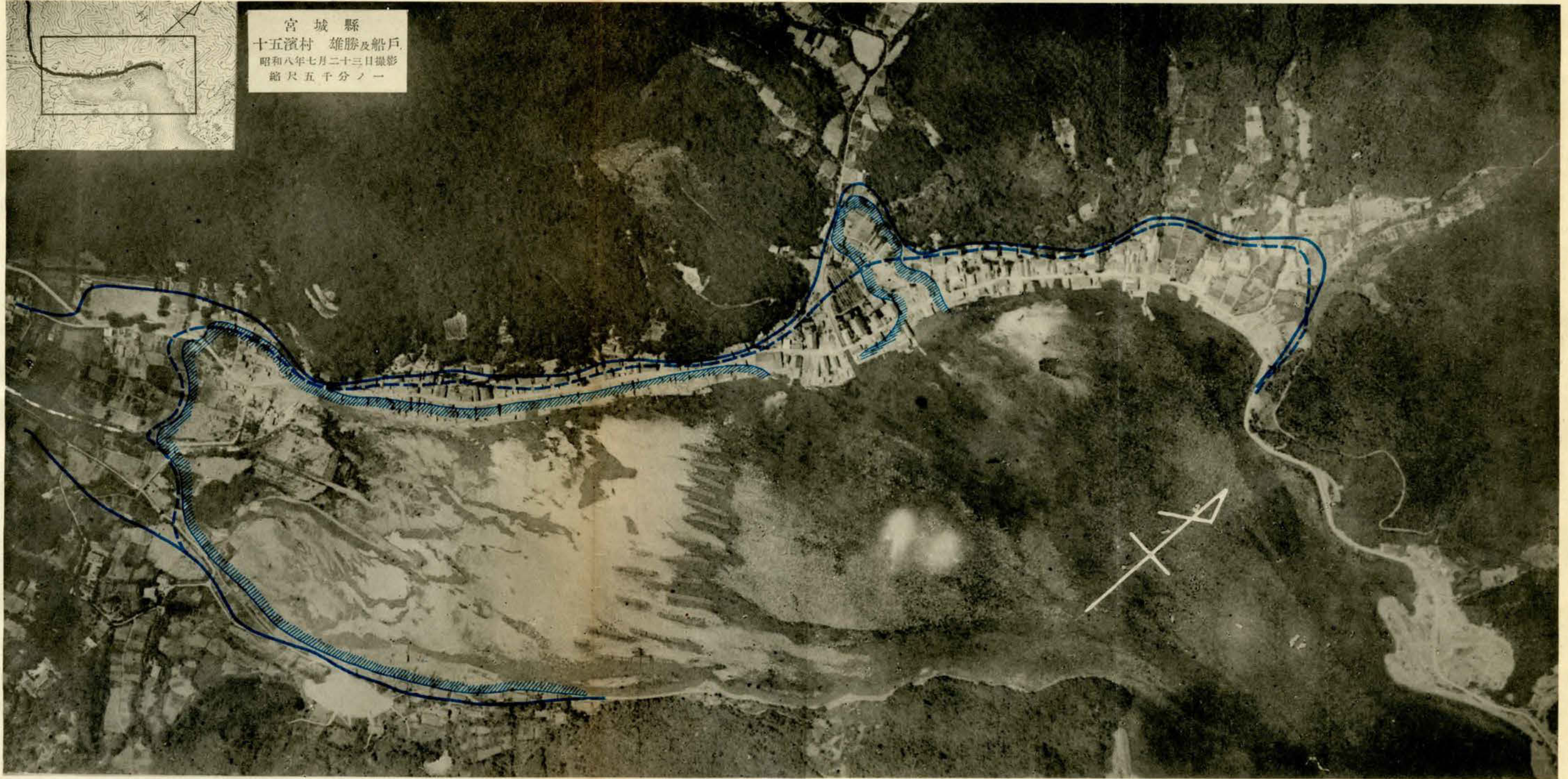
宮城縣
大原村 谷川
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一

舊部落後方高台畑地を昭和八年津浪面上 8.05米に地均し、34戸を移轉せしむ。敷地造成面積 2,702坪、内道路面積 767 坪なり。

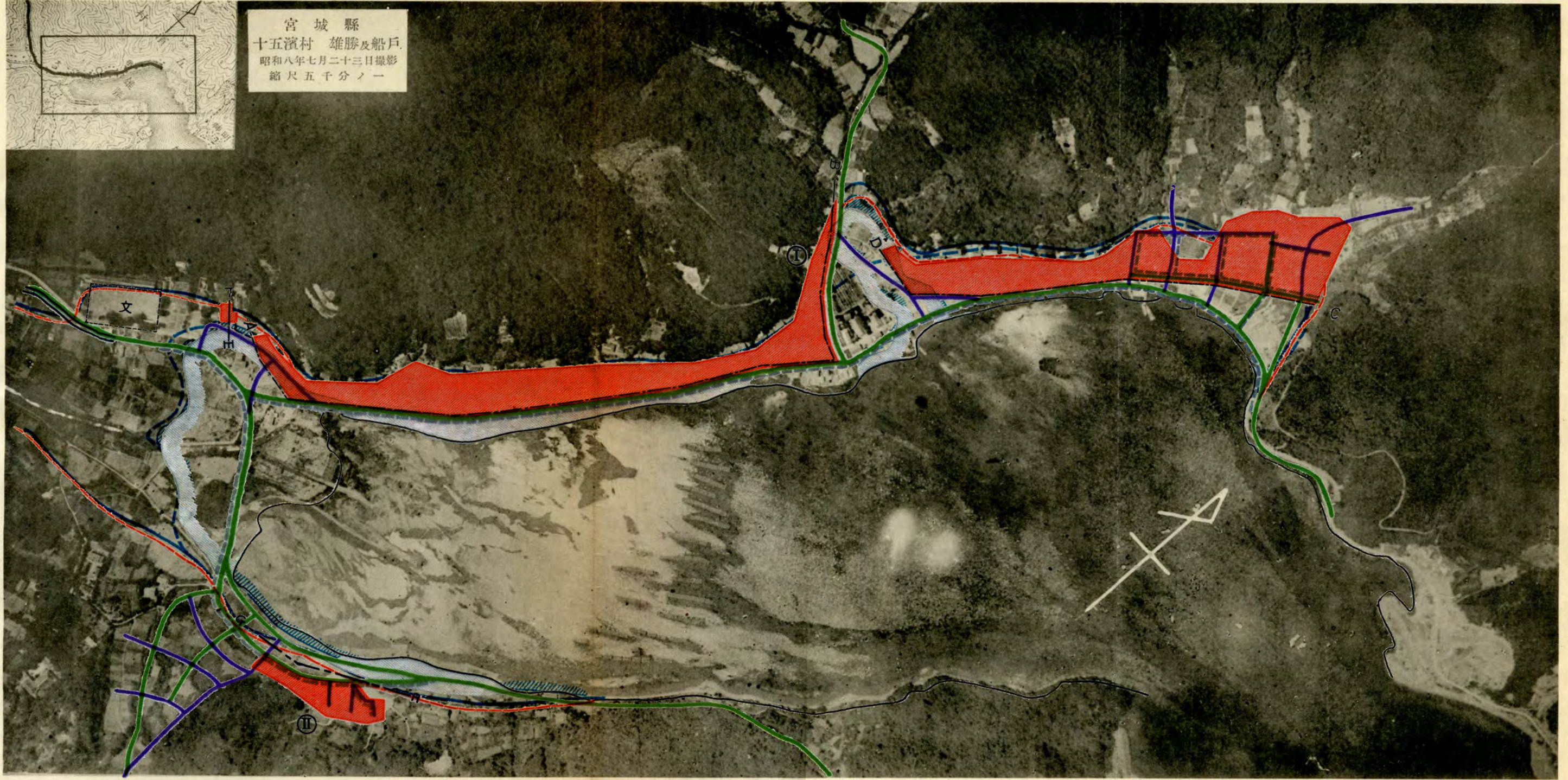
本部落は雄勝灣に臨み、高峻なる山嶺を背ひたる狹隘なる地に位し、縣道を挟み細長き帶狀街衢をなす。明治二十九年津浪高滿潮面上 3.6 米、流失倒壊戸數 119 戸、死傷 226 人に達せしも、津浪災害豫防に關する全面的對策の講ぜられしものなく、昭和八年津浪(波高 3.85 米)に依り、流失倒壊 361 棟、浸水 206 棟、死亡 9 人を出せり。要移轉戸數 226 戸、本部落附近に之を收容し得る適當の地を選定し得ざるを以て、舊宅地を地上げし、敷地を造成す。雄勝灣は波高並に衝擊力共に此較的強大ならざる灣形なるを以て、敷地計畫高昭和八年津浪高と同高とし現地盤より最大 3.00 米の地盛をなし、盛土法面は凡て石積とす。敷地造成面積 15,520 坪、内道路、水路面積 1,125 坪なり。



第 二 圖



第 二 圖

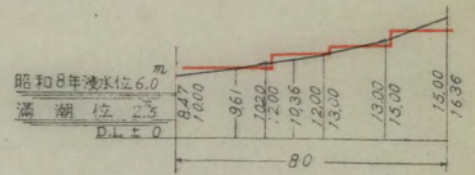


宮城県十五濱村船越

昭和八年津浪波高3.5米、家屋の流失倒壊57棟、浸水83棟、合計140棟に達す。集團移轉をなすもの48戸、部落後方谷間に住宅適地を選定し、敷地計畫高昭和八年津浪浸水面上3.85米、面積2,311坪なり。

A-B断面

横 1/5000
縮尺 縦 1/1000



但シ計畫基準面ハH.W下2.5メートル



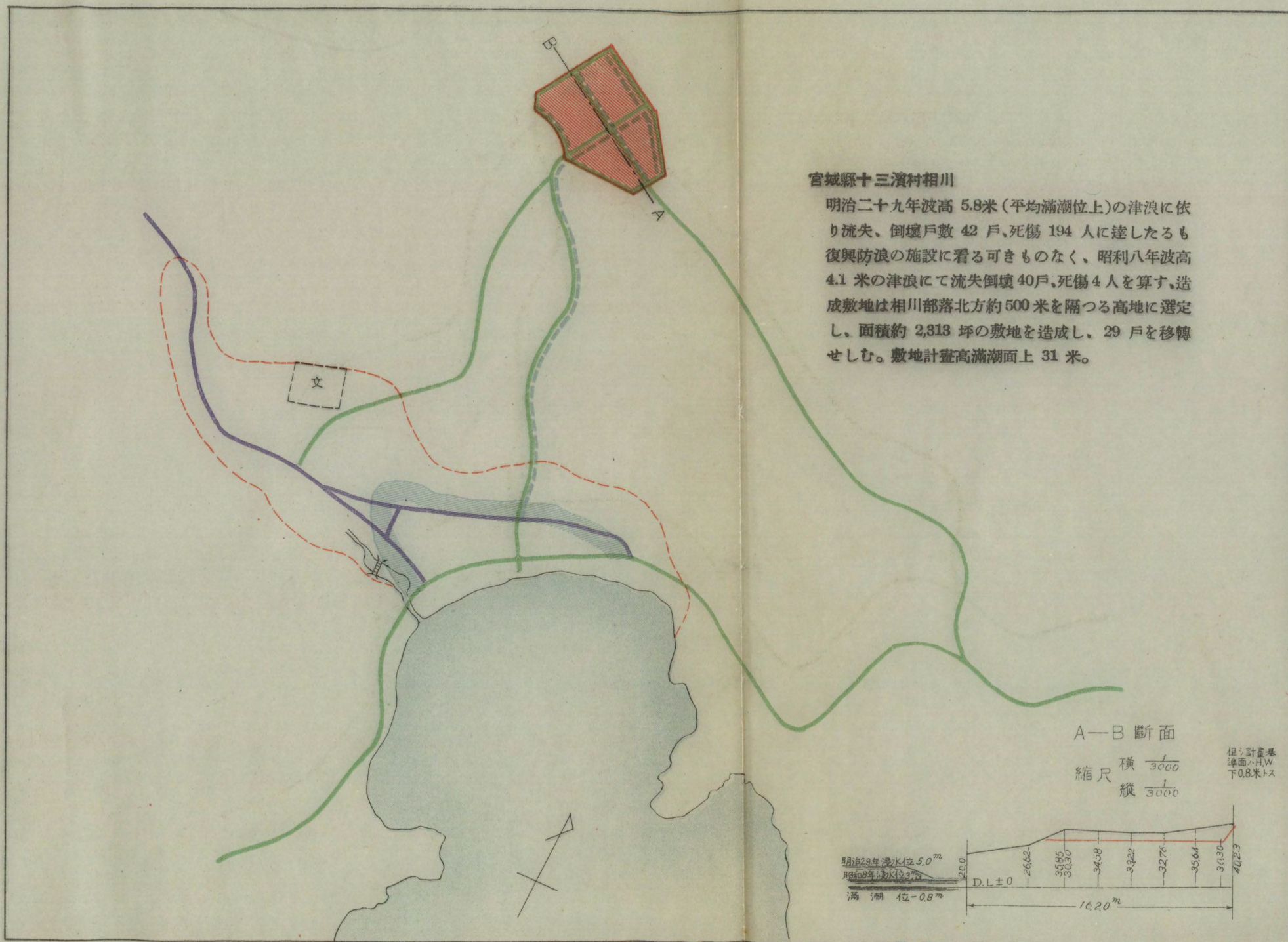
第三圖



宮城縣
十五濱村 船越
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一



宮 城 縣
十五濱村 船越
昭和八年七月二十三日撮影
縮 尺 五 千 分 ノ 一

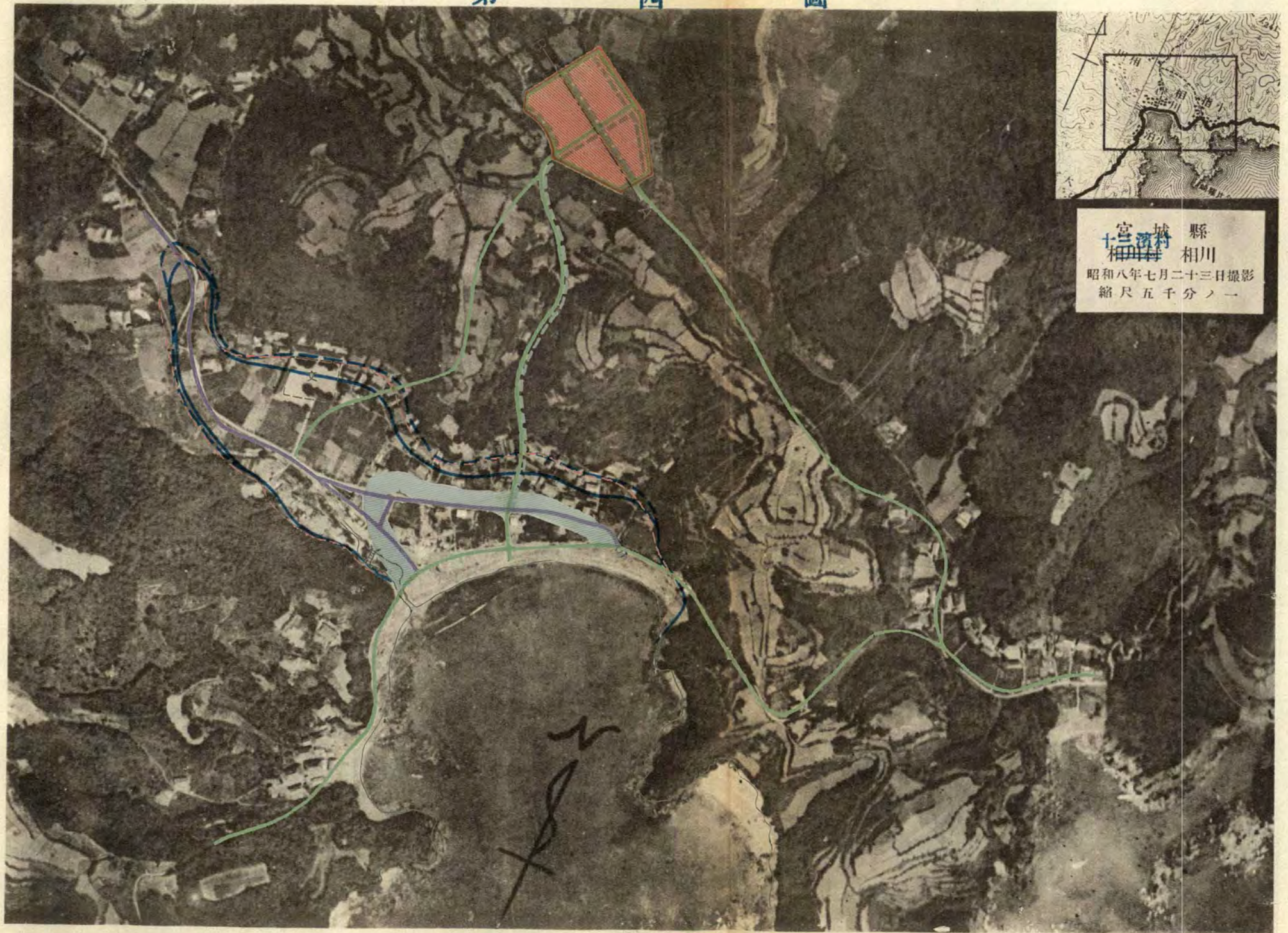


第 四 圖



宮城縣
相川村
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一

第 四 圖

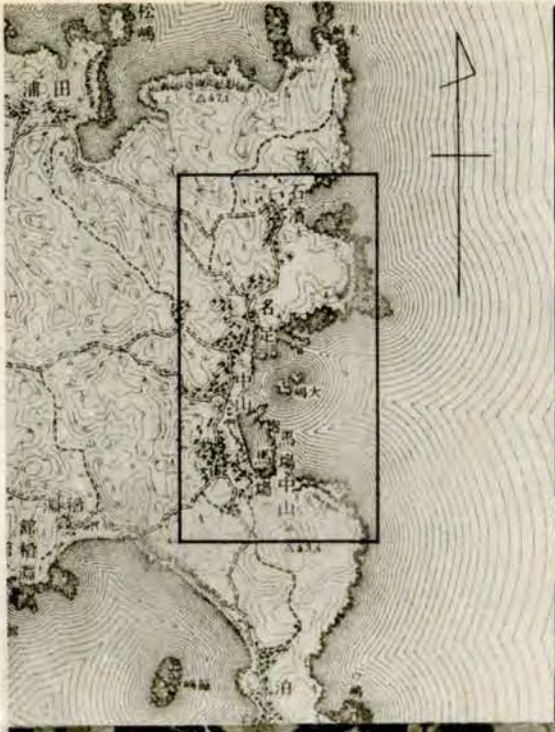


宮城縣
十三
相川
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一



宮城縣歌津村石濱

明治二十九年津浪波高10.5米(平均満潮位上)、昭和八年波高10.1米、移轉戸數7戸、その造成敷地は舊部落の西北方畑地に選定し、集團したる各戸移轉を行はしむ。



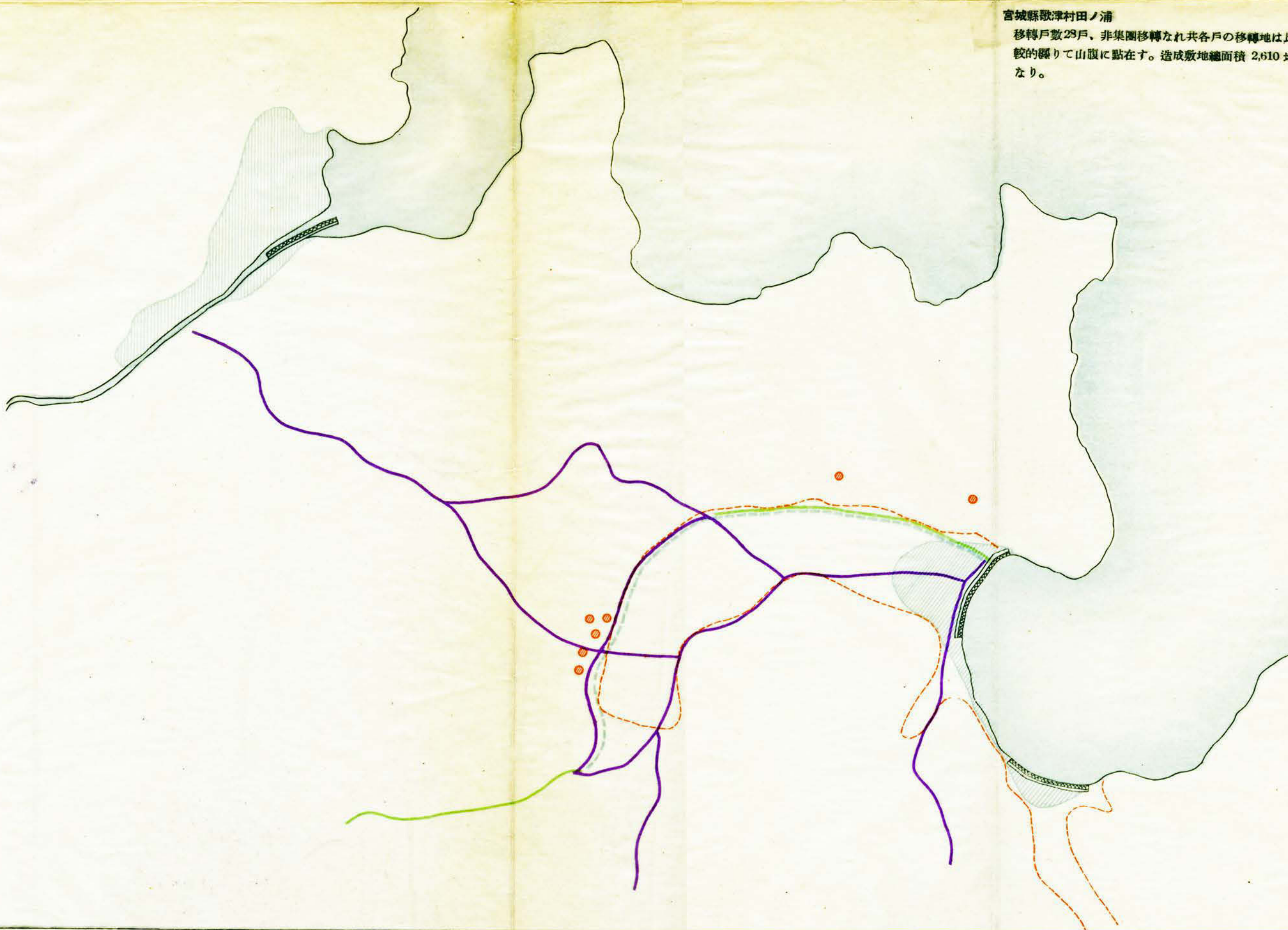
宮城縣
歌津村 石濱、名足、中山、馬場
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一



宮城縣
歌津村 石濱、名足、中山、馬場
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一

宮城縣歌津村田ノ浦

移轉戸數23戸、非集團移轉なれ共各戸の移轉地は比較的廣りて山腹に點在す。造成敷地總面積 2,610 坪なり。



第六圖



第六圖



宮城縣
歌津村 田ノ浦及港
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分の一

第七圖

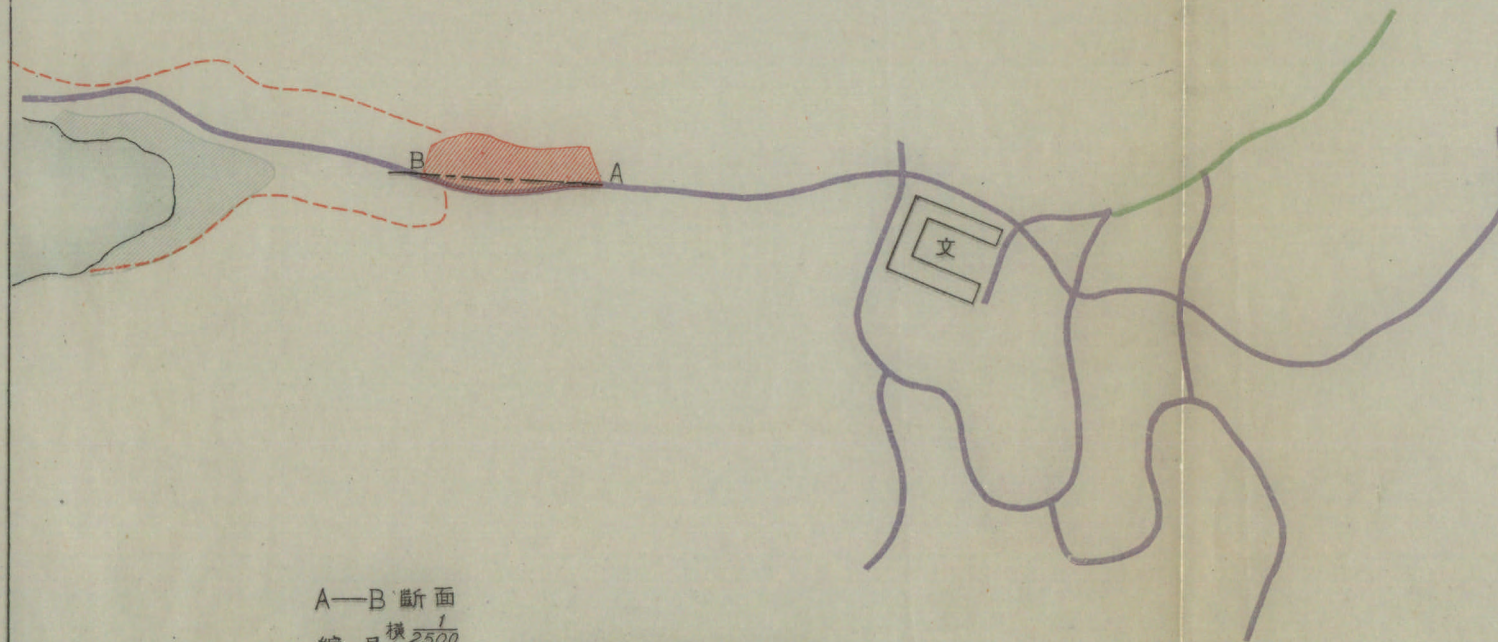


宮城縣
大谷村 大谷
昭和八年七月二十二日撮影
縮尺五千分ノ一

28

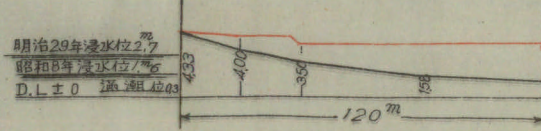
宮城縣唐桑村宿

要移轉戸數 23 戸、集團移轉戸數 16 戸にして、敷地造成面積 1,290 坪、現地盤より最大 2.4 米の地盛をなし、明治二十九年津浪面上 1.10 米以上、昭和八年津浪面上 2.30 米以上とす。



A—B 断面
縮尺 横 $\frac{1}{2500}$
縦 $\frac{1}{500}$

但し計畫基準面ハH.W下0.3米トス



第 八 圖



宮 城 縣
唐 桑 村 宿
昭和八年七月二十三日撮影
縮 尺 五 千 分 ノ 一

第 八 圖



宮 城 縣
唐桑村 宿
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一

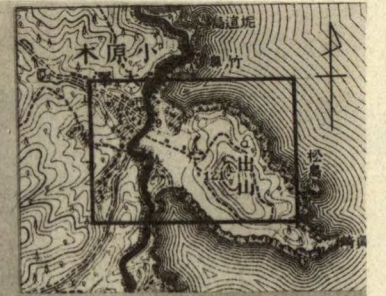
第九圖



宮城縣 唐桑村 大澤
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分の一



第十圖

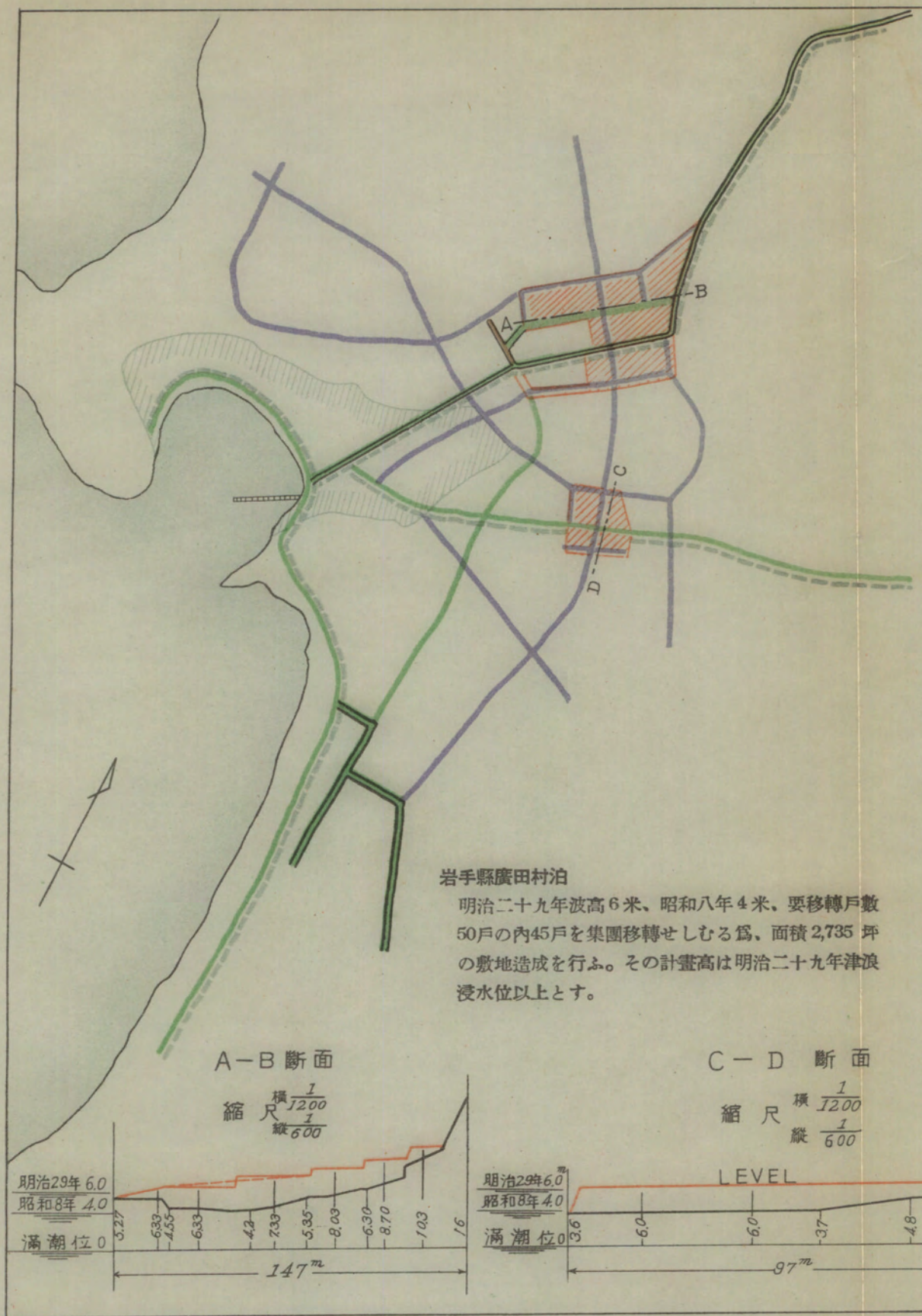


宮城縣
唐桑村 大澤
昭和八年七月二十三日撮影
縮尺五千分ノ一

第 十 一 圖



岩手縣
廣田村 集及根崎
昭和八年六月八日撮影
縮尺五千分ノ一

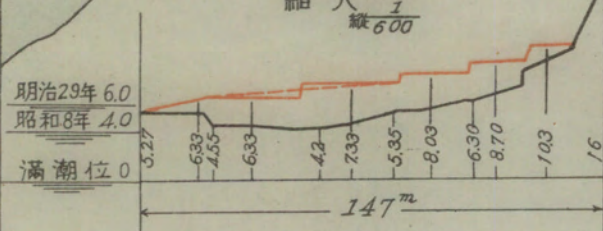


岩手縣廣田村泊

明治二十九年波高6米、昭和八年4米、要移轉戸數50戸の内45戸を集團移轉せしむる爲、面積2,735坪の敷地造成を行ふ。その計畫高は明治二十九年津浪浸水位以上とす。

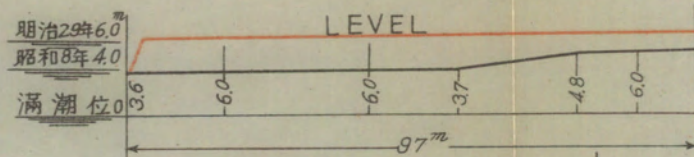
A-B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{1200}$
縦 $\frac{1}{600}$



C-D 断面

縮尺 横 $\frac{1}{1200}$
縦 $\frac{1}{600}$



第十二圖



岩手縣
廣田村 泊
昭和八年六月八日撮影
縮尺五千分ノ一

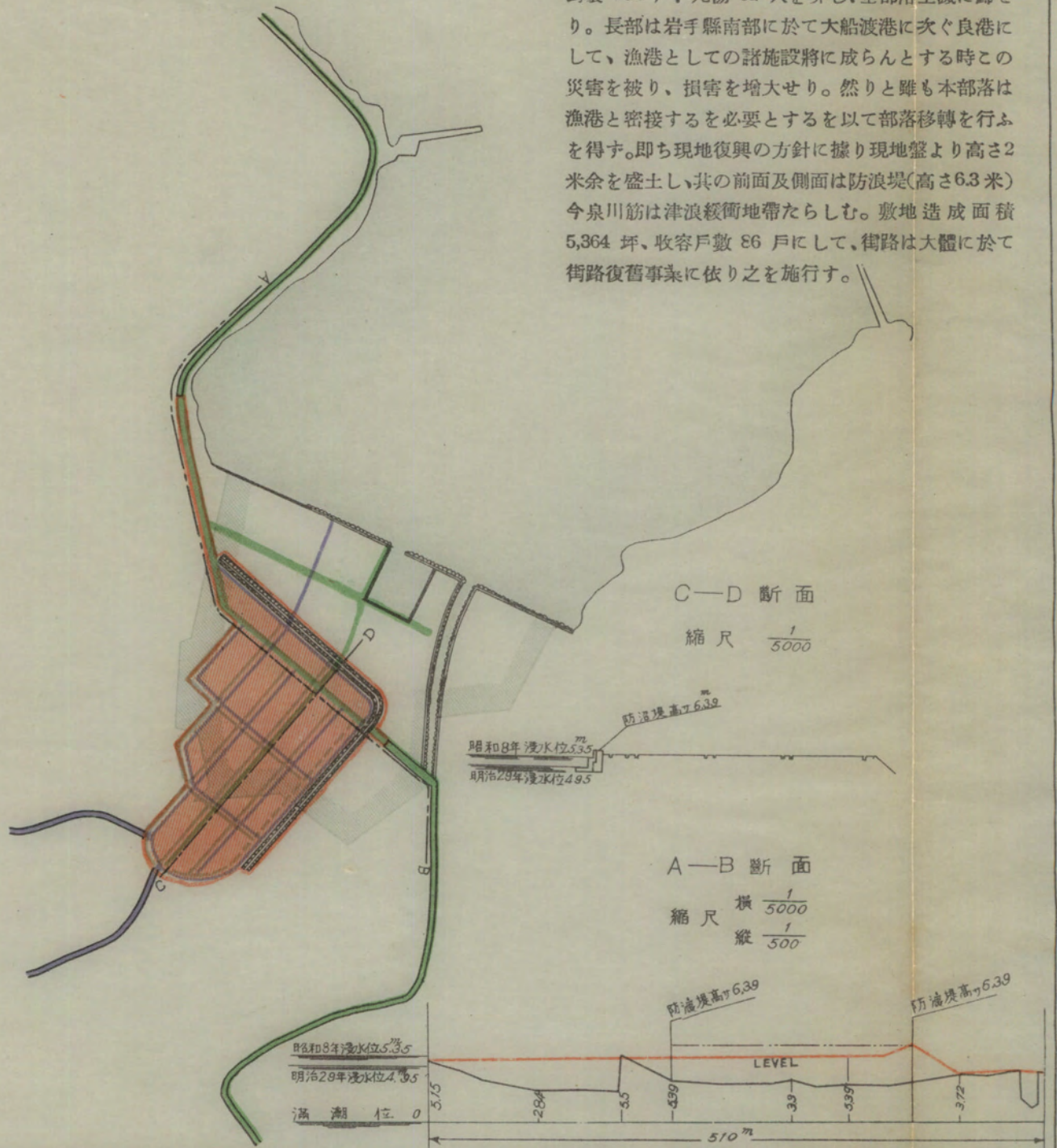
第十二圖



岩手縣
廣田村 泊
昭和八年六月八日撮影
縮尺五千分ノ一

岩手縣氣仙町長部

明治二十九年津浪は満潮面上波高4.95米にして、家屋の流失 37戸、死亡 42人を出せしも何等防浪対策の講ぜらるるなく、昭和八年津浪に依り家屋の流失倒壊 102戸、死傷 52人を算し、全部落全滅に歸せり。長部は岩手縣南部に於て大船渡港に次ぐ良港にして、漁港としての諸施設將に成らんとする時この災害を被り、損害を増大せり。然りと雖も本部落は漁港と密接するを必要とするを以て部落移轉を行ふを得ず。即ち現地復興の方針に據り現地盤より高さ2米余を盛土し、其の前面及側面は防浪堤(高さ6.3米)今泉川筋は津浪緩衝地帯たらしむ。敷地造成面積 5,364坪、収容戸數 86戸にして、街路は大體に於て街路復舊事業に依り之を施行す。



第三十圖

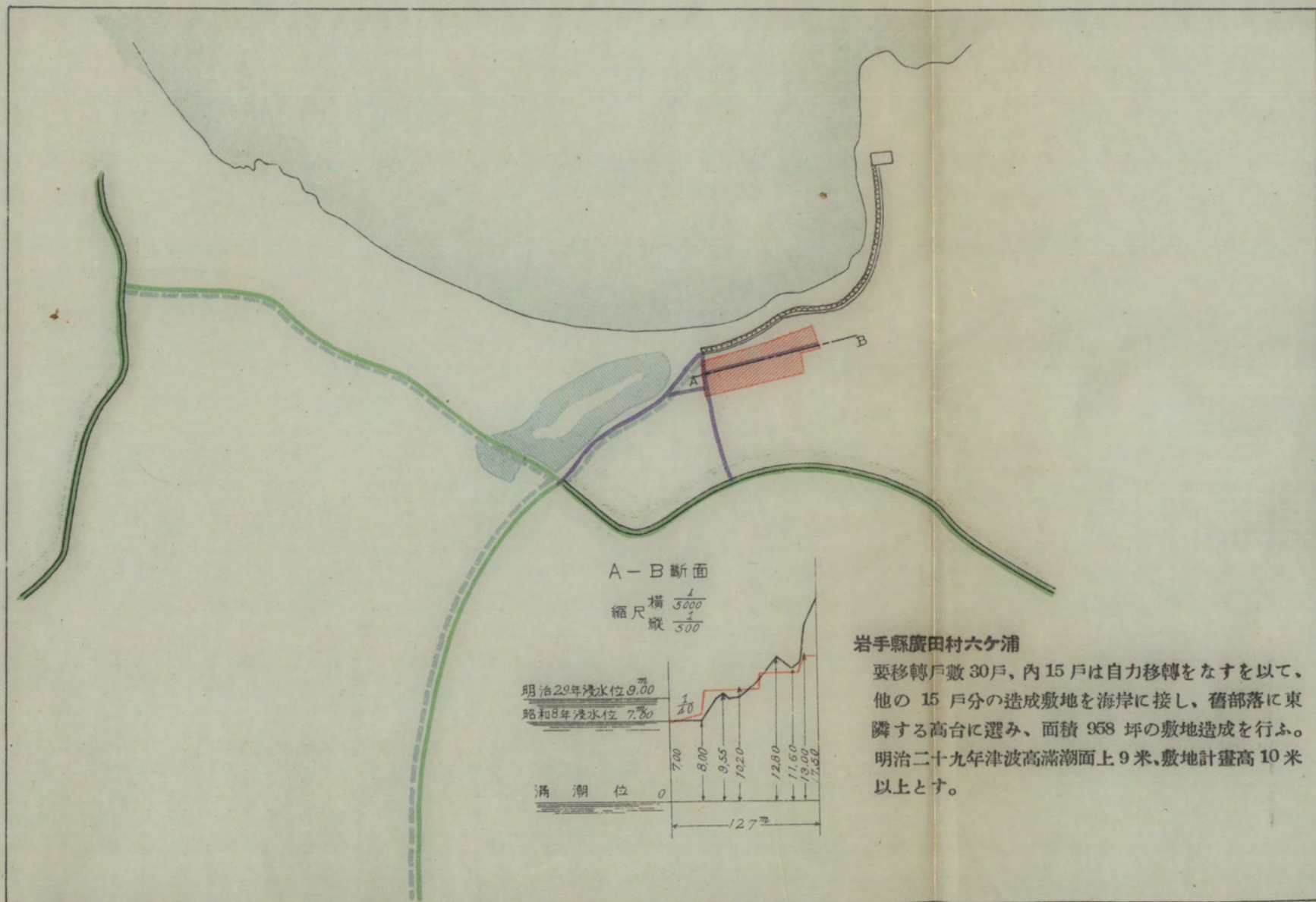
岩手縣
氣仙町 長部
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



第 十 三 圖

岩 手 縣
氣仙町 長部
昭和八年六月二十六日撮影
縮 尺 五 千 分 ノ 一



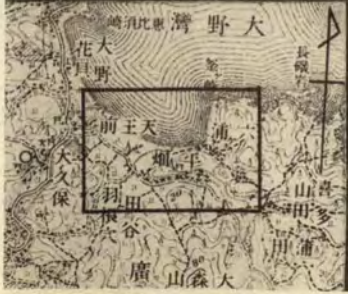
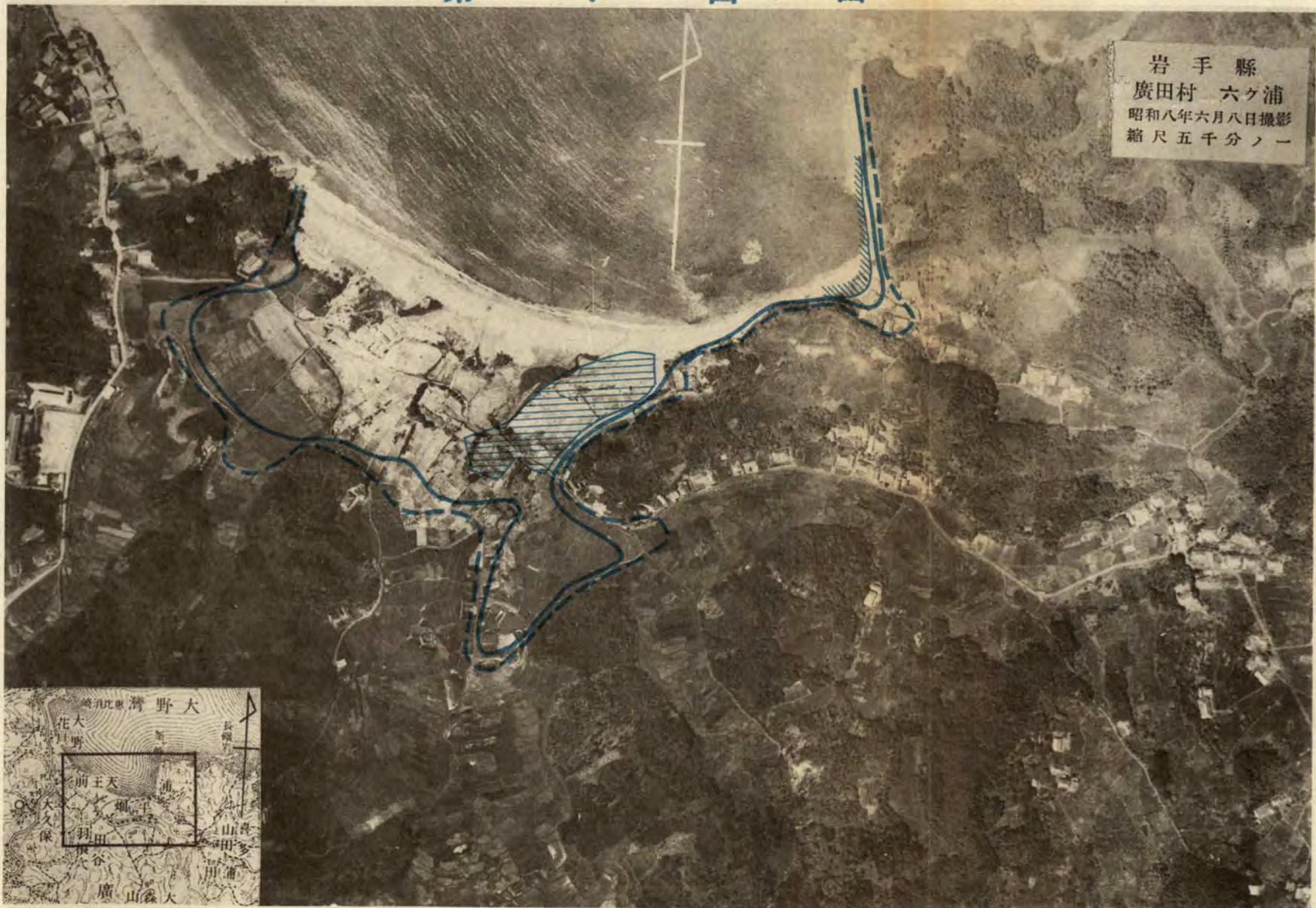


岩手縣廣田村六ヶ浦

要移轉戸數 30戸、内 15 戸は自力移轉をなすを以て、他の 15 戸分の造成敷地を海岸に接し、舊部落に東隣する高台に選み、面積 958 坪の敷地造成を行ふ。明治二十九年津波高満潮面上 9 米、敷地計畫高 10 米以上とす。

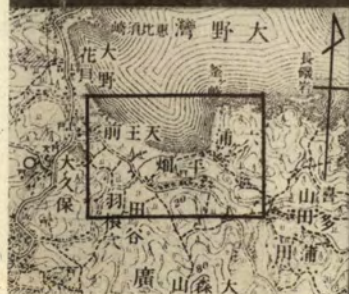
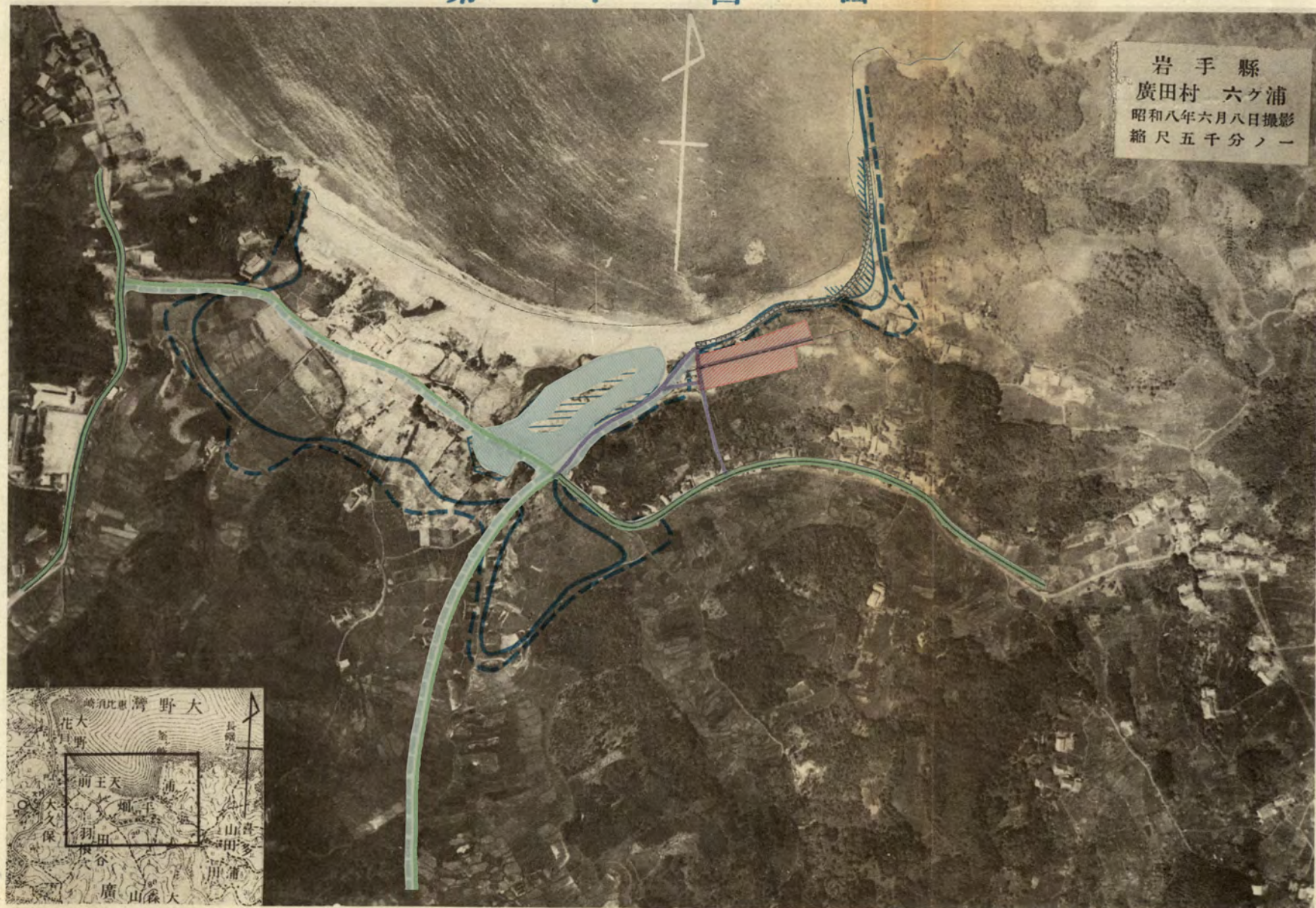
第十四圖

岩手縣
廣田村 六ヶ浦
昭和八年六月八日撮影
縮尺五千分ノ一



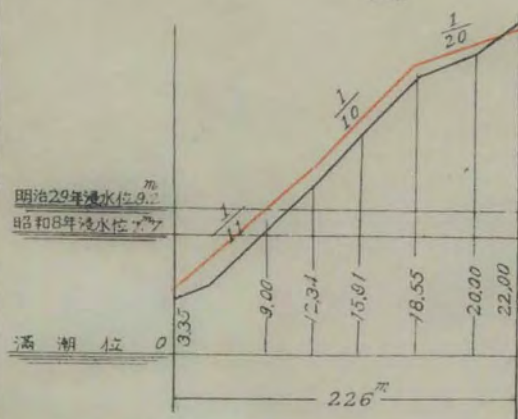
第十四圖

岩手縣
廣田村 六ヶ浦
昭和八年六月八日撮影
縮尺五千分ノ一



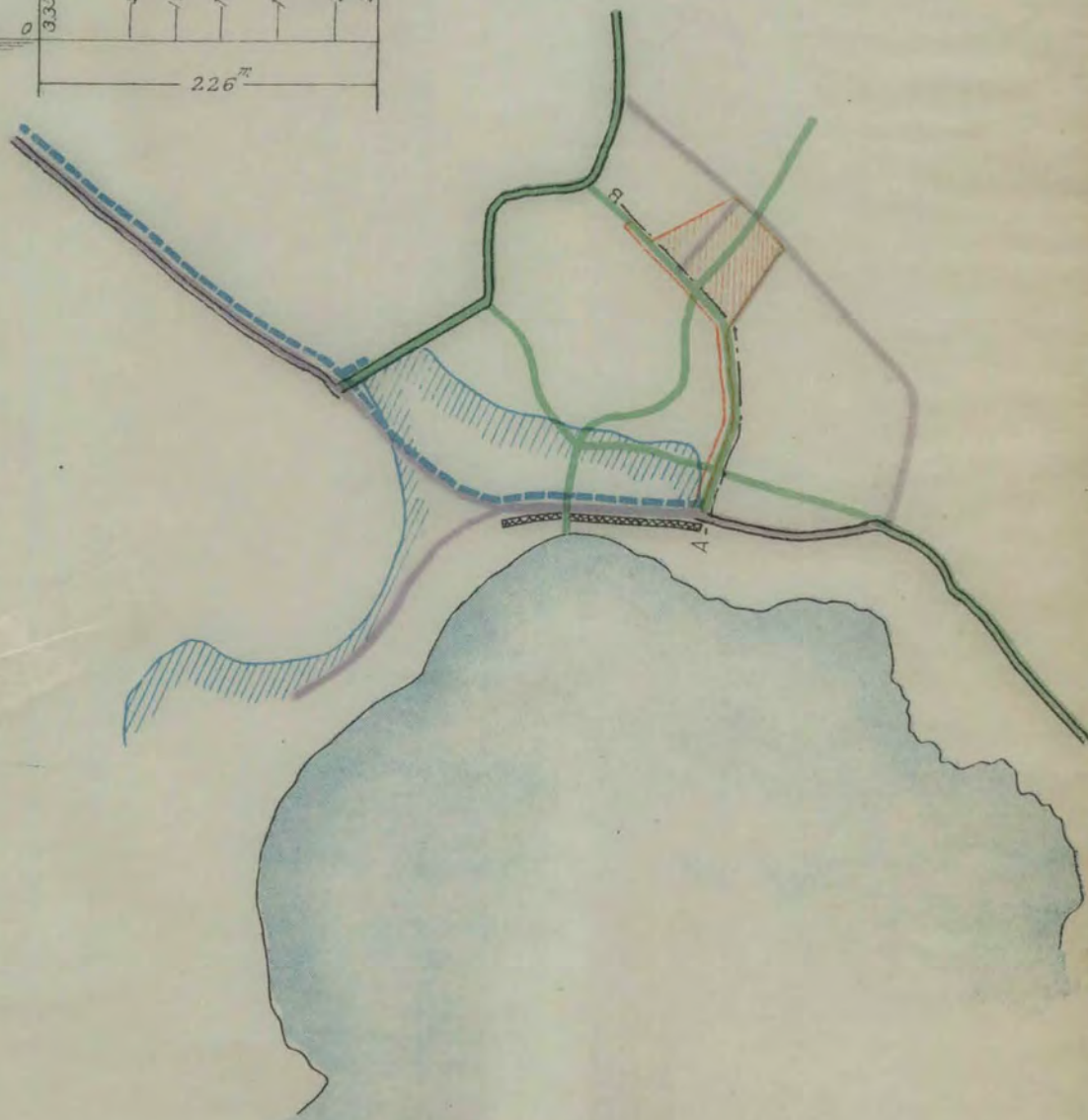
A-B 断面

縮尺 $\frac{1}{5000}$
 $\frac{1}{500}$



岩手縣小友村唯出

要移轉戸數 35 戸、其内 19 戸分の敷地を造成す。
其の面積 1,113 坪、附近津浪高明治二十九年 9.2 米、
昭和八年 7.7 米、造成敷地は高さ 14 米以上の丘陵
地を地均し在來高地住宅に連るものなり。



第十五圖



岩手縣
小友村 唯出
昭和八年六月八日撮影
縮尺千五分ノ一

第十五圖



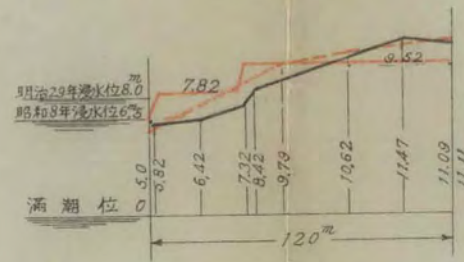
岩手縣
 小友村 唯出
 昭和八年六月八日撮影
 縮尺千五分ノ一

岩手縣末崎村泊里

要移轉戸數 42 戸、集團移轉戸數 19 戸、住宅適地は高さ 6 米以上の斜面を切均し、明治二十九年浸水位と大體同程度以上に築造するものにして、その面積 1,360 坪とす。本部落の移轉候補地は平面圖に示す部落後方の高台を以て理想とすれ共、用地關係等に依り至急の實施不可能なる爲、計畫を變更せしものにして、計畫圖は殘存部落の將來の移轉に資せんとするものなり。

A—B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{3000}$
縦 $\frac{1}{500}$



第十六圖



岩手縣
末崎村 泊里及門濱
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

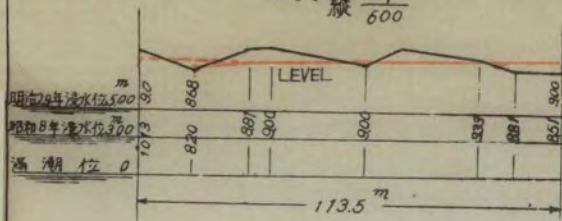
第十六圖



岩手縣
末崎村 泊里及門濱
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

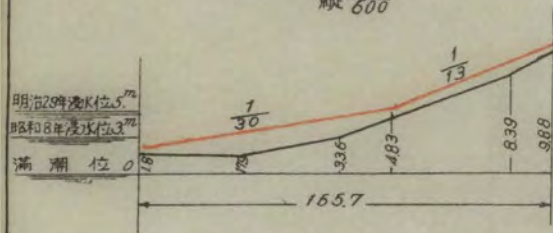
A—B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{2000}$
縦 $\frac{1}{600}$



C—D 断面

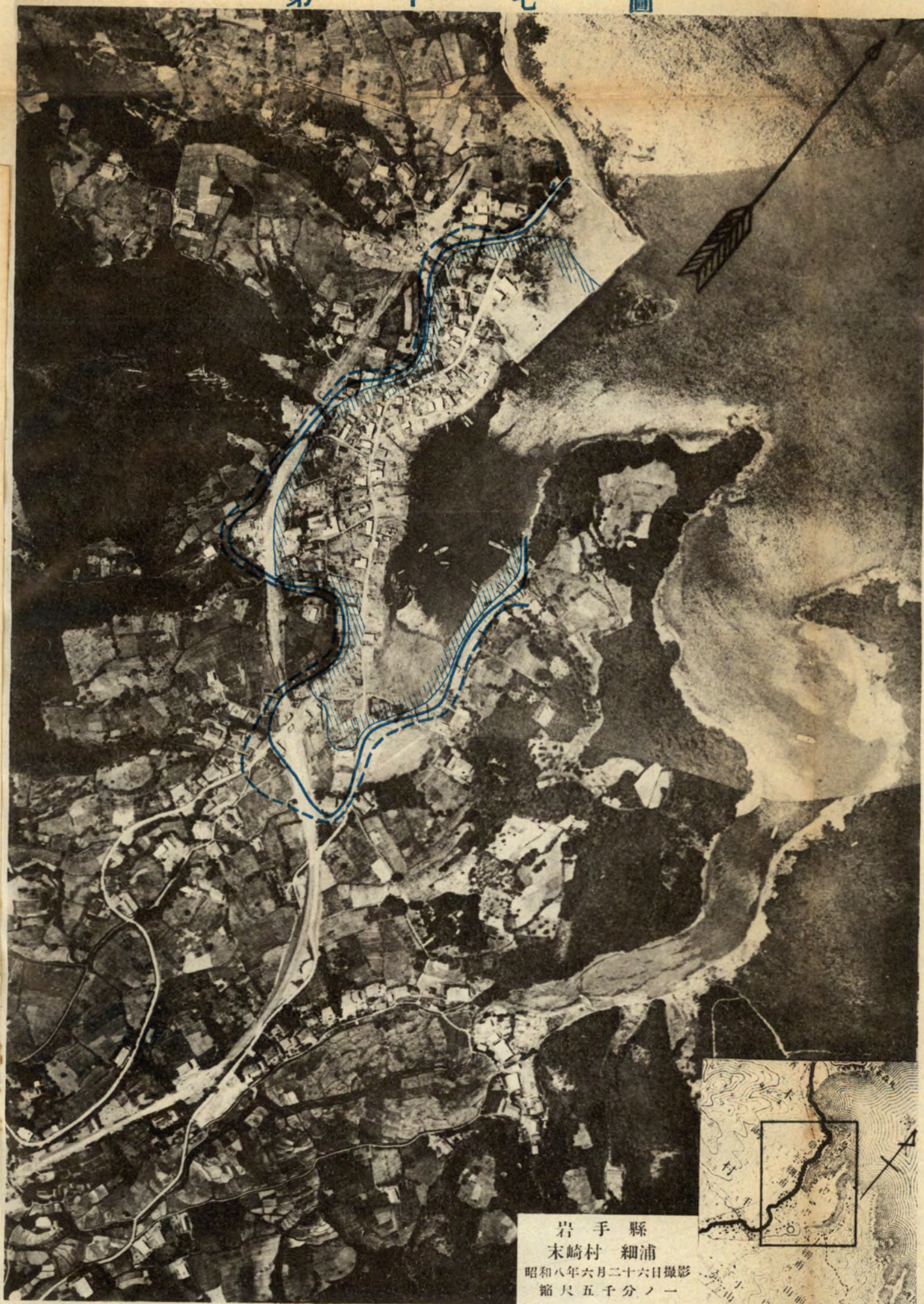
縮尺 横 $\frac{1}{3000}$
縦 $\frac{1}{600}$



岩手縣末崎村細浦

細浦は細浦灣西側に沿ふ港町にして、三陸汽船定期發着し、昭和八年十二月國有鐵道大船渡船開通せり。昭和八年津浪高3.00米、相當の災害を被りしも、現地に於てのみその經濟的活動を繼續し得可き本部落の如きは、一部住宅を除くの外高地移轉を行ひ得ず、現地復興を行ふの外途なし、従つて街路復舊事業その他の事業に依り街衢を整理し、日常の活動と非常時の避難に備へ、海岸は埋立を行ひ、護岸を築造し、波力の滅殺に努む。然りと雖も罹災家屋の内海岸危險區域に在るを要せざるものは之を高地に移轉せしむる爲部落南方高台を利用し、此處に35戸を移轉せしむ、その敷地造成面積1,863坪、計畫高は明治二十九年津浪高(5.00米)より尙4.00米以上の高さに在り。

第十七圖



岩手縣
末崎村 細浦
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

第十七圖



岩手縣
末崎村 細浦
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



I. 岩手縣綾里村湊

湊灣は直接外洋に開口せる細長きU字型にして、本部落は其の灣奥に位し波高及衝擊力共に大なり。昭和八年津浪高9米、湊、岩崎兩部落に於ける家屋の流失倒壊戸數 136 戸、死傷 111 人を出す、斯の如き地形に於ける部落は高地移轉をなすを理想とし、本部落に於ては舊部落地の西側山地の斜面に沿ひ明治二十九年津浪浸水線以上の高さに、縣道盛綾里線を付け替へ、此の兩側に敷地を造成す。其の收容戸數 146 戸、面積7,287 坪、中央高所に村役場を置き、造成敷地と海岸との連絡道路數條を設け、海岸には防浪護岸を設け、舊部落地は之を共同作業場とし、綾里川沿一帯の低地は防浪緩衝地帯たらしむ。

II. 岩手縣綾里村石濱

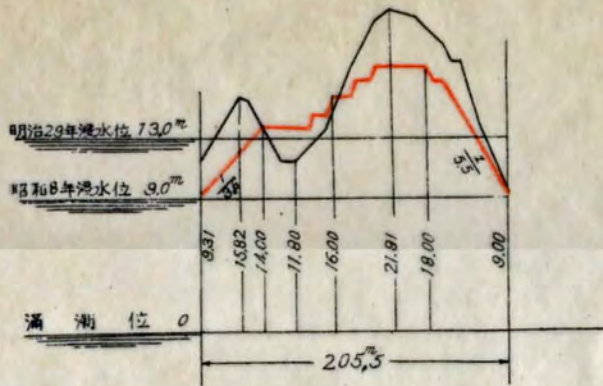
要移轉戸數 29 戸、集團移轉戸數 20 戸、其の敷地造成面積1,130坪、縣道盛綾里線に沿ひ、計畫高滿潮位上 14 米以上にして明治二十九年津浪浸水線上尙 1.0 米の高さにあり。

III. 岩手縣綾里村田濱

要移轉戸數 37 戸、集團移轉戸數 18 戸、其の敷地造成面積 838 坪、部落の東方高地を切均し、明治二十九年浸水位(11米)上 6.8 米の高さとす。

E-F 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{500}$



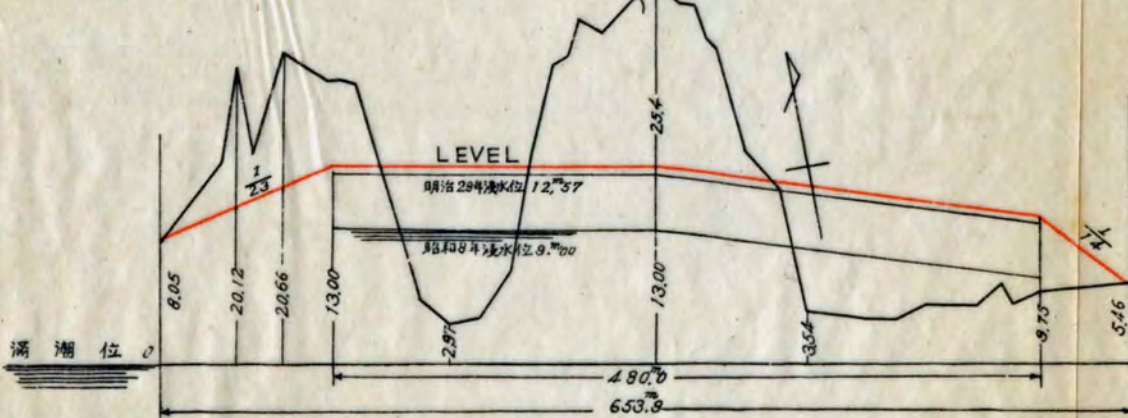
C-D 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{500}$



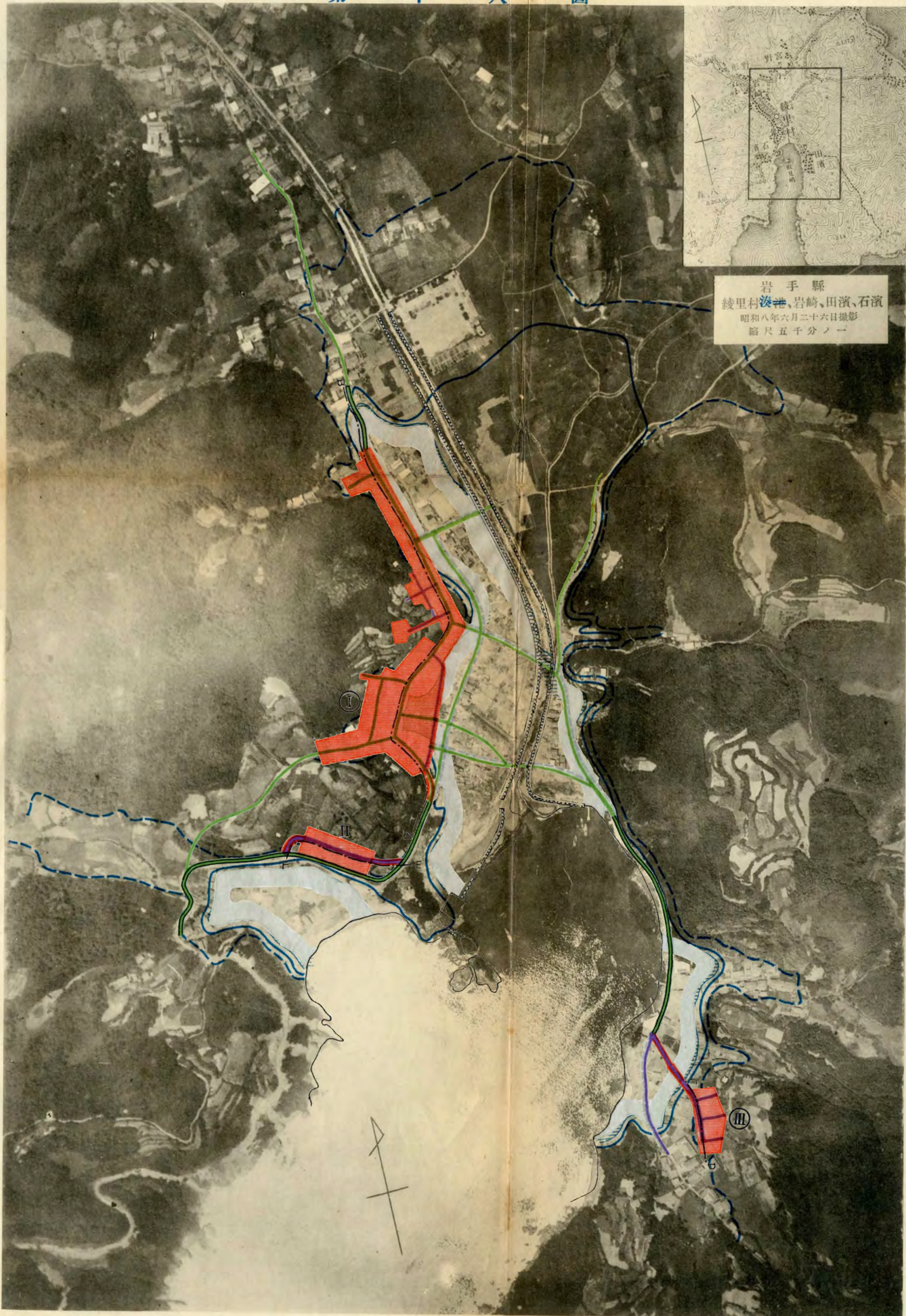
A-B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{500}$



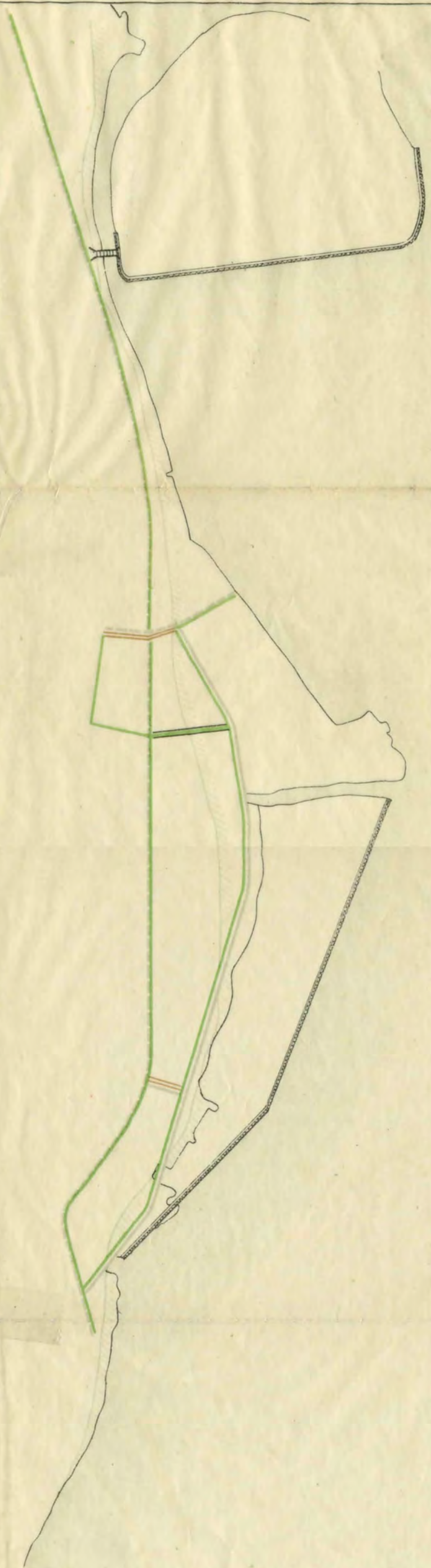


岩手縣
綾里村、岩崎、田濱、石濱
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



岩手縣大船渡町笹崎

天然の良港を控へ目下工事中の港灣修築事業は昭和九年度中完成の見込にて、三千噸級の船舶は直に岸壁に繋船し得るものにして、昭和九年八月國有鐵道大船渡線の開通と相俟つて、海陸交通の要衝をなす。昭和八年津浪は護岸及工事中の繋船岸壁に依り其の勢を滅殺され、被害の大部分は浸水の程度なりしも、市街地の故を以て相當の被害を受けたり。將來築港の完成、護岸の整理等に依りて、波力は更に滅殺せらる可きを以て、現地に於て復興事業を施行せんとするものなり。新驛と海岸を連絡する幅員 11 米道路より、築港を経て縣道に連る幅員 5.5 米乃至 12.0 米の道路を街路復舊事業として擴張新設し、之に依りて街衢を整理す、その延長 933.8 米なり。



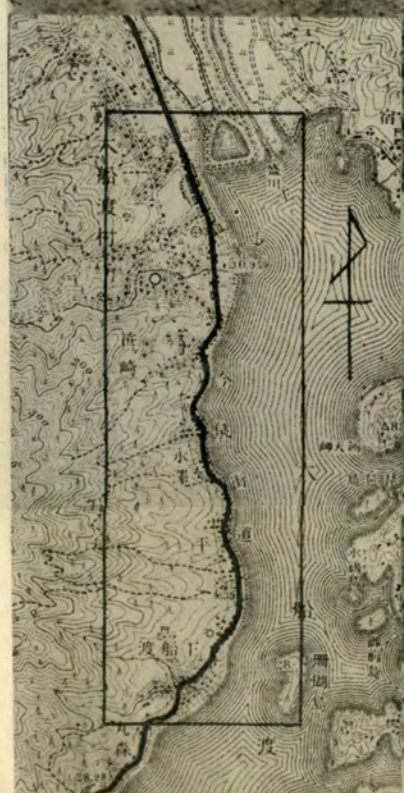


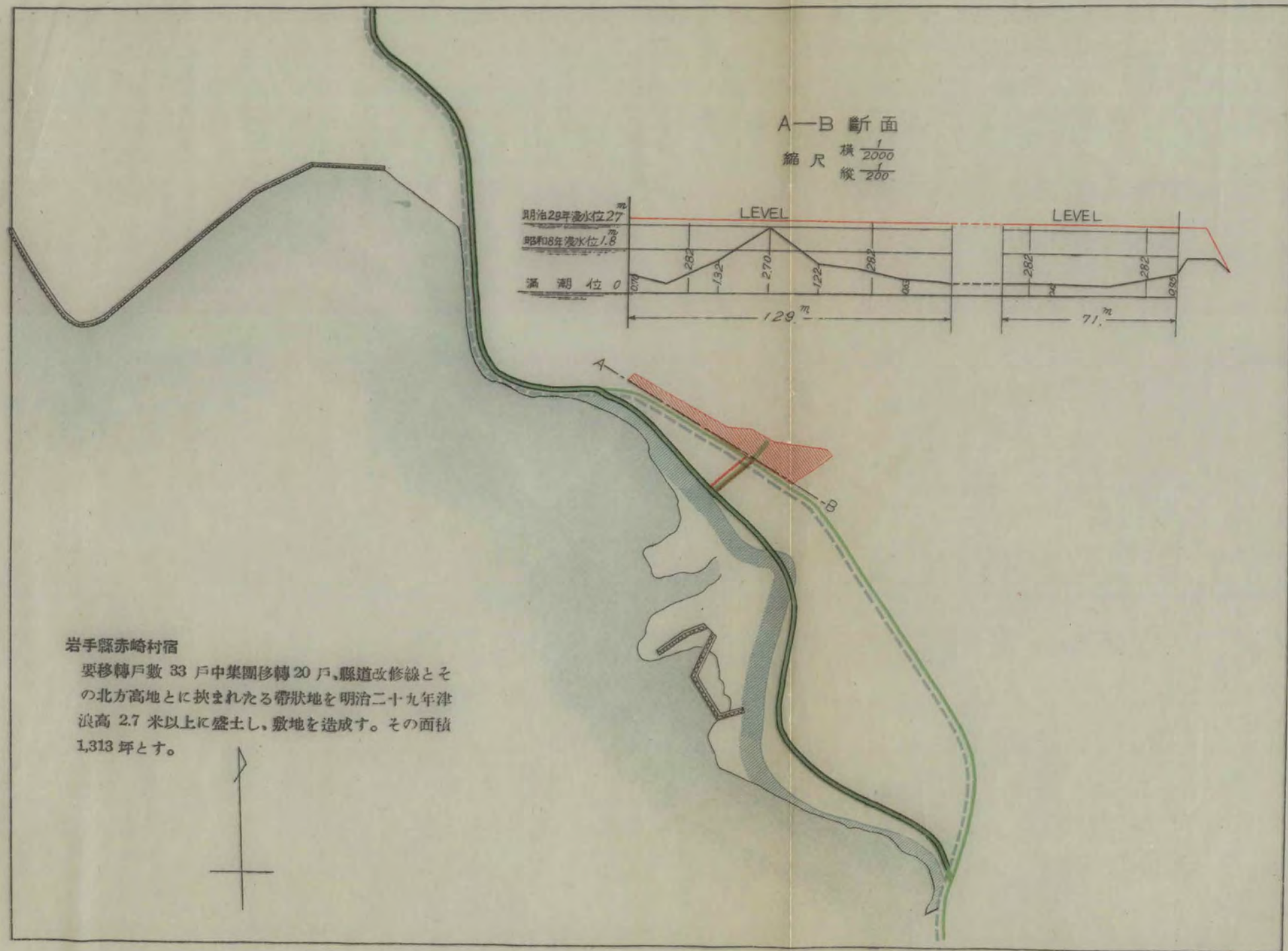
岩手縣
大船渡町
昭和八年 月 日撮影
縮尺五千分の一





岩手縣
大船渡町
昭和八年 月 日撮影
縮尺五千分ノ一





第二十圖



岩手縣
赤崎村 海宿
昭和八年 月 日撮影
縮尺五千分ノ一

第二十圖



岩手縣
赤崎村
昭和八年 月 日撮影
縮尺五千分ノ一

第二十圖

岩手縣
綾里村 白濱
昭和八年六月二十日撮影
縮尺五千分ノ一



岩手縣越喜來村崎濱

明治二十九年津浪災害後市區改正を行へるも、積極的防浪對策なかりし爲、昭和八年津浪(波高7.8米)に依り、家屋の流失倒壊49戸に達せり。之等罹災家屋は之を高地に移轉せしめ、跡地を共同作業場たらしむる計畫は罹災を再びせざる用意として必要なるにかかわらず、末だ高地移轉決行を見ざるは遺憾なり。茲に移轉住宅適地は現存部落東北に接する高台斜面を理想とする事を附記し、計畫圖のみを掲ぐ。



第 二 十 二 圖



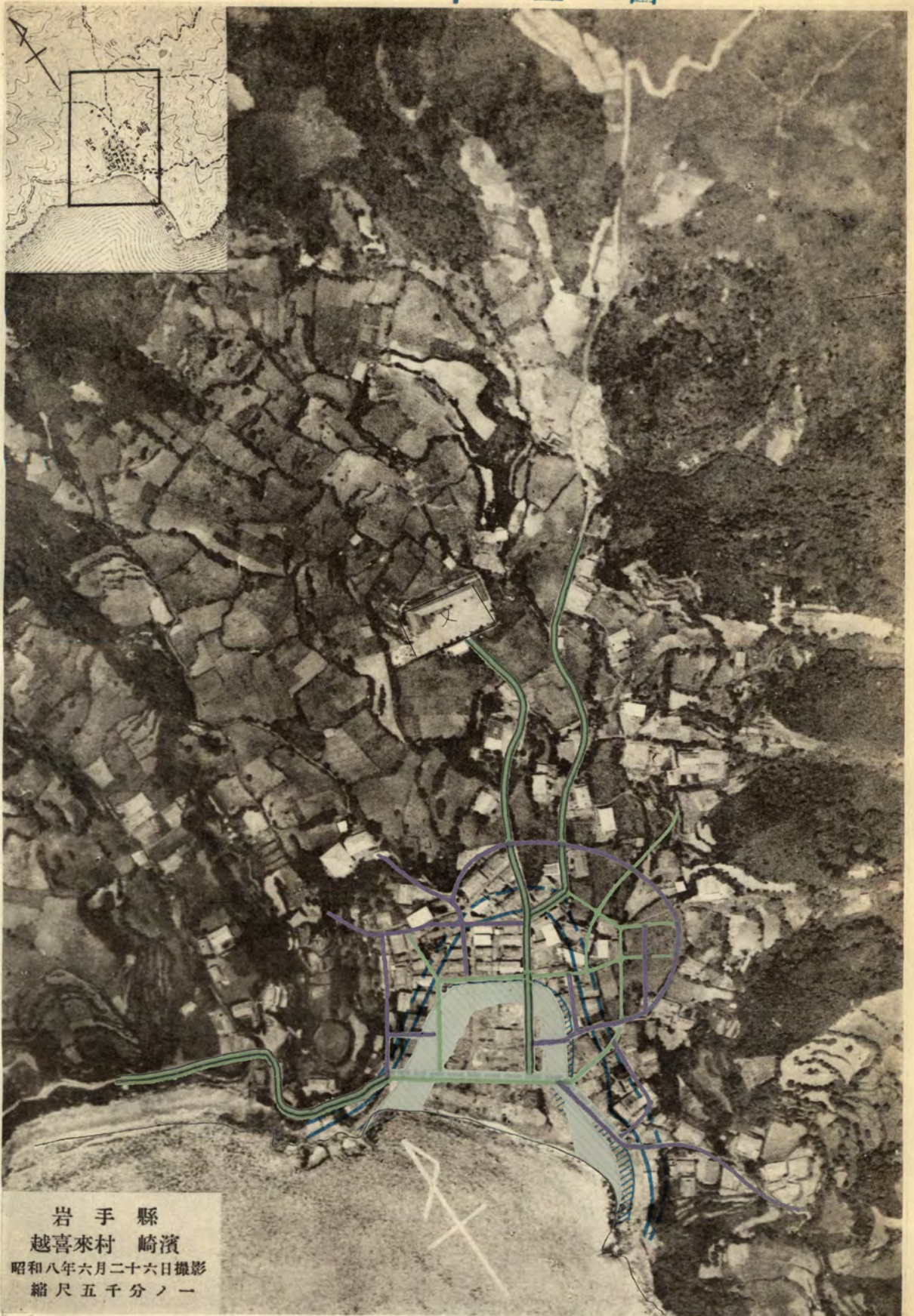
岩 手 縣

越喜來村 崎濱

昭和八年六月二十六日撮影

縮尺五千分ノ一

第 二 十 二 圖



岩 手 縣

越喜來村 崎濱

昭和八年六月二十六日撮影

縮尺五 千 分 ノ 一

岩手縣越喜來村浦濱

集團移轉戸數 70 戸、造成敷地面積 3,494 坪、浸水高
明治二十九年 9.28 米、昭和八年 6.72 米にして敷地
計畫高 11 米以上とす。



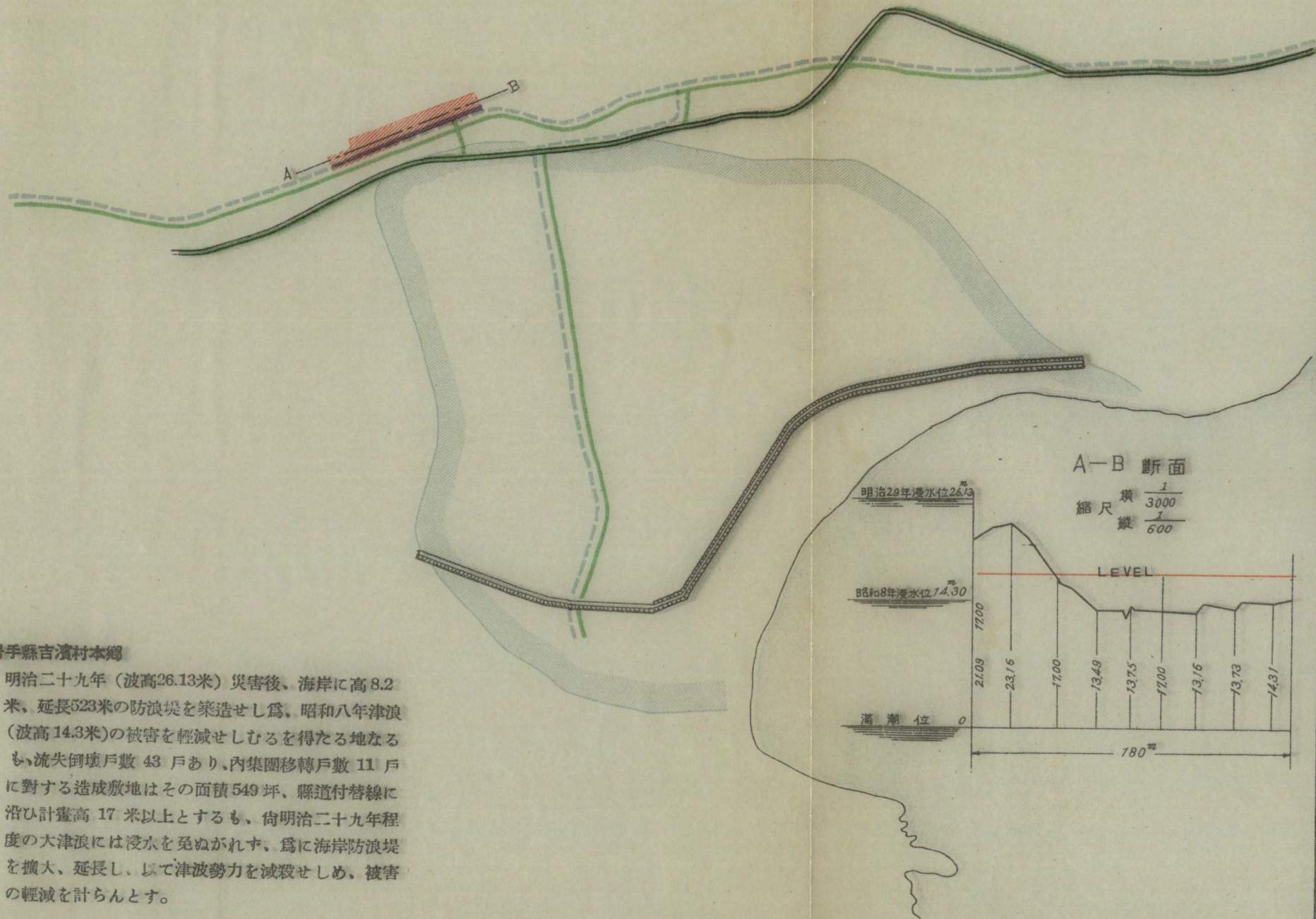




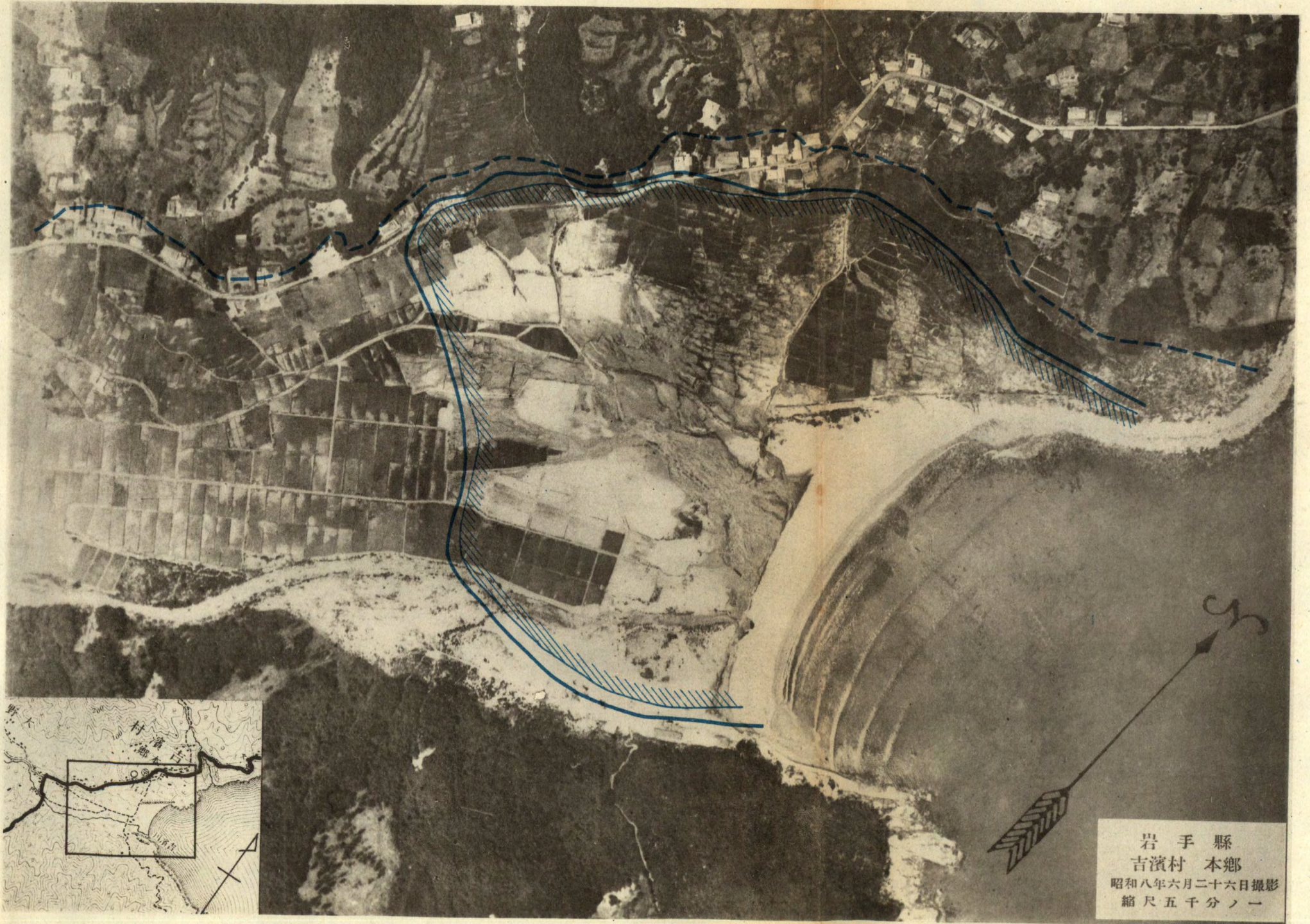
岩手縣
越喜來村 浦濱及泊
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

岩手縣吉濱村本郷

明治二十九年（波高26.13米）災害後、海岸に高8.2米、延長523米の防浪堤を築造せし爲、昭和八年津浪（波高14.3米）の被害を軽減せしむるを得たる地なるも、流失倒壊戸數43戸あり、内集團移轉戸數11戸に對する造成敷地はその面積549坪、縣道付替線に沿ひ計畫高17米以上とするも、尙明治二十九年程度の大津浪には浸水を免ぬがれず、爲に海岸防浪堤を擴大、延長し、以て津波勢力を減殺せしめ、被害の軽減を計らんとす。

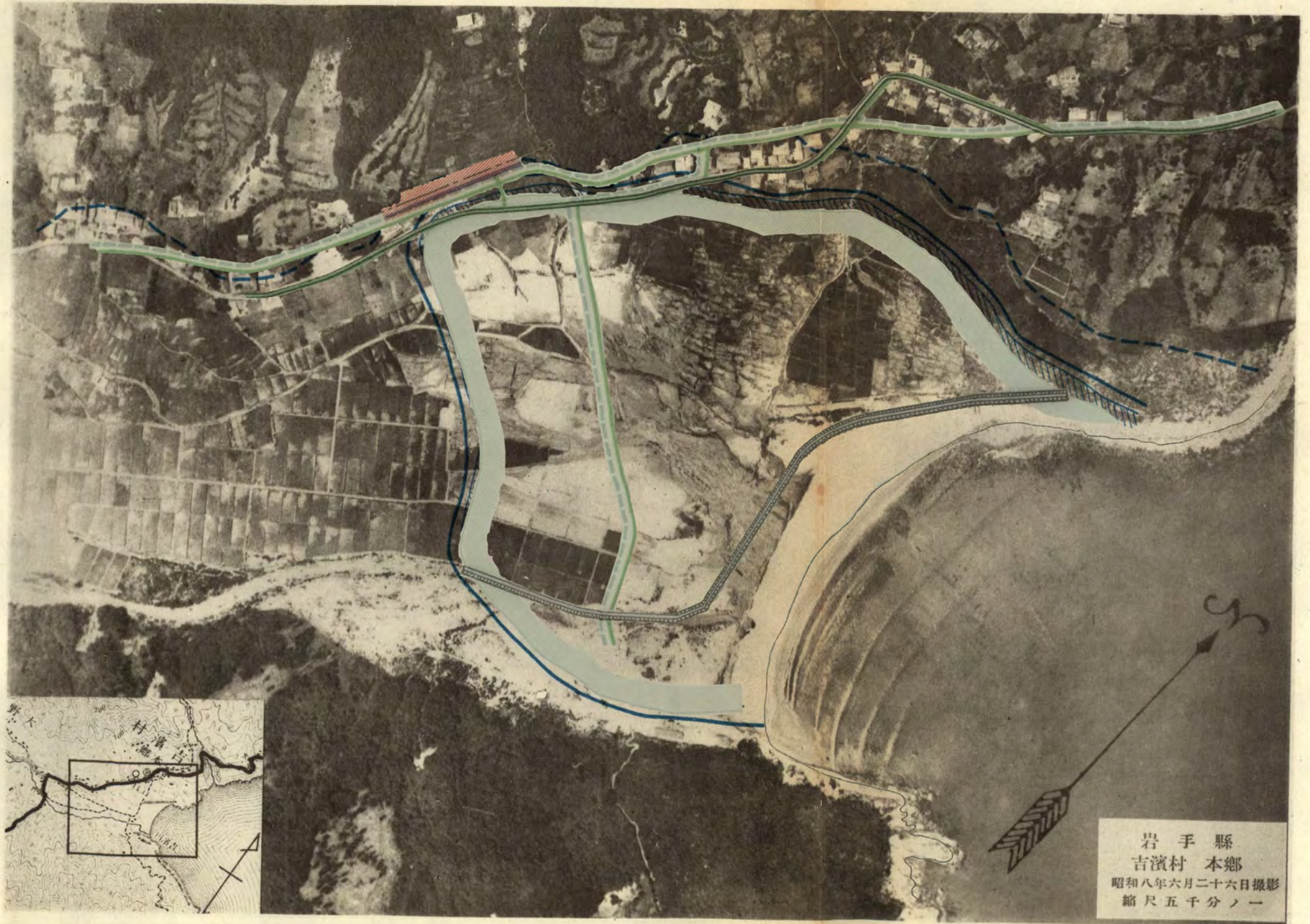


第 二 十 四 圖



岩手縣
吉濱村 本郷
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

第 二 十 四 圖



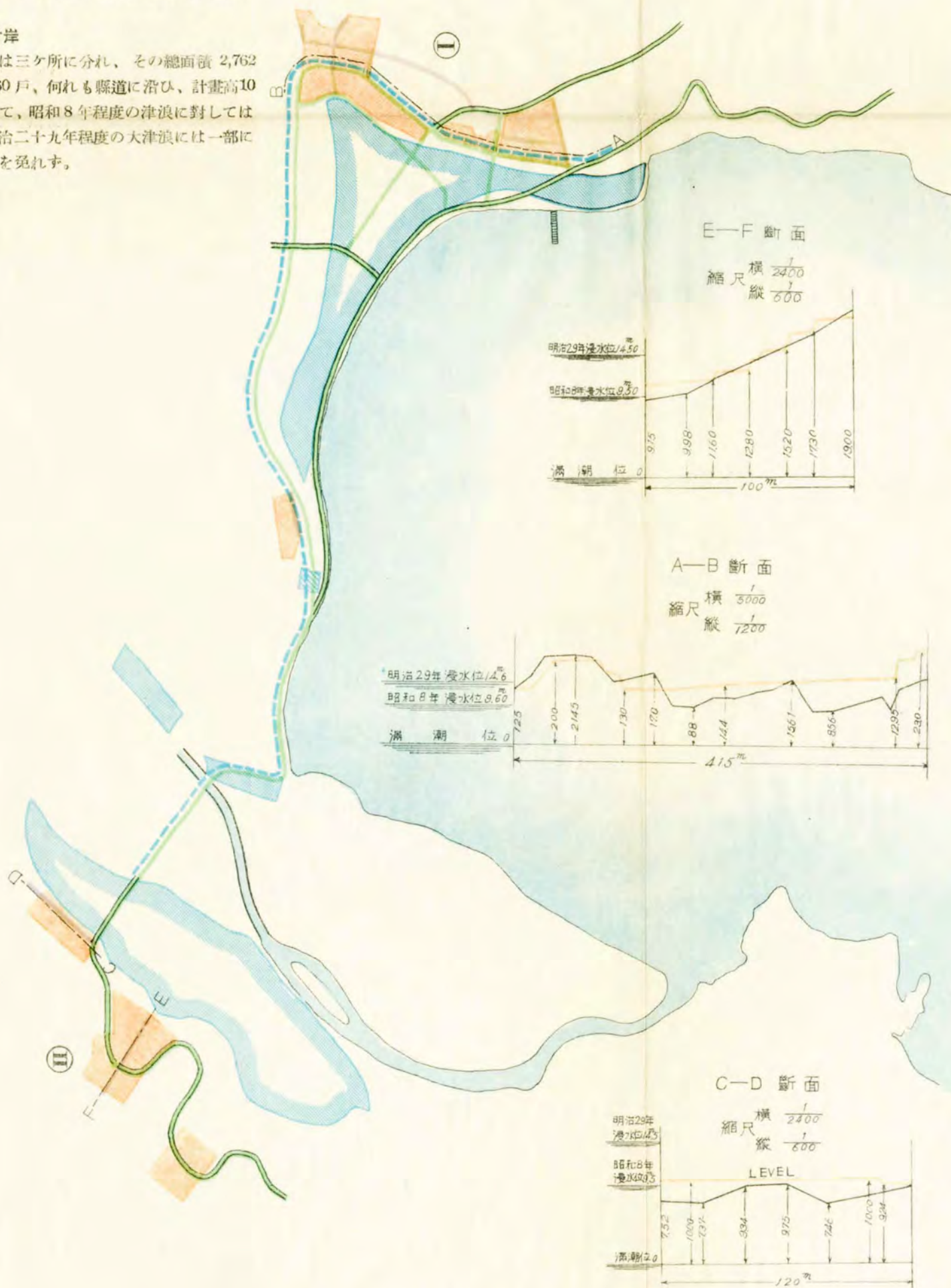
岩手縣
吉濱村 本郷
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

I.岩手縣唐丹村小白濱

明治二十九年災害復興より現在に至る迄の経過は本文 IV 中に述べたる處にして、既往の苦き経験に鑑み、完全なる高地移轉の必要を痛感せるの地である。明治二十九年波高満潮面上 14.6 米、昭和八年 9.6 米なる本部落に於ては、13 米以上の高さに付替新設さる可き縣道に沿ひ、面積 4,168 坪の敷地を造成し、85 戸を收容す。海岸に接する舊部落地は之を共同作業場とし、新舊の住宅地は之を圍る高地に配置さるる事となる。

II.岩手縣唐丹村片岸

住宅適地造成地は三ヶ所に分れ、その總面積 2,762 坪、收容戸數計 60 戸、何れも縣道に沿ひ、計畫高 10 米以上なるを以て、昭和 8 年程度の津浪に對しては安全なるも、明治二十九年程度の大津浪には一部に於て多少の浸水を免れず。

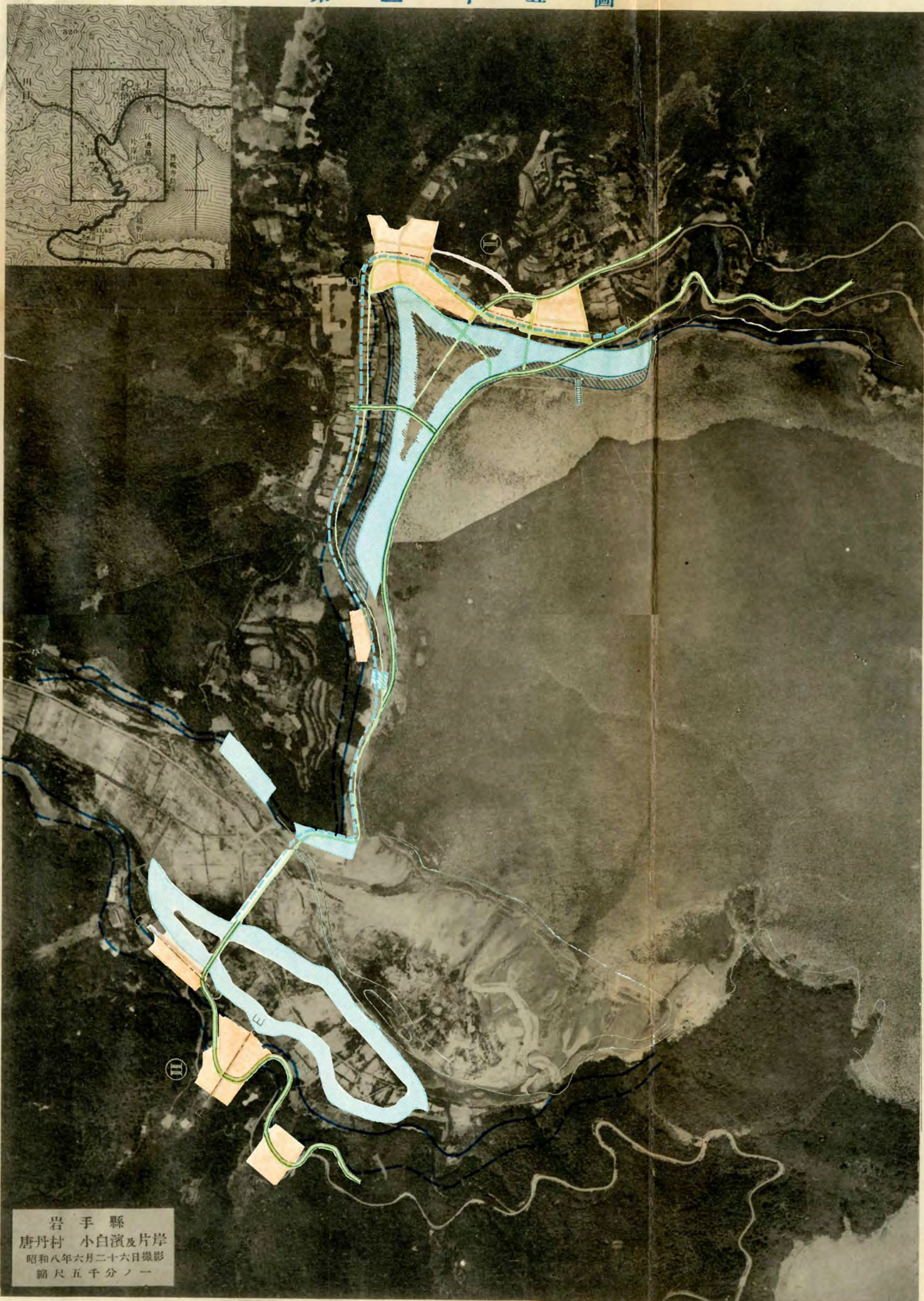


第 二 十 五 圖

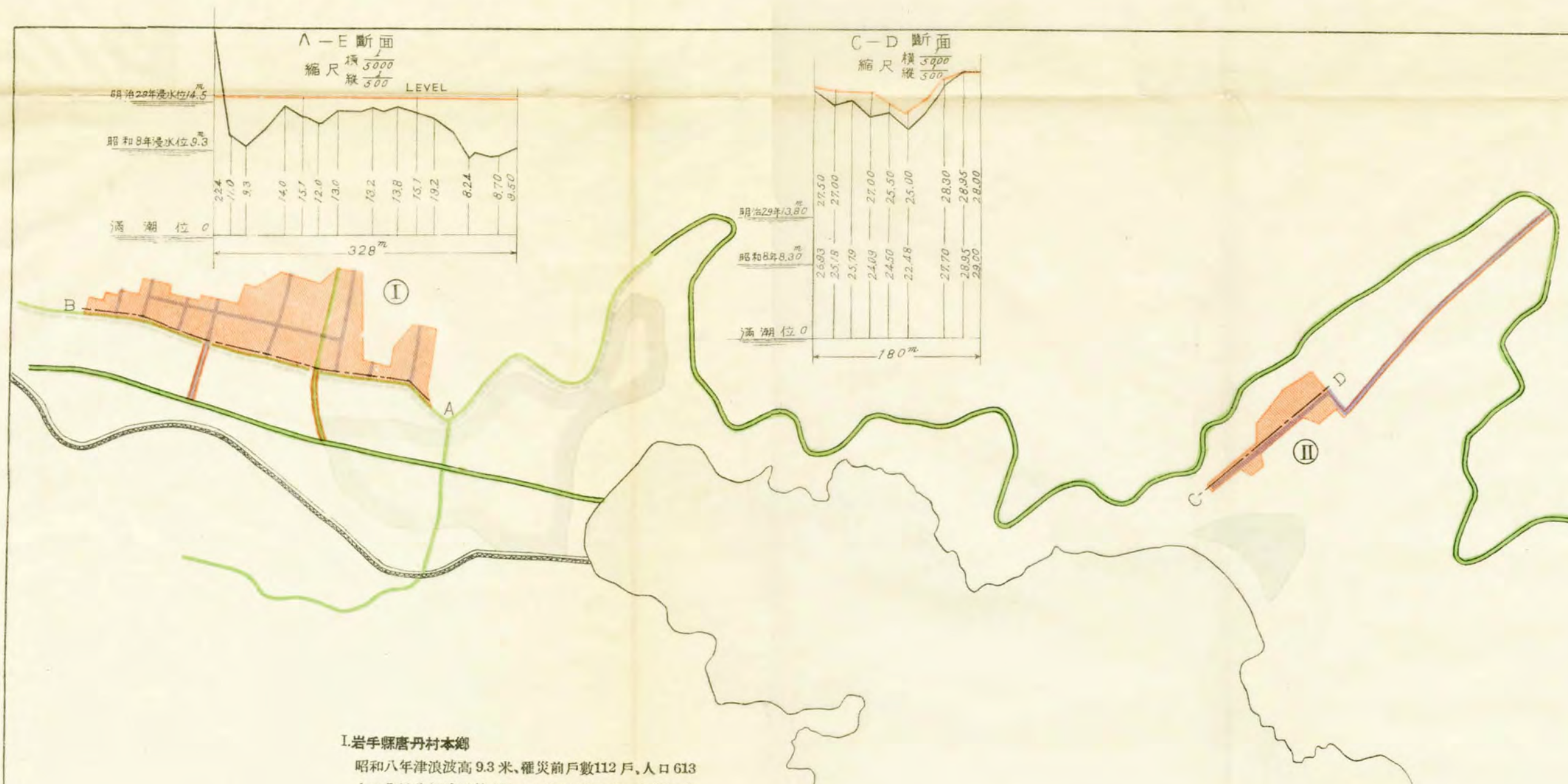


岩 手 縣
唐丹村 小白濱及片岸
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

第二十五圖



岩手縣
唐丹村 小白濱及片岸
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



I. 岩手縣唐丹村本郷

昭和八年津浪波高 9.3 米、罹災前戸數 112 戸、人口 613 人の内流失倒壊戸數 101 戸、死亡 326 名、負傷 29 名を出し全滅に瀕せる部落なり。明治二十九年津浪(波高 14.5 米)に際しては出漁者數十名を除く外僅かに 4 人生き残りりと云ふ。

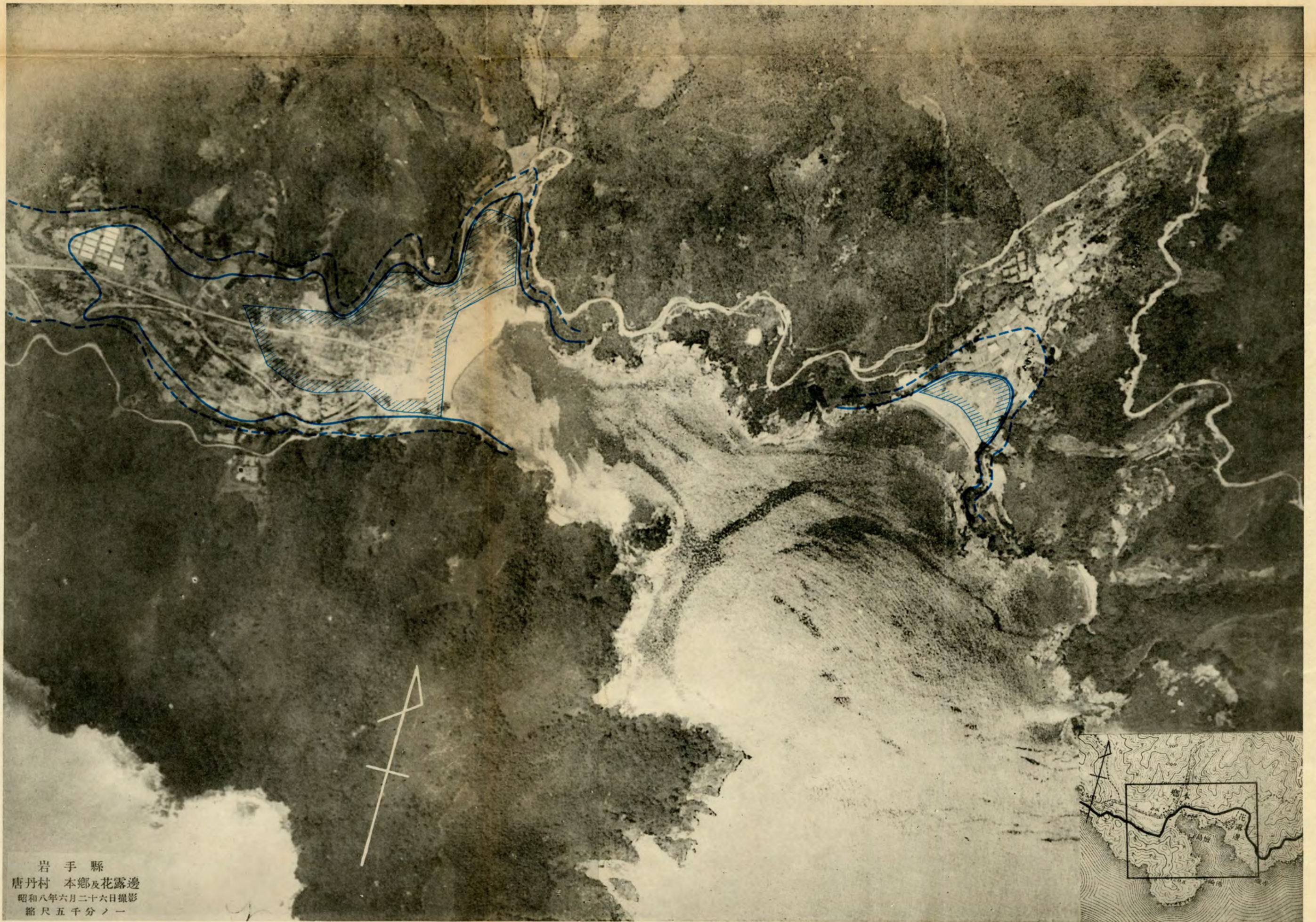
本部落に於ける防浪対策は勿論高地移轉の外なし、即ち縣道を明治二十九年浸水線以上に付け替へ、之に沿ふ南面の山腹に階段式敷地を造成す、其の面積 5,637 坪、收容戸數 101 戸、二條の連絡道路にて海岸との連絡に供す。

II. 岩手縣唐丹村花露邊

部落北方に接する高地を切盛地均し 1,425 坪の敷地を造成し、20 戸を移轉せしむ、計畫高 25 米以上(明治二十九年津浪高 13.8 米)とす。

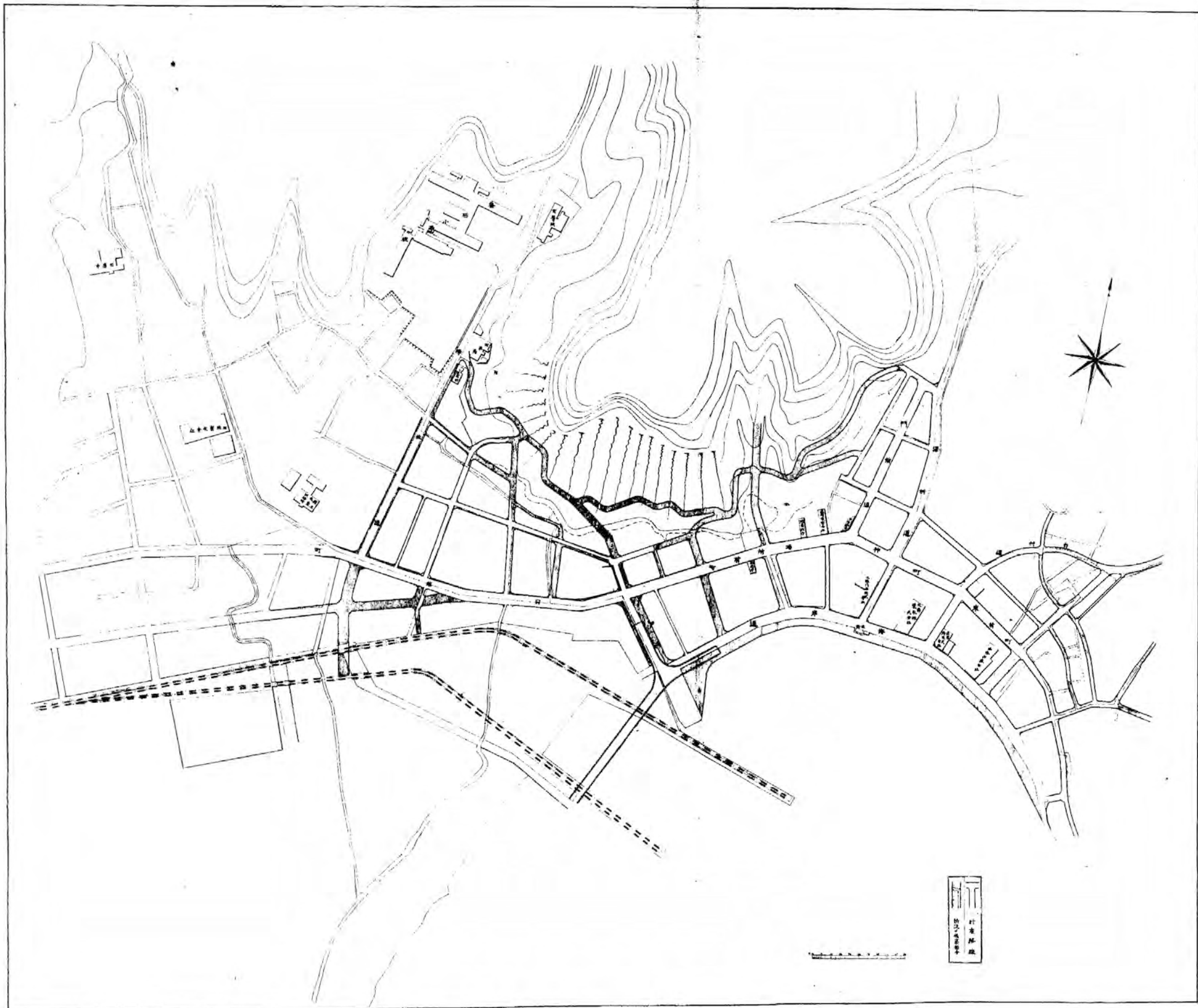
本部落と縣道とは從來連絡を欠きたるを以て、幅員 2 米、平均勾配 1/8 の連絡道路を設く、

第二十圖

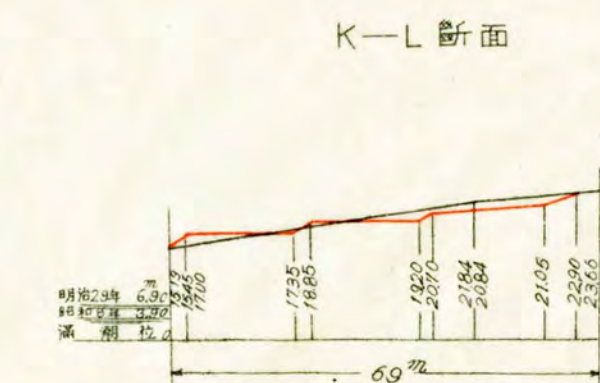
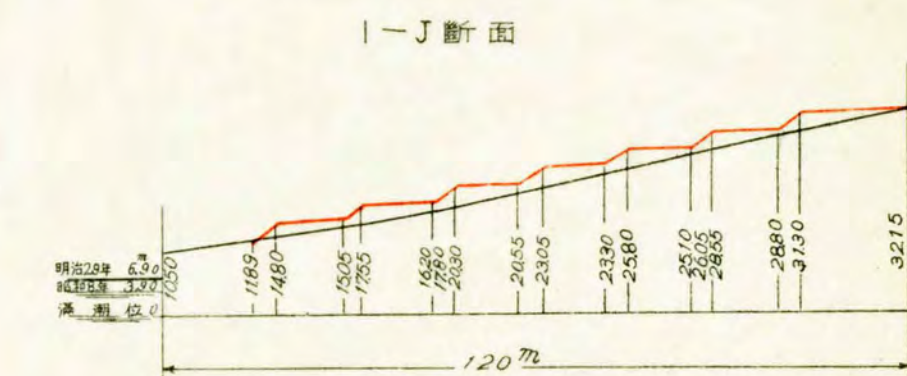
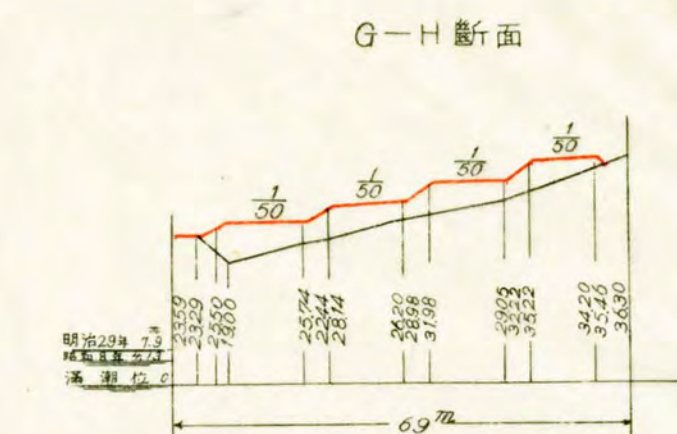
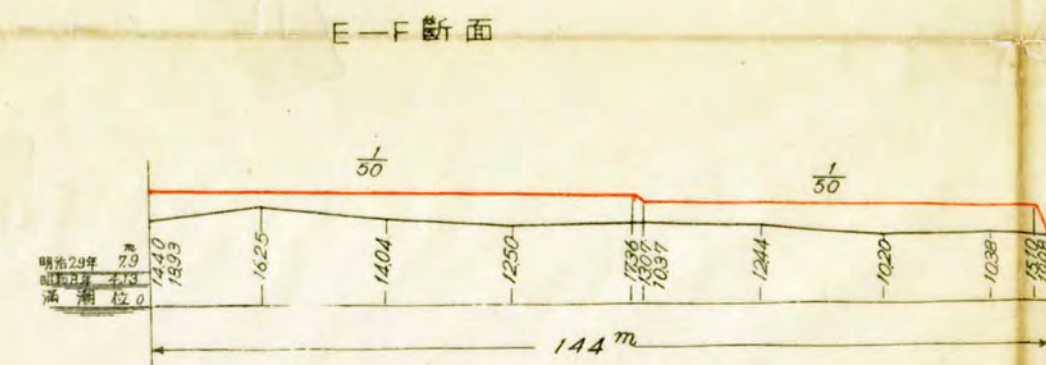
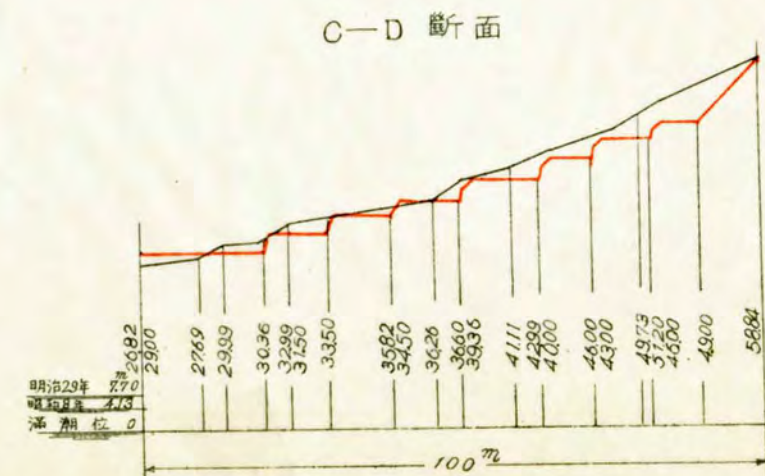
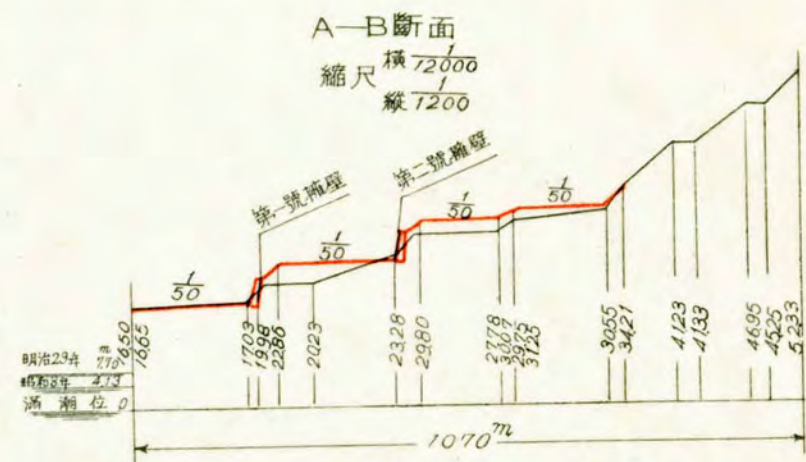


岩手縣
唐丹村 本郷及花露邊
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一





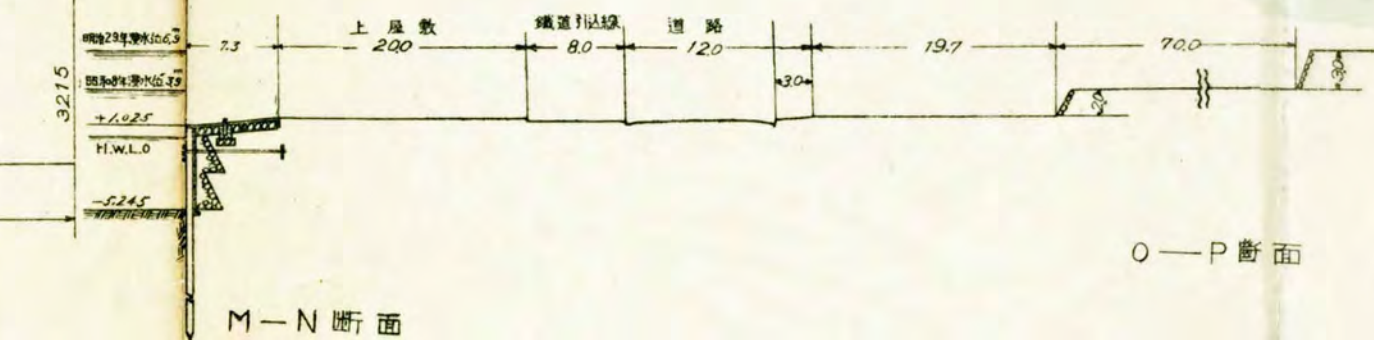
釜石町復興計畫圖



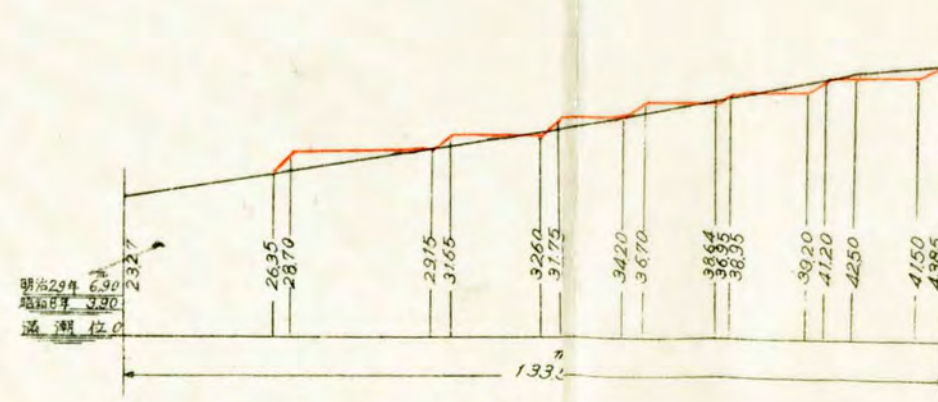
岩手縣釜石町

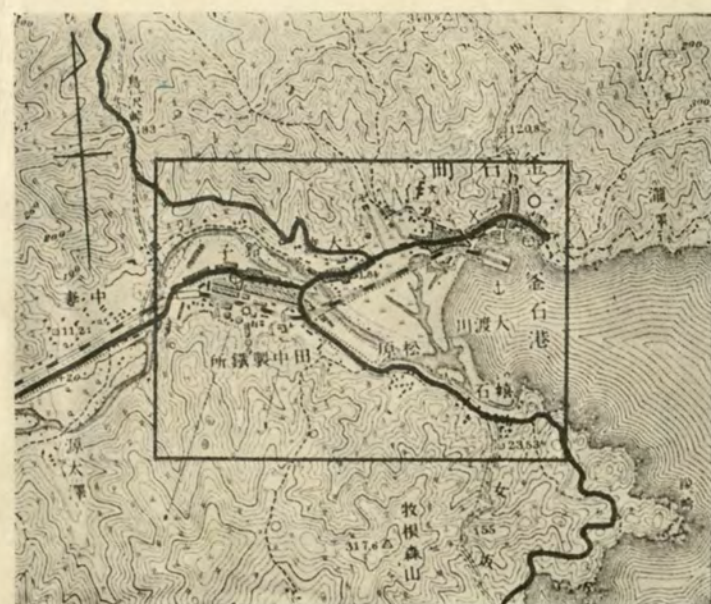
釜石港は釜石鎮山の隆盛と三陸漁業の中心地たるに依り、人口三萬余に及び、岩手縣第二の都市なり。釜石港は釜石灣内に於てU字形をなし、波高、及衝撃力共比較的小なるも、港灣に直接する大都市にして津波に際し火災を併發したる爲、罹災額三陸地方第一に上り、被害戸數 1,623 戸に及ぶ。然れ共本町の經濟的活動は港灣機能と分離し得ざるを以て、其の復興計畫は現地復興の外なし、即街路組織の整理擴充を計り、家屋の流失倒壊區域に於ては直ちに街路復舊事業を施行し、海岸に接するを要せざる住宅は之を後方山腹の造成敷地へ移轉せしめ、港灣地帯には防浪建築を築造せしむる方針とす、南方築港工事に屬する部分の後方地帯はQ-R断面に示す如き地盤を形成せしめ、舊市街部分との連絡は幅員9米程度の高架道路に依る。從て釜石灣に正面する地帯は高き地盤並に高架道路構造に依り津浪を防ぎ、舊市街部分は防浪建築に依り後方家屋の被害を減少せしめ得るものとす。後方高台に於ける敷地造成面積合計4,032坪にして 94 戸を收容す。

Q-R断面
縮尺 1/600

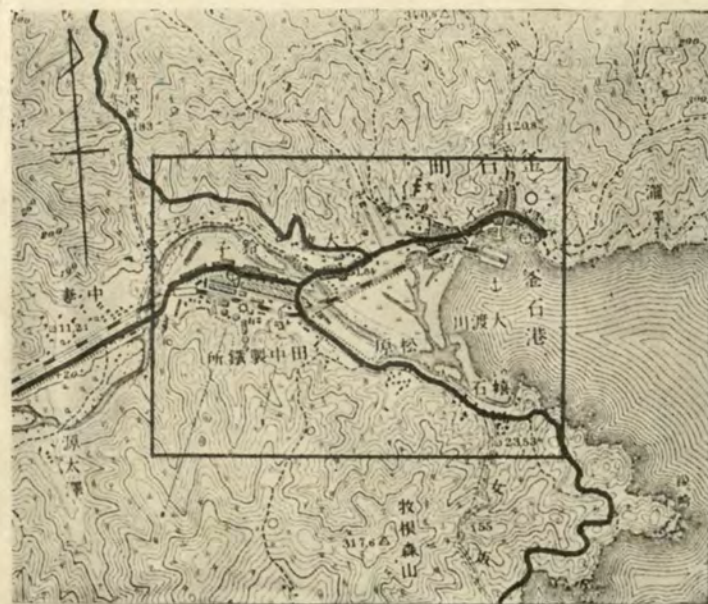


O-P断面



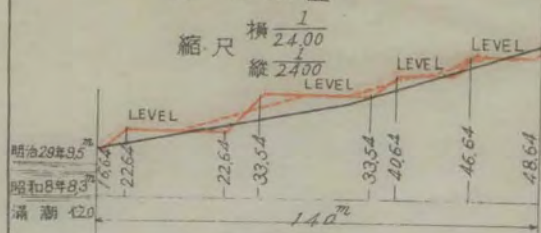


岩手縣
釜石町
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

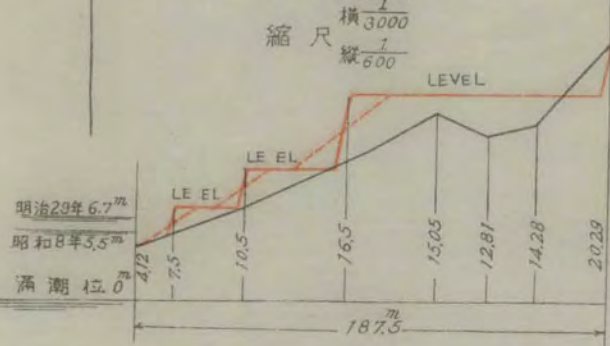


岩手縣
釜石町
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

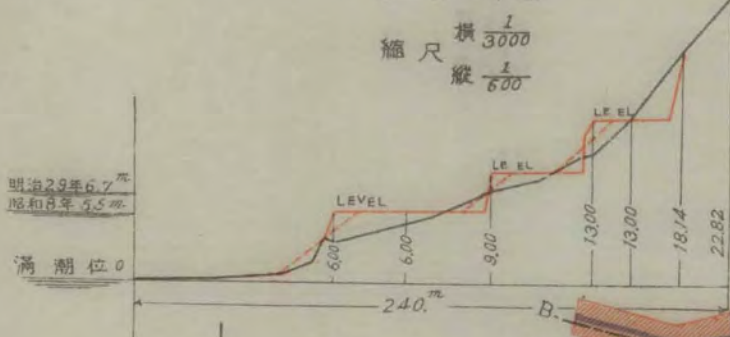
A-B 断面



E-F 断面



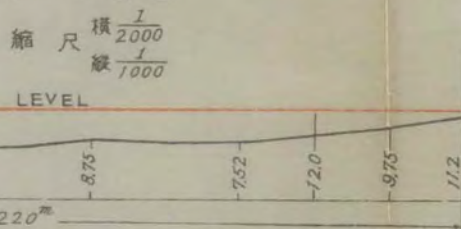
G-H 断面



岩手縣鶯往居村兩石

府縣道の左右山間高地を選定し、明治二十九年波高6.70米以上の高さに敷地造成を行ふ、敷地面積合計3,391坪、收容戸數93戸なり。造成敷地と縣道とは連絡道路を以て結ぶ。

C-D 断面

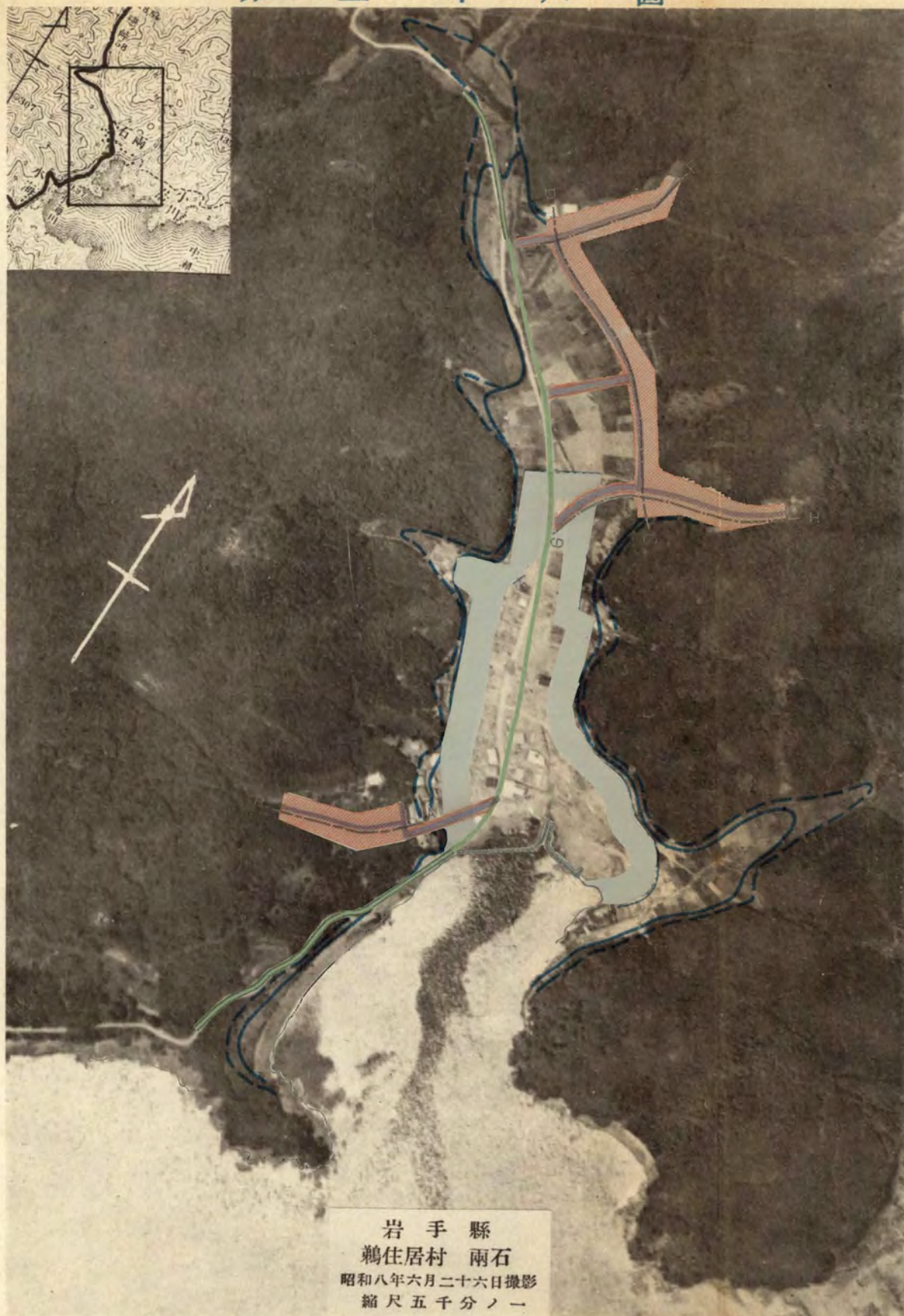


第 二 十 八 圖



岩 手 縣
鶉住居村 兩石
昭和八年六月二十六日撮影
縮 尺 五 千 分 ノ 一

第 二 十 八 圖



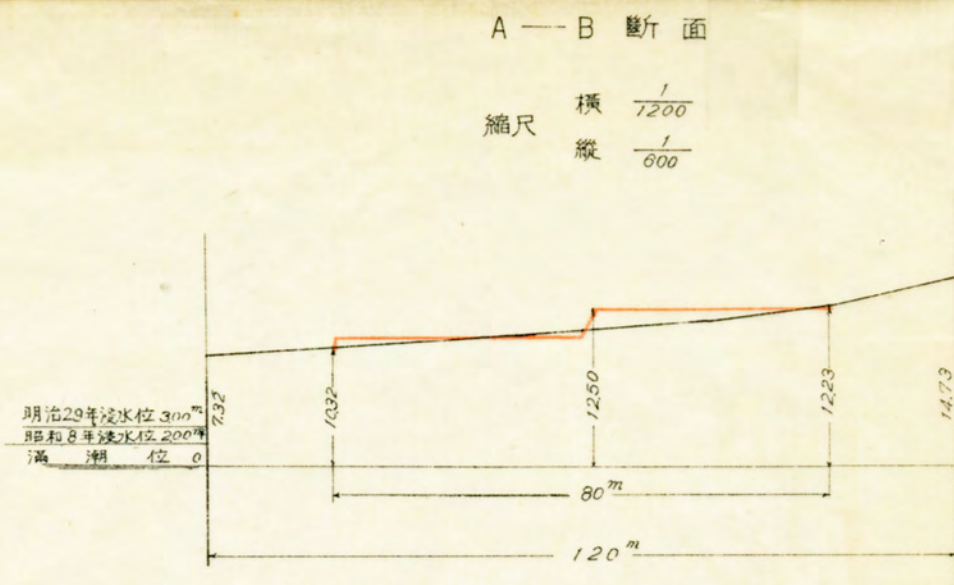
岩手縣
鵜住居村 兩石
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一

第二十九圖



岩手縣
鶯住居村 箱崎及根崎
昭和八年八月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



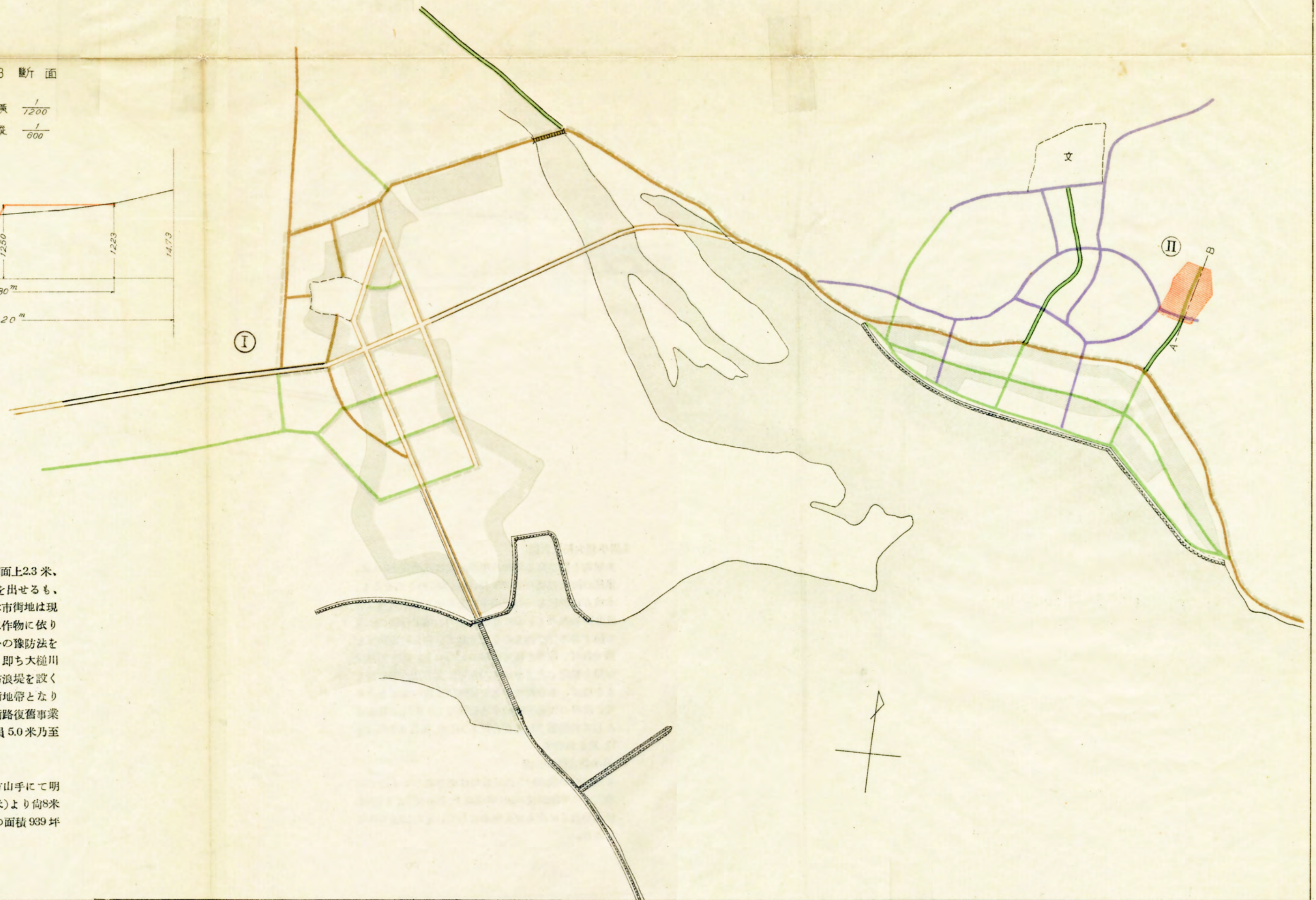


I. 岩手縣大槌町大槌

大槌町を襲ひたる昭和八年津浪高は満潮面上2.3米、家屋の流失倒壊戸數222戸、浸水135戸を出せるも、本地方に於ける一の經濟中樞をなせる本市街地は現地復興の外なく、幸に津浪の勢力土木工作物に依りて防ぎ得る程度のもとなるを以て、充分の豫防法を講ずれば、被害を極度に減少し得べし。即ち大槌川右岸を整理し之より小槌川左岸に至る防浪堤を設くるを得ば、本市街地を挟む兩河川は緩衝地帯となりて、津浪の災害を軽減するを得可し。街路復舊事業として路線數11、延長合計1,367米、幅員5.0米乃至11米を施行す。

II. 岩手縣大槌町安渡

集團移轉戸數20戸、造成敷地は部落北方山手にて明治二十九年津浪浸水位(満潮面上3.00米)より尙8米以上の高さに在る安全地帯にして、その面積939坪である。





岩手縣
大槌町 大槌及安渡
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



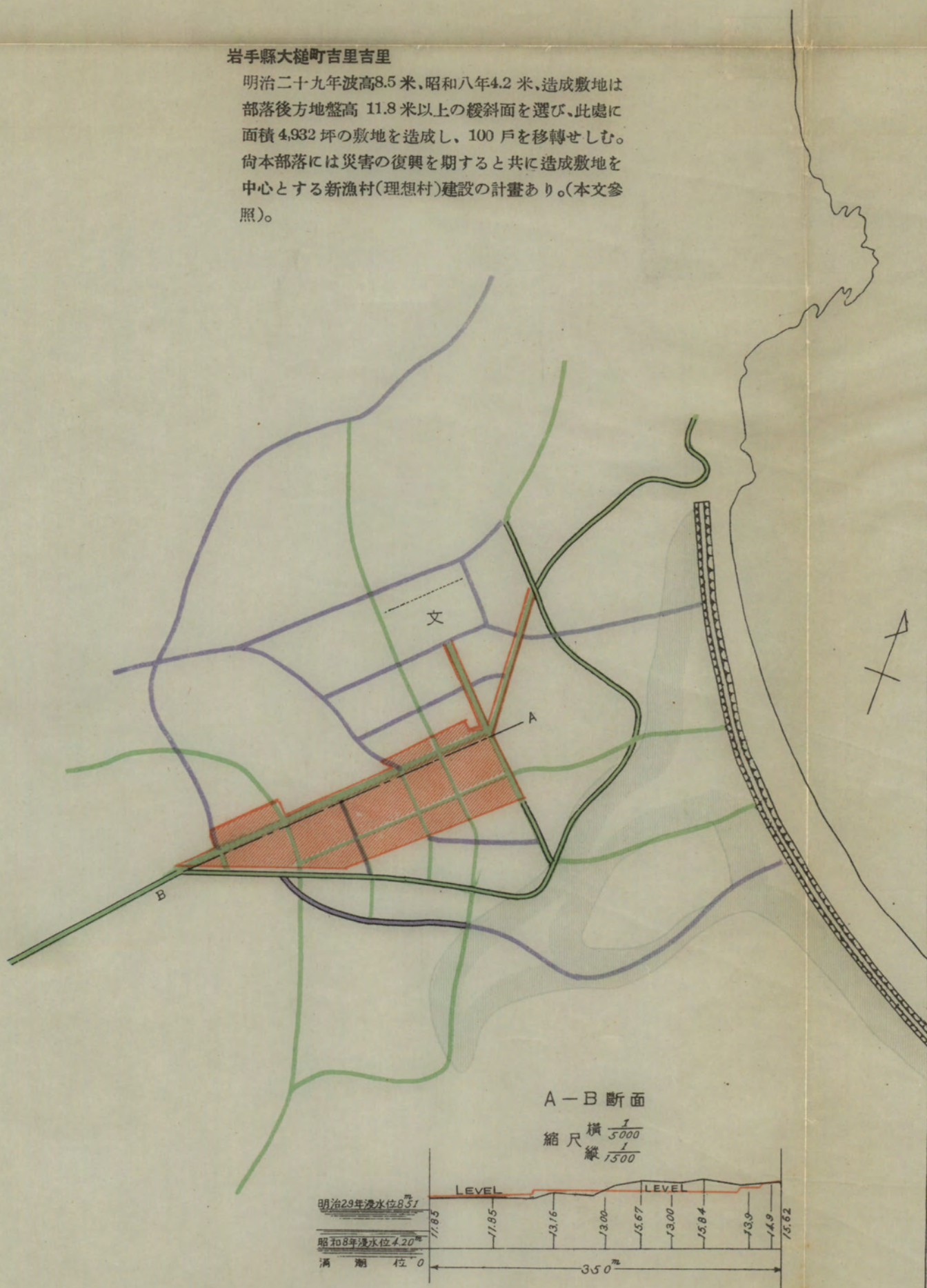


岩手縣
大槌町 大槌及安渡
昭和八年六月二十六日撮影
縮尺五千分ノ一



岩手縣大槌町吉里吉里

明治二十九年波高8.5米、昭和八年4.2米、造成敷地は部落後方地盤高 11.8 米以上の緩斜面を選び、此處に面積 4,932 坪の敷地を造成し、100 戸を移轉せしむ。尙本部落には災害の復興を期すると共に造成敷地を中心とする新漁村(理想村)建設の計畫あり。(本文参照)。



第三十一圖



岩手縣
大槌町 吉里吉里
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

第三十一圖



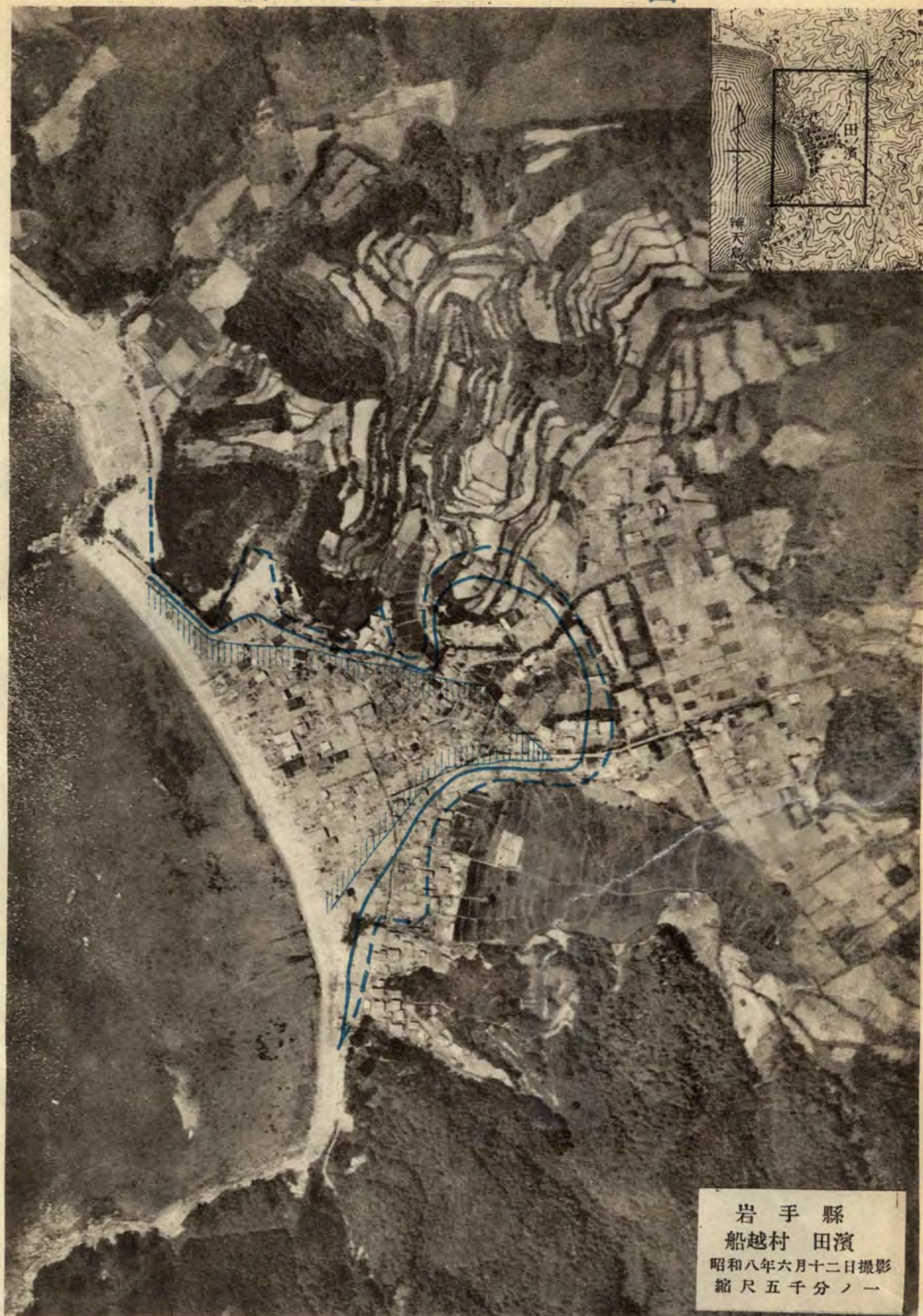
岩手縣
大槌町 吉里吉里
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

岩手縣船越村田ノ濱

本文 IV に記述せる如く本部落は明治二十九年罹災後、高地移轉に失敗せるに鑑み全部落移轉を敢行す、被害戸數 196 戸に對し移轉戸數 240 戸。新部落地は海岸より約 300 米を隔たる高台にして地形に順應し面積 12,197 坪の扇形市街地を展開せしめ、三條の連絡道路に依りて海岸との交通に便す、明治二十九年波高 11.0 米、昭和八年 9.0 米に達せるを以て計畫高は 14.7 米以上たらしむ。

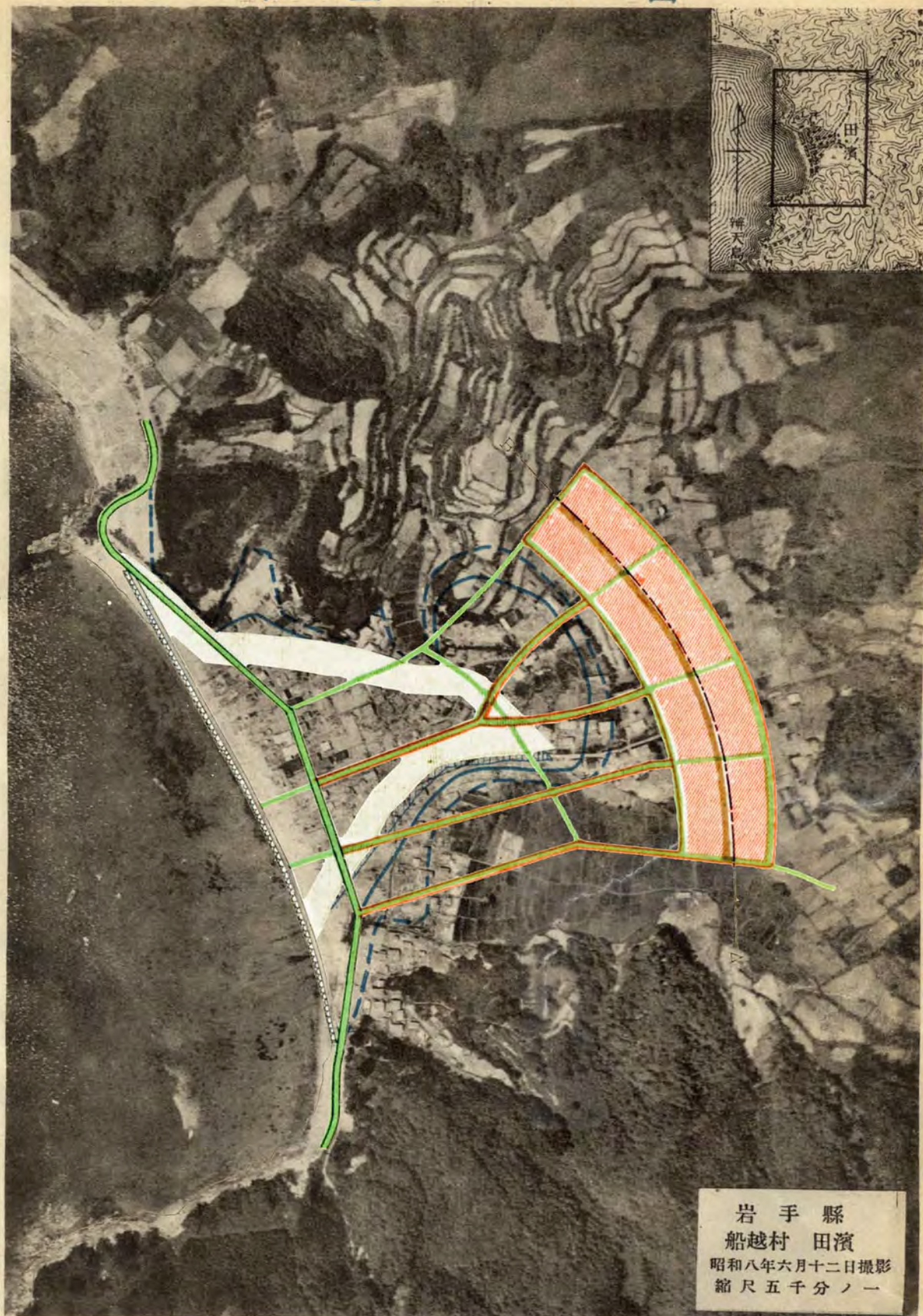


第三十二圖



岩手縣
船越村 田濱
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

第三十二圖



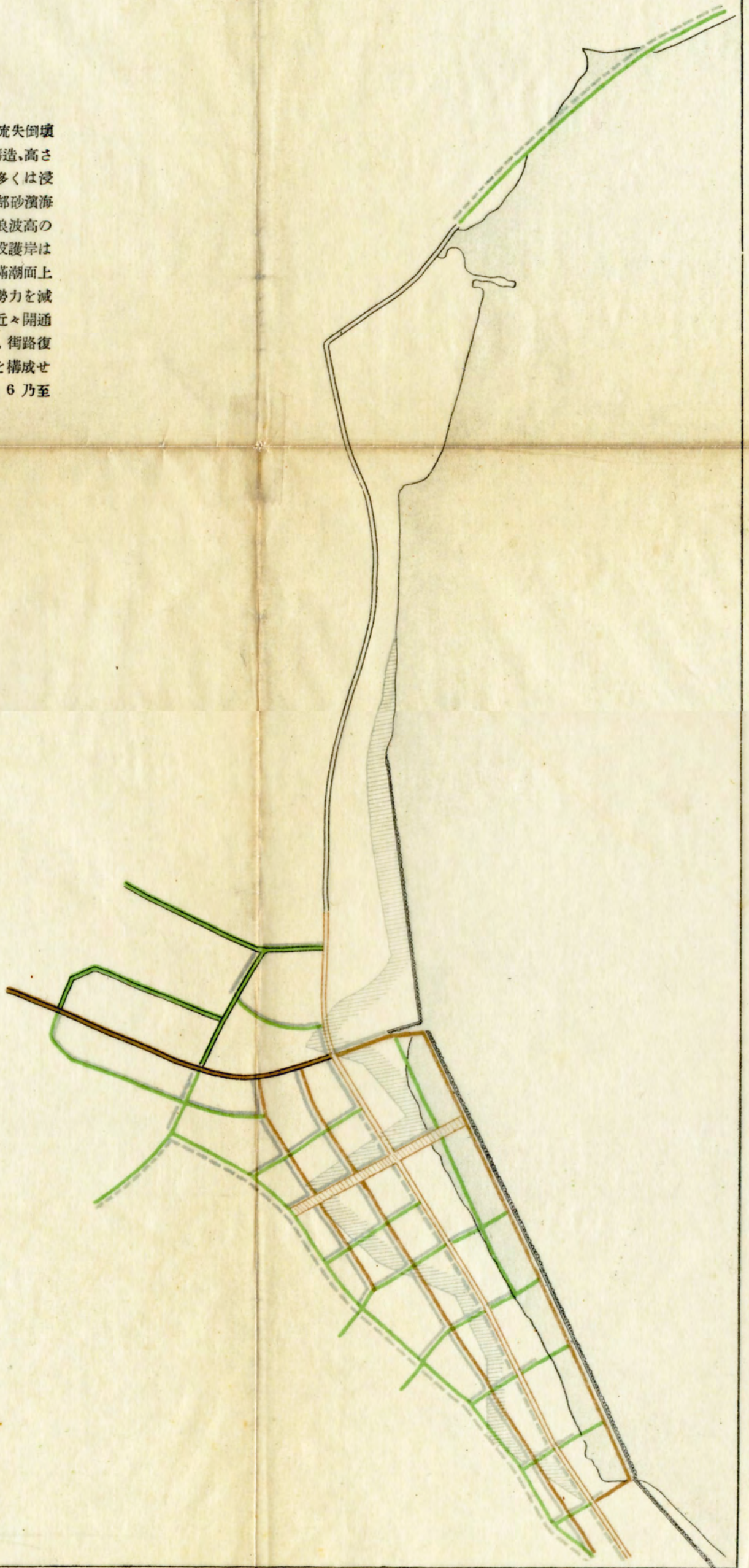
岩手縣
船越村 田濱
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一



岩手縣
船越村 船越
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

岩手縣山田町

山田町に於ける昭和八年津浪高 4.75 米、流失倒壊戸數 406 戸、北部既設護岸ある部分は其の構造、高さ共に不完全なるに拘らず被害僅少にして、多くは浸水の程度に止り、流失、倒壊せるは殆ど南部砂濱海岸に面し護岸なき部分である、山田港は津浪波高の高からざる山田灣内に位置するを以て、既設護岸は之を補強嵩上し、護岸なき部分は海面埋立、満潮面上 2 米の護岸を築造する事に依りて、津浪の勢力を減殺し得るものとす。家屋の流失、倒壊區域は近々開通せんとする山田驛に接する區域なるを以て、街路復舊と同時に、街衢の整理を行ひ、新市街地を構成せしめんとす。その街路復舊路線數 15、幅員 6 乃至 15 米、總延長 2,183 米に達す。



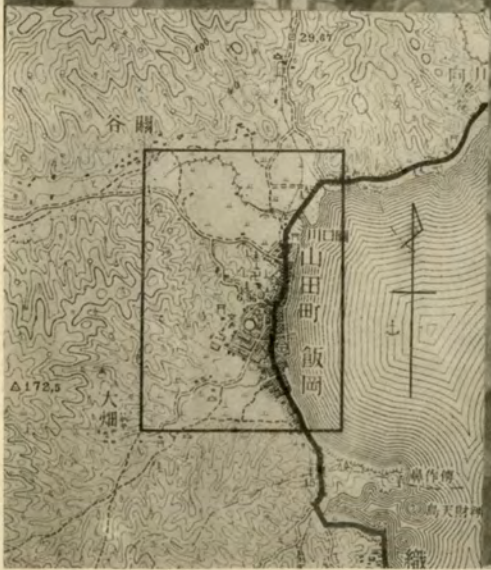


岩手縣
山田町
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一





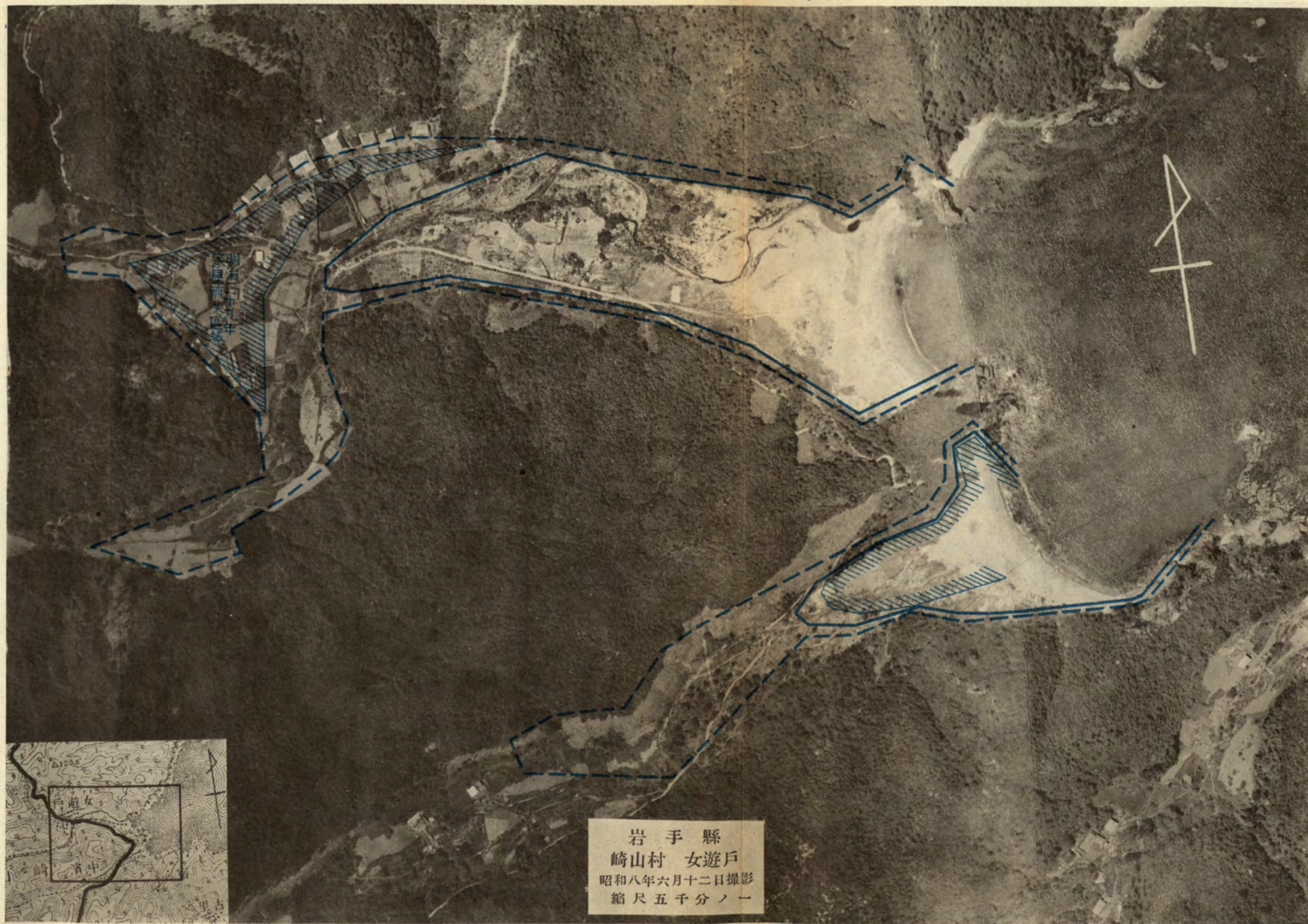
岩手縣
山田町
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一





田老村復興計畫圖

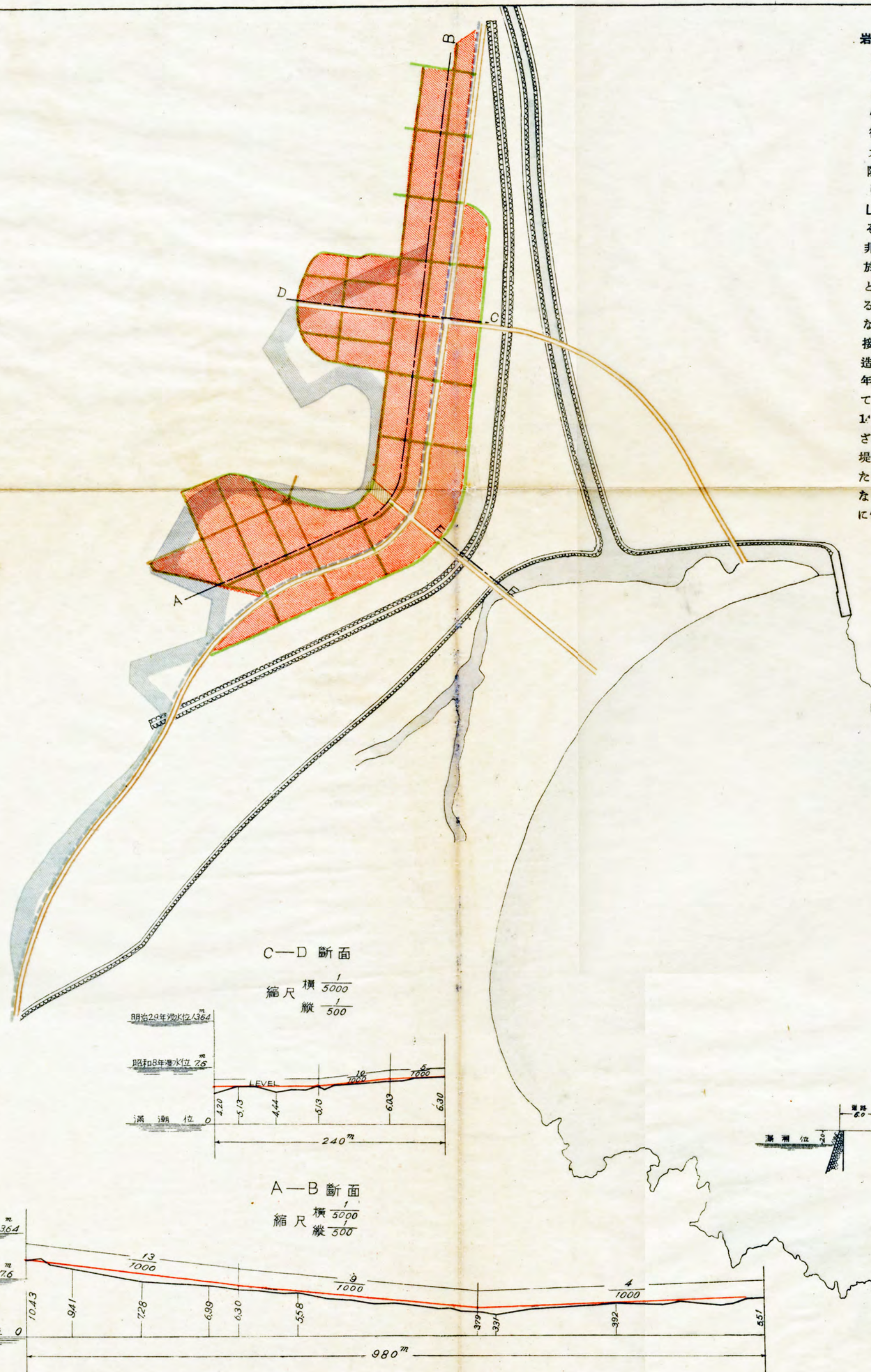
第三十五圖



岩手縣
崎山村 女遊戸
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

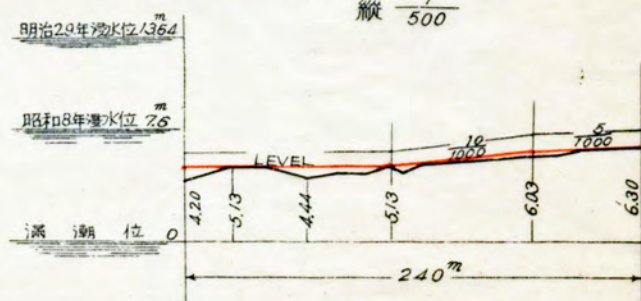
岩手縣田老村

本部落附近に於ける昭和八年津浪高満潮面上 7.6 米田老、乙部兩部落の罹災前戸數 513 戸、人口 2,950 人の内、流失倒壊戸數 503 戸、死亡行衛不明 889 人、負傷者 122 人計 1,011 人を出し、本地方の一中心市街地は全滅に歸し、慘害三陸第一に位す。明治二十九年に於ては 13.64 米の津浪を被り、全滅に歸せしも防浪對策の講ぜらるるものなく、再びその災害を繰り返せり。即ち田老灣の如く、直接太平洋に開口せる L 字形灣に在りては津浪の勢力大なる可きを以て、その灣奥に位する部落は充分の防浪對策を施するに非ざれば常に全滅の脅威に漂さる。斯の如き部落に於ける防浪對策の萬全なるものは高地移轉の外なしと雖も、500 戸以上を收容し、市街地を構成せしめ得るが如き高地を選定し得ざるを以て、現地復興をなす外途なし。即ち新市街地は之を可及的山地に近接せしめ、耕地整理法を適用して、區劃整理的敷地造成を行はしむ。然れ共この造成敷地は明治二十九年浸水位は勿論昭和八年の夫よりも低位に在り、従て、その市街地を圍繞して現地盤上 12 米満潮位上 1 米の防浪堤を圍らす。防浪堤は津浪に抵抗強からざる方向に築設し、舊市街地の東側を流るゝ小川を堤外に付け替へ、西南方田老川筋と併せて緩衝地帯たらしむ。田老川口は川筋常に遊動する性質のものなるを以て、市街地側に護岸を設け津浪勢力の減殺に備ふ。



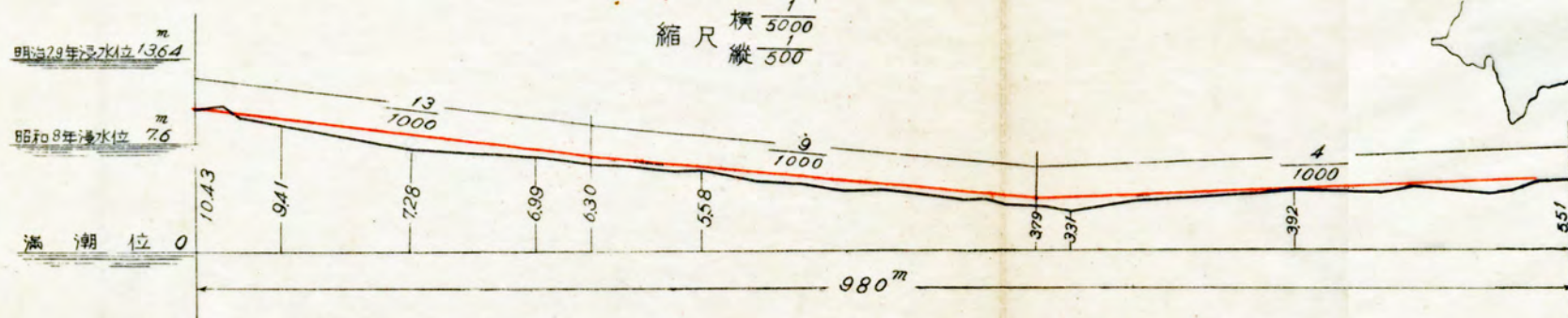
C—D 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{500}$



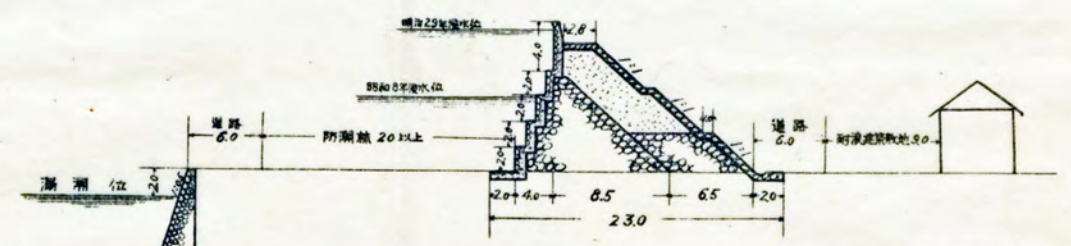
A—B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{500}$



E—F 断面

縮尺 $\frac{1}{600}$





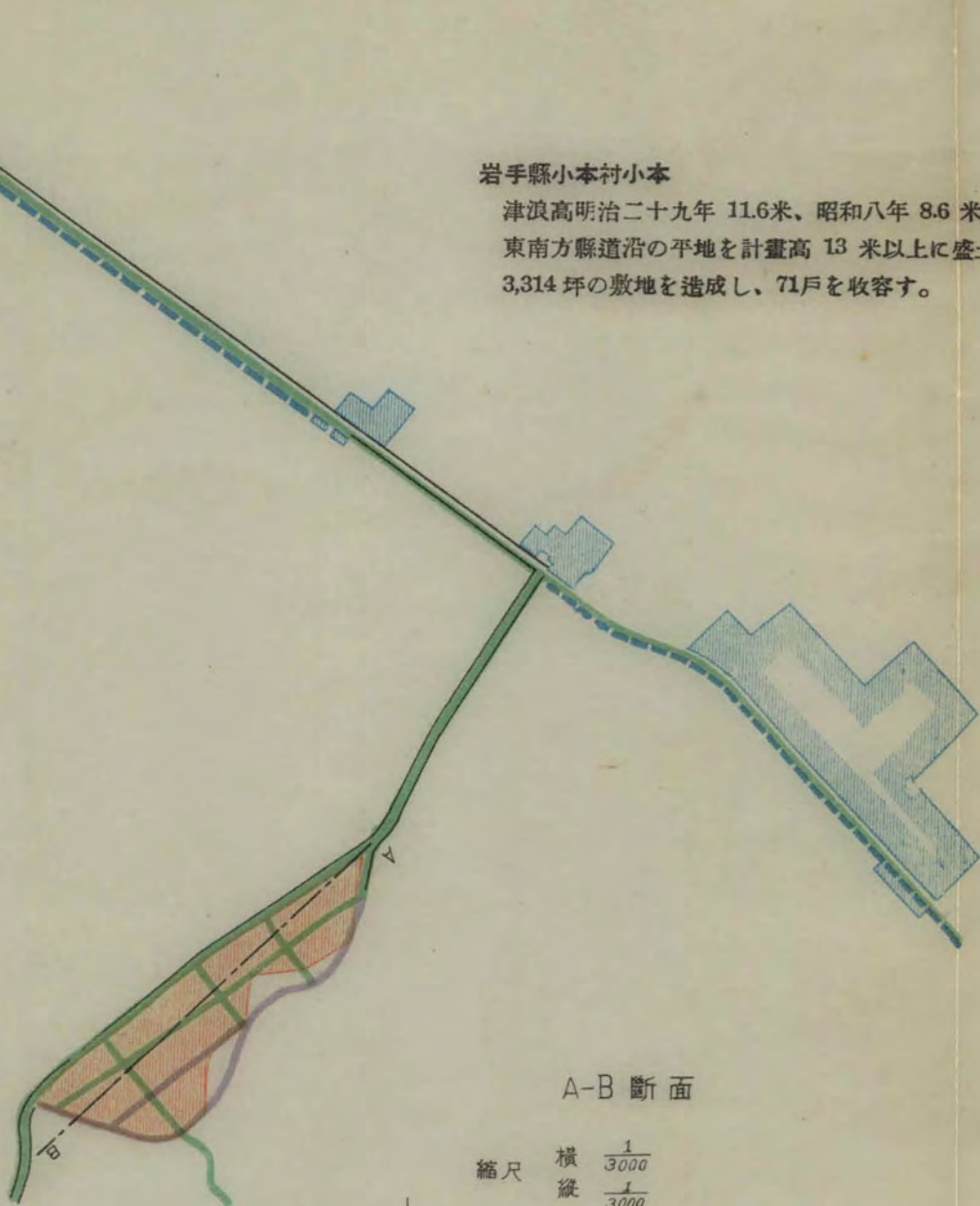
岩手縣
田老村
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一



岩手縣
田老村
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

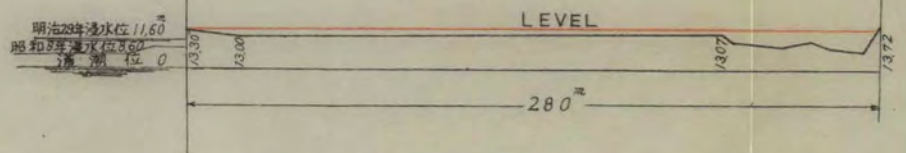
岩手縣小本村小本

津浪高明治二十九年 11.6米、昭和八年 8.6 米、部落
東南方縣道沿の平地を計畫高 13 米以上に盛土し、
3,314 坪の敷地を造成し、71戸を收容す。



A-B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{3000}$
縦 $\frac{1}{3000}$



第三十七圖



岩手縣
小本村 小本
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

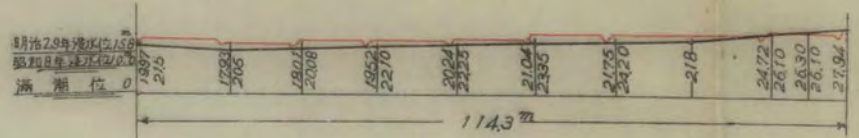
第三十七圖



岩手縣
小本村 小本
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

A—B 断面

縮尺 縦 $\frac{1}{3000}$
横 $\frac{1}{1200}$

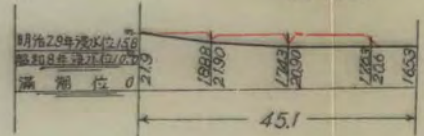


岩手縣田野畑村平井賀

明治二十九年津浪高15.8米、昭和八年10米、住宅適地は之を二ヶ所に分ち、一は舊部落地北方斜面を切り均して17戸を收容し、他は舊部落より西北方約350米を隔てたる山間の平地部(部落共有地)を選定し、30戸を移轉せしむ、但し後者は地盤の高度比較的低きを以て、明治二十九年程度の大津浪に際しては浸水をまぬかれず、之を避くる爲防浪堤を築造するものとす。兩者の總面積 3,179 坪。

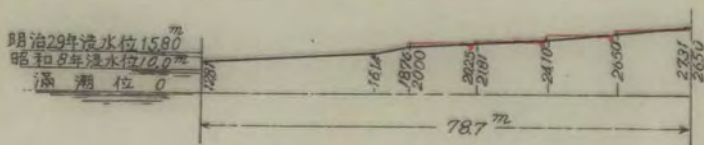
C—D 断面

縮尺 縦 $\frac{1}{3000}$
横 $\frac{1}{1200}$



E—F 断面

縮尺 縦 $\frac{1}{3000}$
横 $\frac{1}{1200}$



第三十八圖



岩手縣
田野畑村 平井賀及羅賀
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

第三十八圖



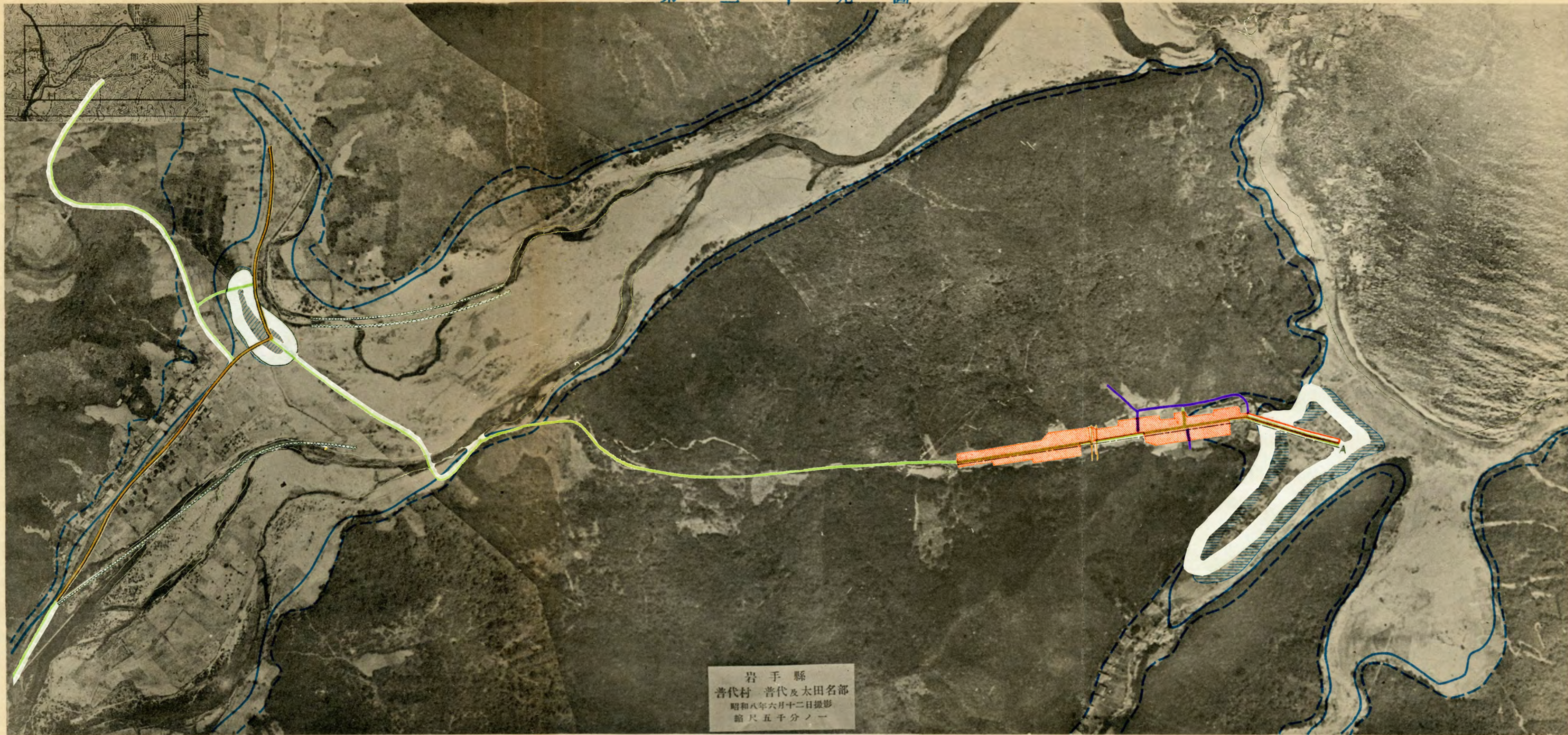
岩手縣
田野畑村 平井賀及羅賀
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

第三十九圖

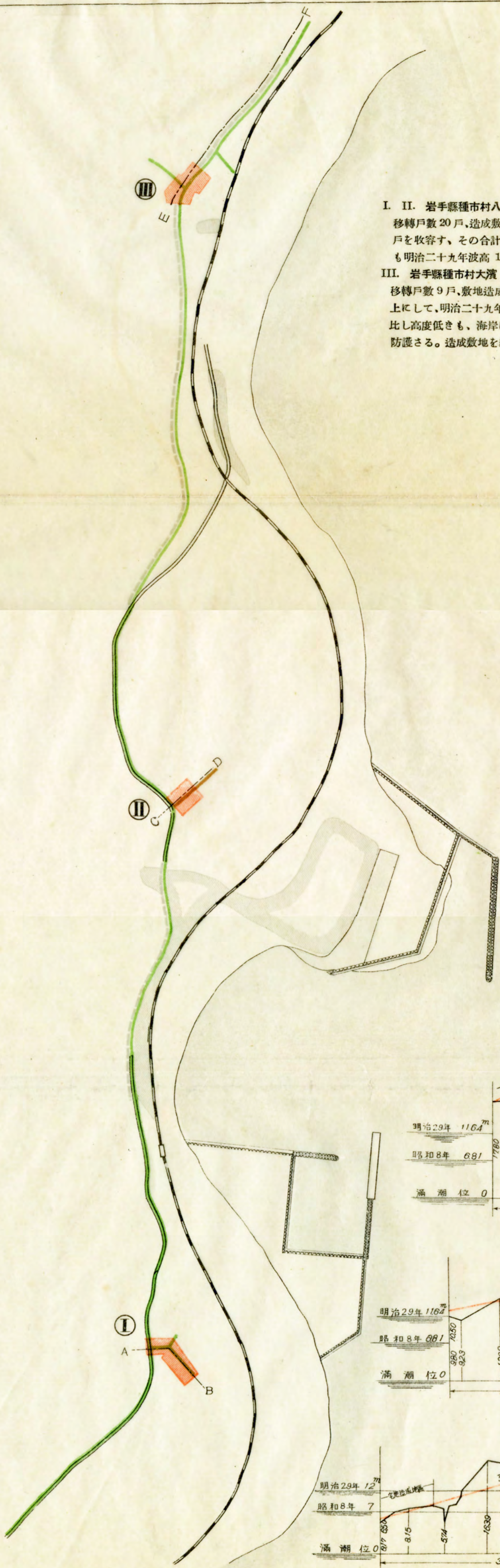


岩手縣
普代村 普代及太田名部
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一

第三十九圖



岩手縣
普代村 普代及太田名部
昭和八年六月十二日撮影
縮尺五千分ノ一



I. II. 岩手縣種市村八木

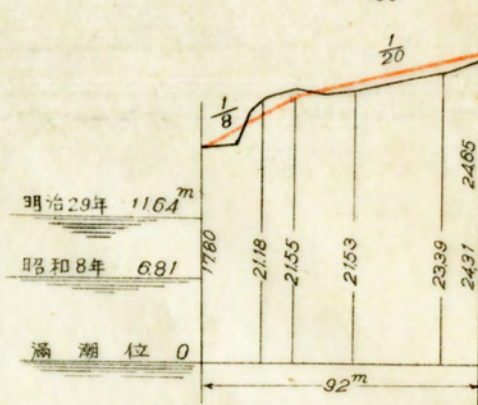
移轉戸數 20 戸、造成敷地は之を二ヶ所に分ち各々 10 戸を收容す、その合計面積 1,174 坪、計畫高は何れも明治二十九年波高 11.64 米以上とす。

III. 岩手縣種市村大濱

移轉戸數 9 戸、敷地造成面積 663 坪、計畫高 6.5 米以上にして、明治二十九年波高 12 米昭和八年 7 米に比し高度低きも、海岸に面する鐵道線路築堤に依り防護さる。造成敷地を縦貫して縣道付替線あり。

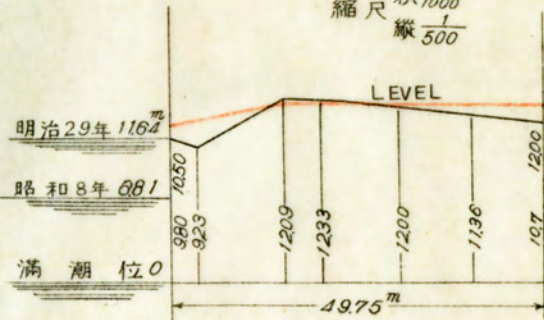
A—B 断面

縮尺 横 $\frac{1}{2500}$
縦 $\frac{1}{600}$



C—D 断面

縮尺 横 $\frac{1}{1000}$
縦 $\frac{1}{500}$



E—F 断面

縮尺 横 $\frac{1}{5000}$
縦 $\frac{1}{600}$

